01999-B2267

取扱説明書

ご使用の前によくお読みください

このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、ムーヴ コンテの正しい取り扱いかたや、
お手入れの方法などについて説明しているほか、
車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、
また、万一のときの処置についても記載しています。
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、
ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

⚠警告	**警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。**
⚠注意	**注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。**
アドバイス	**お車のために守っていただきたい事項です。**
オプション/グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- メモリー ナビゲーション システムを装着された方は、別冊の取扱説明書も併せてご覧ください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のダイハツ サービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご 愛 車 の メ モ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF-　　型エンジン
総排気量	658cc
車体色（番号）	
トランスミッション	CVT

ネーム プレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。

目　　　　次

絵目次

外観

標準車

グレードの違い、注文装備も記載しています。

カスタム仕様車

グレードの違い、注文装備も記載しています。

内装

グレードの違い、注文装備も記載しています。

インストルメント パネル

グレードの違い、注文装備も記載しています。

安全のためにぜひ守りましょう

必読！
ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

(灰色)	警告に値する項目です
(白)	注意に値する項目です

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをかかさず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
点検・整備はメンテナンス ノートにしたがって実施してください。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

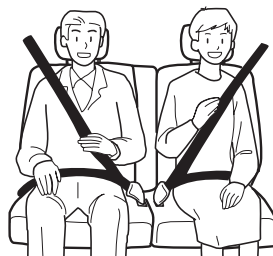
各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

（シート→ 38 ページ）
（車体各部の調整→ 107 ページ）

シート ベルトはしっかりと着用してください

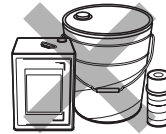
走行する前に必ず運転者、同乗者とも全員がシート ベルトを着用してください。（リヤ シートでも必ずシート ベルトを着用してください。）
シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
必ず正しい着用方法を身に付けてください。

（正しい着用→ 44 ページ）

妊娠中の方もシート ベルトを着用してください

妊娠中の方も下記の要領でシート ベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シート ベルトの着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

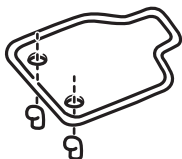
運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキ ペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセル ペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

走行する前に

フロア マットはダイハツ純正品を使用してください

フロア マットを使用するときは、以下の項目を必ず守って正しく装着してください。

- この車専用の純正品を使用してください。
- 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
- ずれないようにフロア マット付属の専用フックで必ず固定してください。

- 重ねて使用しないでください。
- 運転前にフロア マットが正しく固定されていることを確認してください。

これらを守らないと、ブレーキ ペダルやアクセル ペダルにフロア マットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷物を積み過ぎないでください

- 助手席やリヤ シートに荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤ空気圧の点検をしてください

タイヤ空気圧の点検は法的に義務付けられています。
タイヤ空気圧はスペア タイヤも含め、最低でも月に 1 回は点検を行ってください。
タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行すると、偏摩耗や早期摩耗します。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤの点検については、別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

CVT車の場合に注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でシフト レバーを必ずⓅレンジにして、ブレーキ ペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

（エンジンのかけかた→ 150 ページ）

排気ガスには気を付けてください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。

排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→ 272 ページ）

下り坂ではエンジン ブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂をⒹレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
このようなときにフット ブレーキに頼ると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。路面状態やスピードに応じてシフト レバーをⓈレンジまたは、Ⓑレンジに入れてエンジン ブレーキを併用しましょう。
その際には、急激なエンジン ブレーキ（シフト レバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジン ブレーキを使用してください。

エンジン ブレーキ

エンジン ブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキ パッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確かめてください。
効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキ ペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき
→ 230 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジン オイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

走行しているときは

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。
また、リヤ シートの背もたれを前倒しした状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときなど、体が固定されず大変危険です。
人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

（シート→ 38 ページ）

ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジン ブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルーム ミラー、ドア ミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

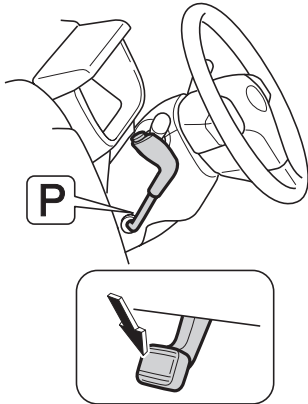
駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

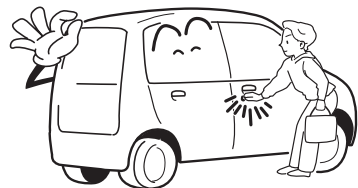
エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。
隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

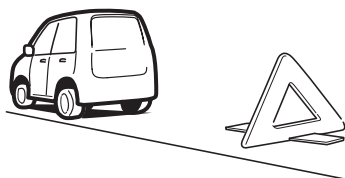
車から離れるときに注意していただきたいこと

車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。
車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。
また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

駐停車するときは

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフト レバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していた場合、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスの侵入により、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。
万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスク ホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスク ホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1 分程度アイドリングの状態でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

セルフ ガソリン スタンドなどで、お客様自身で燃料給油する場合に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいこと、特に注意していただきたいことをまとめています。
よくお読みになり、安全に給油を行ってください。

必ず指定燃料をご使用ください

必ず、無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

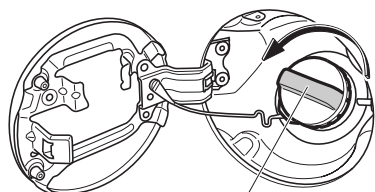
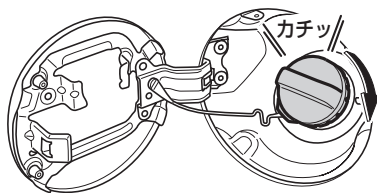
燃料給油時には、必ず下記のことをお守りください

燃料は引火しやすいため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
必ず下記のことをお守りください。

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。

- フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。
  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で引火するなどして、やけどのおそれがあり危険です。

安全な燃料給油のために

- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエル　キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- フューエル　キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

- フューエル　キャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布などでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオート　ストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリン　スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル　キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。

- 純正品のフューエル　キャップ（指定）以外は使用しないでください。
- その他、ガソリン　スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料の気化ガスを吸わないようにしてください

燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、ご注意ください。

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグのページも併せてお読みください。

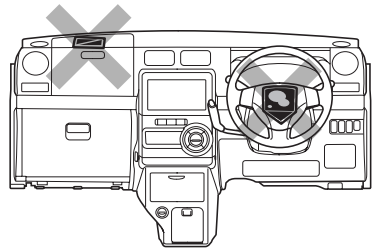
シート　ベルトを着用してください

SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシート　ベルトと併用してください。
SRSエアバッグはシート　ベルトを補助するための装置でシート　ベルトの代わりではありません。
いざというとき効果を発揮しないばかりでなく、重大な事故につながるおそれがあります。

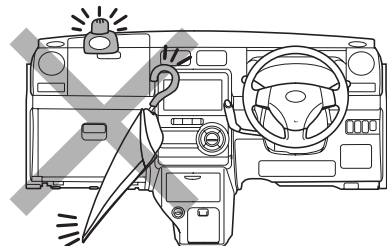
修理、分解、取り外しをしないでください

修理、分解、取り外しなどをお客様自身で行わないでください。修理の際は、最寄りのダイハツ　サービス工場にご連絡ください。

パッド部、インストルメントパネルにステッカーなどを貼らないでください

パッド部、インストルメント　パネルにステッカーを貼ったりカバーでおおうと、いざというときSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

インストルメント　パネルに物を置かないでください

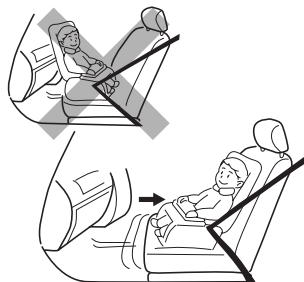
インストルメント　パネルの上に芳香剤など物を置いたり傘を立てかけたりしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で飛ばされたり、SRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

SRSエアバッグについて

走行中は正しいシート位置に座ってください

シートの前端に座ったり、ハンドルに近付きすぎたりしないでください。お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたりしないでください。
また、インストルメント パネルにもたれかからないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

チャイルド シートは正しく取り付けてください

助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

（SRSエアバッグ→ 62 ページ）

CVT車について

CVT車の運転のページも併せてお読みください。

CVT車の特性や操作上で注意していただきたいこと

CVT車には、いくつかの特性があります。思わぬ事故につながるおそれがありますので、正しく理解し、操作する習慣を身に付けてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置では、動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車が動き出します。
停車中は平坦路であっても車が動かないようにブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください

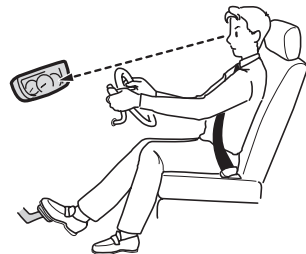
ペダルの踏み間違えがないように、右足でアクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を確認し、必ずシフト レバーがⓅレンジの位置になっていることを確認してください。

ブレーキ ペダルは右足で操作してください

ブレーキ ペダルはアクセル ペダルと同じ右足で操作する習慣を身に付けてください。

スタートするときはブレーキ ペダルを踏んだままシフト レバーを操作してください

シフト レバーがどの位置にあるかをメーター内のインジケーターを必ず目で見て確認し、必ず右足でブレーキ ペダルをしっかりと踏んだままシフト レバーを操作してください。
また、アクセル ペダルを踏んでのシフト レバー操作はしないでください。

（運転のしかた→ 156 ページ）

CVT車について

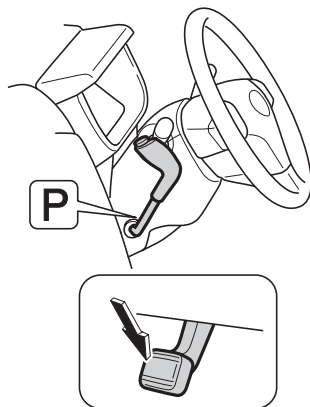
走行中はシフト レバーをⓃレンジの位置に入れないでください

走行中はシフト レバーをⓃレンジに入れると、エンジン ブレーキが全く効かず思わぬ事故の原因となります。
また、下り坂などでは必ず路面状態やスピードに応じてシフト レバーをⓈレンジまたは、Ⓑレンジに入れてエンジン ブレーキを使用してください。ブレーキ ペダルを踏み続けることはやめてください。

坂道などで注意していただきたいこと

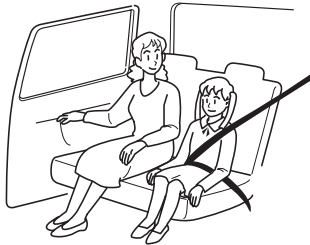
坂道などでは、シフト レバーをⒹ、Ⓢレンジまたは Ⓑレンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

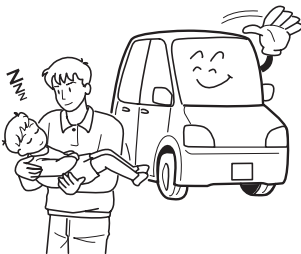
駐停車するときは

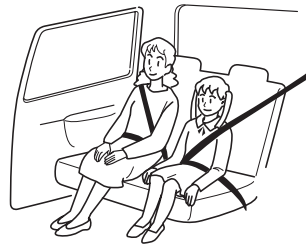
駐車するときは、必ずシフト レバーをⓅレンジの位置にし、しっかりと駐車ブレーキをかけてください。
また、車が完全に停止するまでシフト レバーをⓅレンジには入れないでください。

お子さまを乗せるときは

ドアの開閉は、大人が注意しながら操作してください

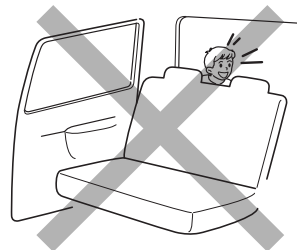
ドアを閉めるときなど、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。
開閉、施錠は大人が行い、安全のためにもチャイルド セーフティを使用してください。

（車体各部の開閉→ 74 ページ）

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。
必ずお子さまと一緒に車を離れてください。

お子さまは大人と一緒に後部座席にお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、万一のとき、お子さまがインストルメント パネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

お子さまを乗せるときは

お子さまにもシート ベルトを着用させてください

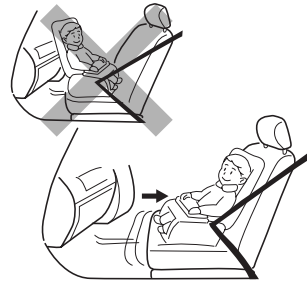
- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させてください。急ブレーキ時など体が固定されず大変危険です。
  また、お子さまをひざに抱いて走行しないでください。ひざの上でお子さまを抱いていても、衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート ベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルド シート、ジュニア シートを使用してください。
  通常のシート ベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
  また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビー シートを使用してください。
- ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。
  （チャイルド シート→ 49 ページ）
- ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付け要領は、それぞれのシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。
- お子さまを乗せていないときでもベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートは、しっかりとシートに取り付けるか、荷室へ収納してください。
  シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの左右席に、ISO* FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップテザー アンカー対応のチャイルド シートを取り付けることができます。
  （チャイルド シートの固定のしかた → 56 ページ）

* ISOはInternational Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

シート ベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。

チャイルド シートは正しく取り付けてください

助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

お子さまを乗せるときは

パワー ウインドはお子さまに操作させないでください

パワー ウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にすると、運転席ウインド ガラス以外は開閉できなくなります。お子さまを乗せているときは、パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にしてください。

お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。

お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、ダイハツが推奨するものに基づいています。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」をご覧ください。

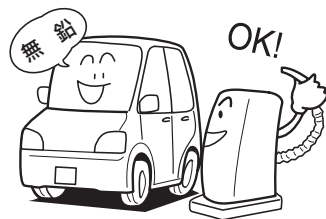
海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態で、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

お車を長持ちさせるには

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロント ガラスおよびフロント ドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機やダイハツ純正部品以外の電装品などの取り付け、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- バッテリー端子にダイハツ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「ダイハツ純正部品」のご使用をおすすめします。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

（警告灯→ 122 ページ）

オーバー ヒートしたとき

水温警告灯が点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバー ヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。
また、あわててラジエーター キャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

（オーバー ヒートの処置→ 244 ページ）

エンストしたとき

エンストしたときは落ち着いて操作してください。
ブレーキの倍力装置やパワー ステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れてハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤ交換→ 237 ページ）

床下に強い衝撃を感じたとき

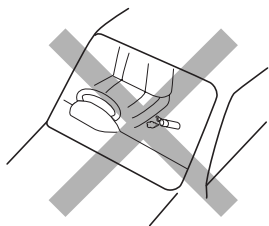
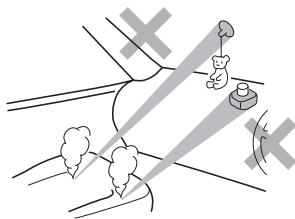
車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

こんなときは

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメント パネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブ ボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。

- ウインド ガラスには吸盤を付けないでください。また、インストルメント パネルの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインド ガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインド ガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジン ルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジン ルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
  また、走行中にエンジン ルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- 車内に飲み物をこぼしたり、雨水などがかからないよう注意してください。インストルメント パネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、飲み物、雨水などがかかった場合は、すみやかにダイハツ サービス工場にご相談ください。
- インストルメント パネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズ フリー以外の自動車電話や携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カー ナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤ シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていない状態での走行は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、スポイラー、大型バンパーなどを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

安全装備

車を運転するうえで乗員の安全を保護するための装備について説明しています。

■ シート

■ シート ベルト

■ お子さま専用シート

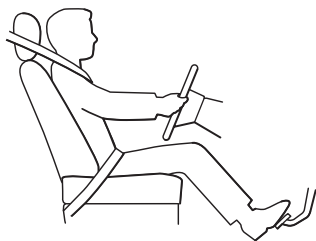
■ SRSエアバッグ

■ ABS

シート

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意してシートを調整してください。

- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シート ベルトが正しく着用できること
- ヘッド レスト中央の高さが耳の後方になること

⚠警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シート ベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシート ベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(シート ベルト→ 44 ページ)

⚠注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートの調整は、指や手を挟まないように十分に注意して行ってください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。

フロント シート

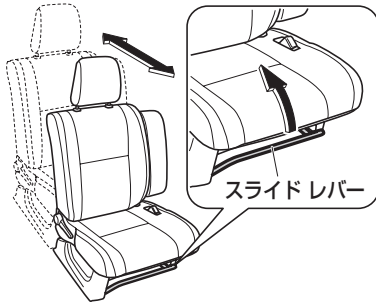
シート スライド調整

▼調整を行う前に

⚠警告

- スライド調整は必ず運転前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

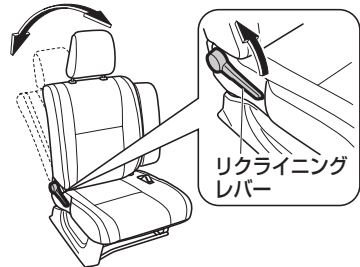
シート下のスライド レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

リクライニング調整

▼調整を行う前に

⚠警告

- リクライニング調整は必ず運転前に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼調整方法

リクライニング レバーを引き上げながら背もたれの角度を調整します。

⚠注意

- リクライニング レバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

▼背もたれを元に戻すときは

⚠注意

- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

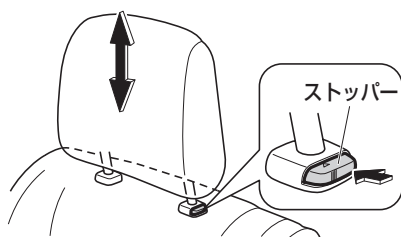
ヘッド レストの調整

▼調整を行う前に

⚠警告

- ヘッド レストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッド レスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼調整方法

そのまま持ち上げて調整します。
下げるときはストッパーを押しながら「カチッ」という音がする位置で固定してください。
取り外すときはストッパーを押しながら引き抜きます。

アーム レスト

▼使用方法

前に倒して使用します。

アドバイス

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アーム レストも同時に動きます。
- 小物入れとして使用することもできます。
（センター アーム レスト ポケット＆ボックス→ 222 ページ）

リヤ シート

⚠注意

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はフロント シートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出されるおそれがあります。

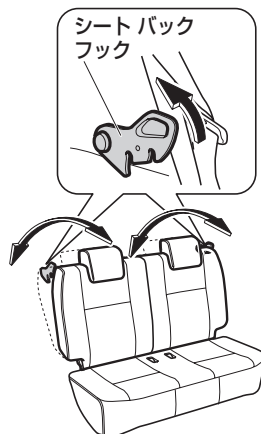
リクライニング調整

▼ 調整を行う前に

⚠注意

- リクライニング調整は必ず停車中に行い、調整後は背もたれを軽くゆすり、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 調整方法

シート バック フックを引きながら、背もたれの角度を選びます。

⚠注意

- シート バック フックを下側に押さえつけないでください。シート バック フックが損傷するおそれがあります。

アドバイス

- 左右独立してリクライニング調整することができます。

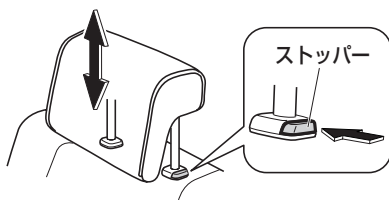
ヘッド レストの取り外し

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- リヤ シートに人を乗せるときは、ヘッド レストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッド レストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッド レストを前後逆に取り付けないでください。いざというとき、効果を発揮しません。

▼ 操作方法

取り外すときは、ストッパーを押しながら引き抜きます。取り付けるときは、「カチッ」という音がする位置で固定してください。

背もたれの前倒し

リヤ シートを操作することで、ラゲージルームを広くすることができます。

⚠警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

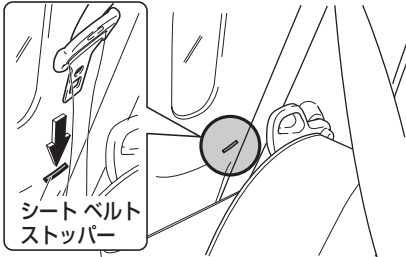
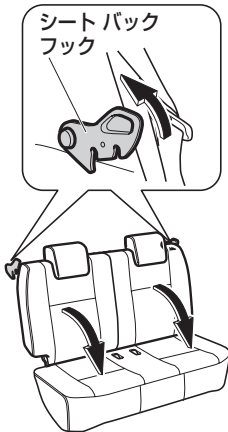
- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

▼ 操作を行う前に

アドバイス

- 背もたれを倒すとき、または倒した背もたれを元に戻すときシート ベルトがシートにかみ込むことを防ぐために、必ずシート ベルト ストッパーにプレートを差し込んでから操作してください。
- プレートをシート ベルト ストッパーに差し込むときは、シート ベルトがたるまないようにしてください。

▼ 操作方法

1. かみ込み防止のため、シート ベルト ストッパーにプレートを差し込みます。

2. シート バック フックを引きながら、背もたれを前に倒します。

▼ 元に戻すときは

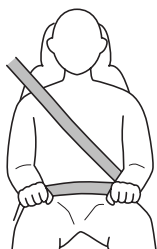
背もたれを引き起こします。

⚠注意

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬけがをするおそれがあります。

シート ベルト

正しい着用

運転者は車を運転する前に、下記のことに注意してシート ベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シート ベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
シート ベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シート ベルトにねじれがないこと
- シート ベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠警告

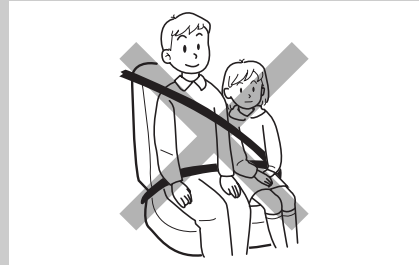
- シート ベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
- シート ベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。
  シート ベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。
- シート ベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。

- お子さまにも必ずシート ベルトを着用させるか、チャイルド シートを使用してください。
  ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

- シート ベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
  - 1 人で座ることのできない乳幼児の場合はベビー シート（別売）を使用してください。
  - シート ベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルド シートやジュニア シート（別売）を使用してください。
    （チャイルド シート→ 49 ページ）
    （チャイルド シートの固定のしかた→ 56 ページ）
- 妊娠中の方もシート ベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シート ベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
  - 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。
  - 肩ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用してください。肩ベルトを腹部にかけていると衝突したときなどに、腹部に強い圧迫を受け、けがをするおそれがあります。

⚠警告

- シート ベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシート ベルトを使用しないでください。衝突時にシート ベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシート ベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シート ベルトによりけがをするおそれがあります。
- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシート ベルトの効果が発揮されません。
- シート ベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。

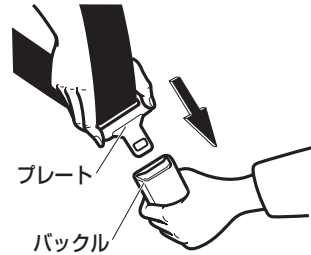
⚠警告

- シート ベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シート ベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシート ベルトの脱色や染色もやめてください。
- シート ベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、ダイハツ サービス工場でシート ベルト一式を交換してください。シート ベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシート ベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、ダイハツ サービス工場で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シート ベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

3点式ELRシート ベルト

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼着用するとき

1. 正しい運転姿勢が取れる位置にシートを調整します。
2. プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠警告

- 肩部ベルトは、脇の下に通して着用しないでください。ベルトが十分肩にかかっていないと十分な効果を発揮しません。

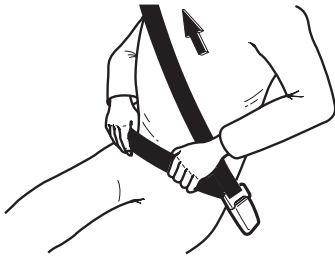
⚠注意

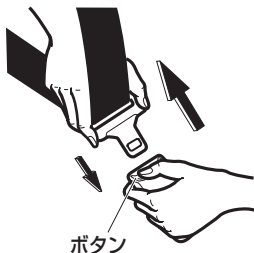
- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

アドバイス

- ベルトがロックし引き出せない場合は、ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。
- 運転席シート ベルトは、シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

（シート ベルト未装着警告灯 → 126 ページ）

3. 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させます。

▼ 外すとき

バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認します。

プリテンショナー& フォース リミッター機構付 シート ベルト

フロント シート

警告

- プリテンショナー&フォース リミッター機構付シート ベルトは絶対に取り外さないでください。また、分解、改造もしないでください。
- 下記のような場合は必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 無線機を取り付けるとき
  - 廃車にするとき

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けるとプリテンショナー機構が作動し、シート ベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシート ベルトやSRSエアバッグの効果をいっそう高めます。

⚠注意

- プリテンショナー機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのダイハツ サービス工場で交換してください。

アドバイス

- プリテンショナー機構はシート ベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

フォース リミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シート ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠注意

- フォース リミッター機構付シート ベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのダイハツ サービス工場で交換してください。

お子さま専用シート

チャイルド シート

シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルド シートをご使用ください。
車両に固定するチャイルド シートには、シート ベルトで固定するタイプとISO[*1] FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーで固定するタイプがあります。

（チャイルド シートの固定のしかた → 56 ページ）

チャイルド シートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みください。

アドバイス

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルド シートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルド シートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルド シートが不必要なお子さまは、リヤ シートに乗せてシート ベルトを着用させてください。

チャイルド シートについて

- ここでは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートの総称として、「チャイルド シート」と呼んでいます。

（チャイルド シートの種類 → 50 ページ）

チャイルド シートの質量グループについて

ECE R44[*2] の基準に適合するチャイルド シートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0^+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

[*1] International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

[*2] チャイルド シートに関する国際的な安全基準です。

チャイルド シートの種類

○ベビー シート

質量グループ 0、0^+に相当します。

○チャイルド シート

質量グループ 0^+、Ⅰに相当します。

○ジュニア シート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

（チャイルド シートの質量グループについて→ 49 ページ）

チャイルド シートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルド シートが使用できるかを選択してください。

アドバイス

- お子さまに適切なチャイルド シートについては、チャイルド シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シート ベルトで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロント シート	リヤ シート
	助手席	左右席
0（10kgまで）	×	U＊1
0+（13kgまで）	×	U＊1
Ⅰ（9～18kg）	UF	U＊1
Ⅱ（15～25kg）	UF＊2	U＊2
Ⅲ（22～36kg）	UF＊2	U＊2

●記号の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートが取り付け可能です。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルド シートが取り付け可能です。

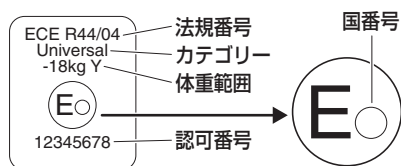
× ：チャイルド シートを取り付けることはできません。

＊1 後向きのチャイルド シートを取り付けるときは、チャイルド シートの上端部が前席背もたれに接するように前席の位置を調整してください。

＊2 チャイルド シートを取り付けるシートのヘッド レストを取り外してください。

表に記載されていないチャイルド シートを使用する場合は、チャイルド シート製造業者または販売業者にご相談ください。

アドバイス

- チャイルド シートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- ECE R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。
  - カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルド シートの認可であることを表します。

ISO* FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーで取り付けるチャイルド シート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置 リヤ シート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kgまで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kgまで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9〜18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II（15〜25kg）		―	×
III（22〜36kg）		―	×

●記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルド シートのみ取り付け可能です。

IL　：この質量グループでの使用を許可された下記「ISO FIX子供専用シートのリスト」に示す準汎用カテゴリーのチャイルド シートのみ取り付け可能です。

×　：ISO FIX対応チャイルド シートを取り付けることはできません。

●ISO FIX子供専用シートのリスト

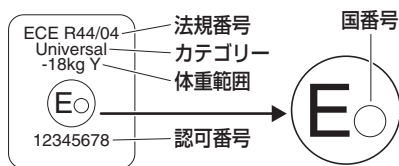
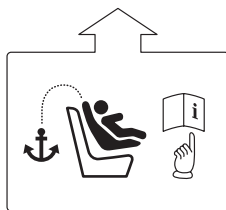
質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	E	ISO/R1	ダイハツ純正ISO FIXベビー シート（ユニバーサル）	準汎用
0+（13kgまで）	E	ISO/R1		

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

* International Organization for Standardization（国際標準化機構）の略

アドバイス

- この車のISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカーは、2006年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合しています。
  これには、ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートしか取り付けることができません。
- ECE R44 に適合しているISO FIX対応チャイルド シートには、下記の認可ラベルが表示されています。（表示されているマークや文字は、製品により異なります。）
  - ISO FIX対応チャイルド シートであることを示す表示です。
    文字はサイズ等級を表します。

  - ECE R44 の認可マークです。
    汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルド シートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。

  - ISO FIX対応トップ テザー アンカーの位置を示すマークです。
    トップ テザー アンカーの位置により、意匠は異なります。

- ダイハツ純正の汎用（ユニバーサル）、および準汎用カテゴリーのチャイルド シートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

- チャイルド シートを購入するときは、ISO FIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

サイズ等級	固定具	仕様
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルド シート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルド シート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルド シート （B-ISO/F2と別形状のもの）
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルド シート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルド シート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルド シート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルド シート（キャリコット）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルド シート（キャリコット）

- キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビー シートのことです。詳しくはチャイルド シートの製造業者、または販売業者にご相談ください。

チャイルド シートの固定のしかた

⚠警告

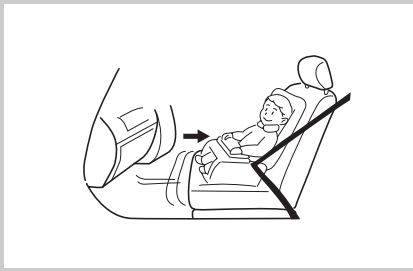
- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルド シートを使用してください。
  また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルド シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルド シートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジュニア シートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突時などにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- お子さまをシート ベルトで遊ばせないでください。万一シート ベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  誤ってそのような状態になってしまい、シート ベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシート ベルトを切断してください。
- チャイルド シートを取り付けたときは、チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルド シートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートを固定しておいてください。また、ラゲージ ルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

- 助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビー シート、チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

⚠注意

- 標準装備のシート ベルトは大人用です。肩ベルトに首がかかるような小さなお子さまにはシート ベルトの着用はさけ、チャイルド シートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シート ベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

アドバイス

チャイルド シートをリヤ シートに取り付けたときは

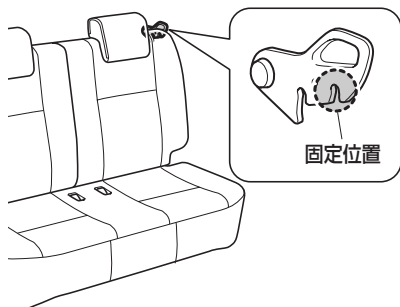
- 運転席とチャイルド シートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤ シートの助手席側に取り付けてください。
  (正しい運転姿勢→ 38 ページ)

チャイルド シートを使用しないときは

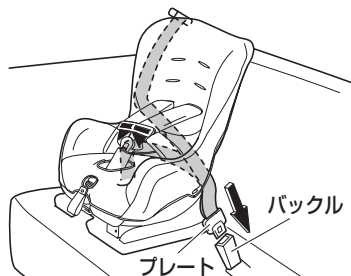
- チャイルド シートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シート ベルトによる固定*

▼取り付けかた

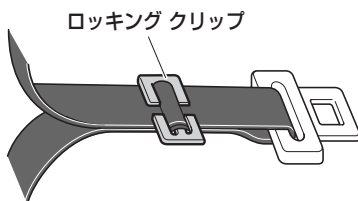
1. リヤ シートの背もたれを図の位置で固定します。

2. チャイルド シートをリヤ シートに置きます。

- ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

3. シート ベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルド シートの中に通します。

4. バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠注意

- **プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。**

5. チャイルド シートにシート ベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキング クリップを使用して固定します。

アドバイス

- **ロッキング クリップの取り付けは、チャイルド シートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。**
  また、ロッキング クリップの購入については、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

* 固定のしかたは代表例です。
また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルド シートの形状とは異なります。

6. チャイルド シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

⚠注意

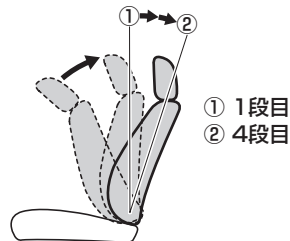
- **チャイルド シートを固定したあと、シート ベルトでチャイルド シートがロックされていることを必ず確認してください。万一のとき効果を発揮しないおそれがあります。**

7. チャイルド シートを取り付けたシートの前席位置を調整します。

- 後向きのチャイルド シートを取り付けた場合は、チャイルド シートの上端部がフロント シートの背もたれに接するようにシートの位置を調整してください。

アドバイス

助手席にチャイルド シートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときは、助手席シートを以下のように調整し、必ず前向きにチャイルド シートを取り付けてください。
  - シートを後方いっぱいまでスライドさせる
  - 背もたれをいったん前に倒し、①1 段目の固定位置に起こしてから、②4 段目の固定位置まで調整する

  - ヘッド レストにチャイルド シートが干渉するときは、ヘッド レストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく

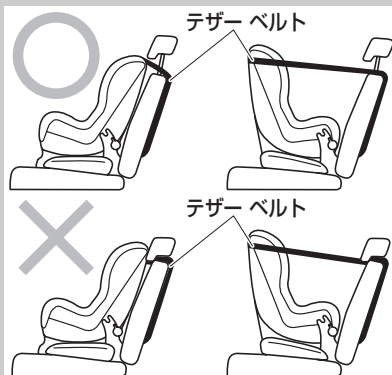
ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザーアンカーによる固定

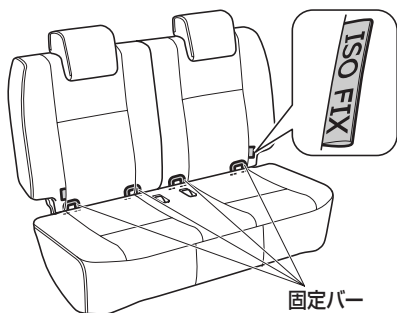
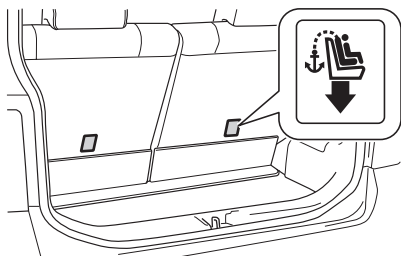
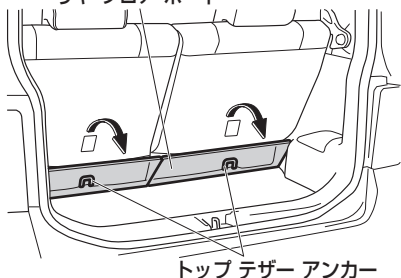
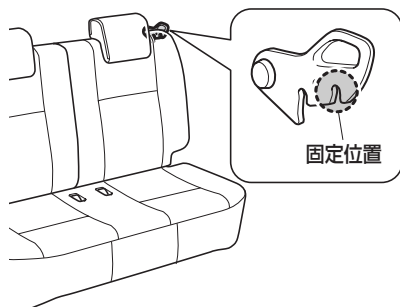
▼ チャイルド シートを取り付ける前に

⚠警告

- チャイルド シートを取り付けるときは、ISO FIX対応チャイルド シート固定バー＆トップ テザー アンカー周辺に異物がないこと、シート ベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシート ベルトなどをかみ込むとチャイルド シートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- チャイルド シートのテザー ベルトがヘッド レストに干渉しないように、ヘッド レストを「カチッ」と音がする位置まで引き上げてからトップ テザー アンカーに固定してください。
  それでもヘッド レストに干渉する場合は、ヘッド レストを取り外して安全な場所に固定しておいてください。
  ヘッド レストを下げたままだと、テザー ベルトがヘッド レストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルド シートが動いて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼取り付けかた

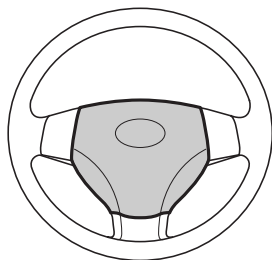
1. ISO FIX対応チャイルド シート固定バー&トップ テザー アンカーの位置を確認します。
- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

- トップ テザー アンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。

- リヤ フロア ボードをめくり、トップ テザー アンカーの位置を確認します。

2. リヤ シートの背もたれを図の位置で固定します。

3. 適合するチャイルド シートの取り付け金具をISO FIX対応チャイルド シート固定バー&トップ テザー アンカーに連結して取り付けます。（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください。）
- ヘッド レストにチャイルド シートやテザー ベルトが干渉するときは、ヘッド レストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。
4. 取り付けたチャイルド シートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認します。

SRSエアバッグ

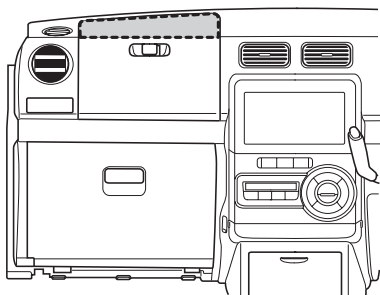
SRS*エアバッグ

SRSエアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

運転席SRSエアバッグ

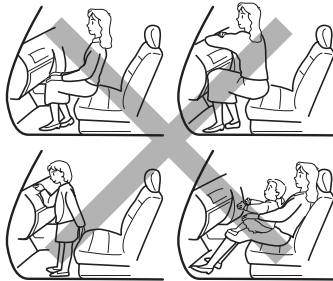
シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

助手席SRSエアバッグ

シート ベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

* Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助装置の意味です。

⚠警告

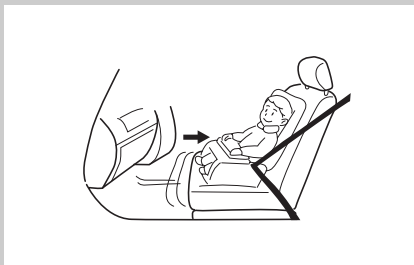
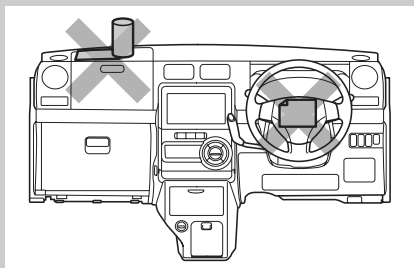
- シート ベルトは必ず着用してください。SRSエアバッグはシート ベルトを補助するための装置でシート ベルトの代わりではありません。
- シート ベルトを正しく着用してください。シート ベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時にSRSエアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
  （正しい着用→ 44 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRSエアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないとSRSエアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席SRSエアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメント パネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。

⚠警告

- SRSエアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRSエアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席SRSエアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメント パネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメント パネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。
    助手席SRSエアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- お子さまはリヤ シートに座らせて、必ずシート ベルトを着用させてください。
- シート ベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビー シート、チャイルド シート、ジュニア シートなどをリヤ シートに装着して使用してください。
- 助手席にベビー シートを取り付けたり、チャイルド シートを後ろ向きに取り付けないでください。ベビー シート、チャイルド シートの背面が、SRSエアバッグに近すぎるため、SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

- やむを得ず助手席にチャイルド シートを取り付けるときはSRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
  なお、取り付け可否については、必ずチャイルド シートの適用条件をご確認ください。

- SRSエアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かずSRSエアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメント パネルの上にジュースや物を置かないでください。SRSエアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。

⚠警告

- ステアリング パッド、インストルメント パネルの上などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリル ガードなどを装着する場合は、最寄りのダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠注意

- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインド ガラスが破損することがあります。
- SRSエアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずダイハツ サービス工場で交換してください。

⚠注意

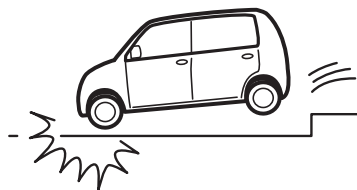
- 下記のような場合は必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRSエアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパット部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツ サービス工場で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

作動する場合

SRSエアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。また、同時にプリテンショナー機構も作動します。
走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRSエアバッグが作動することがあります。

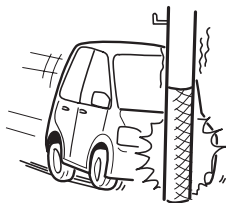
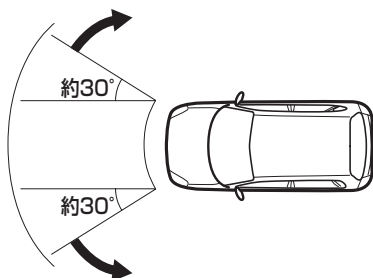
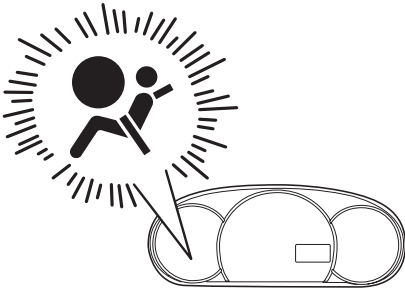
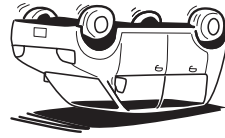
- 高速で縁石などに衝突したとき

- 深い穴や溝に落ち込んだとき

- ジャンプして地面に衝突したとき

作動しない場合

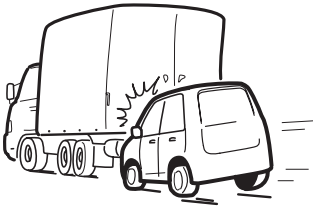
下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

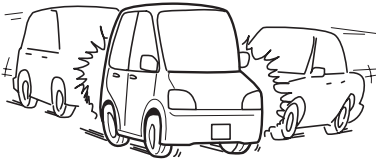
- コンクリートの壁に約 20km/h以下の速度で正面衝突したとき

- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき

- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガード レールなどに衝突したとき

- SRSエアバッグ警告灯点灯時

- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき

下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき

- 車両が横転、転覆したとき

下記のようなときは、SRSエアバッグが作動しません。

- エンジン スイッチが"LOCK"、"ACC"の位置のときに衝突したとき

SRSエアバッグ警告灯

メーター内に警告されます。

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
  （SRSエアバッグ→ 62 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構 → 48 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

SRSエアバッグ コンピューター

SRSエアバッグを制御する装置です。

⚠注意

- SRSエアバッグ コンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRSエアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRSエアバッグ コンピューターには、水、ジュースなどをかけないように注意してください。
- SRSエアバッグ コンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRSエアバッグが一度作動すると再使用できません。ダイハツ サービス工場で交換してください。

ABS

ABS*（EBD機能付）

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABSは、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などにはABSの付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤ チェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

*ABSは、Anti-lock Brake System（アンチロック ブレーキ システム）の略です。

アドバイス

- 低速（約 10km/h以下）では、ABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、メーター内のABS警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン始動後にABS警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジン ルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキ ペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキ ペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキ ペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキ ペダルを強く踏み続けてください。ブレーキ ペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。

アドバイス

- 急ブレーキ時にポンピング ブレーキ* はしないでください。ポンピング ブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキ ペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

車を運転する前に

車を運転する前に必要な各部の開閉、調整、点検について説明しています。

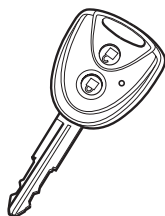
■ 車体各部の開閉

■ 車体各部の調整

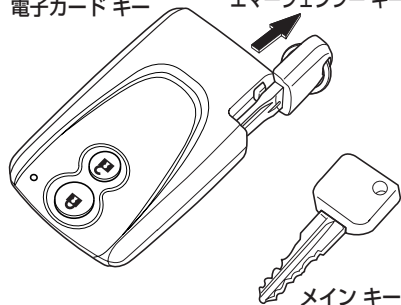
車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほかに、ドアの施錠、解錠など車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。

キーレス エントリー装着車

アドバイス

- キーはメイン キーとスペア キーを用意しております。スペア キーは、いざというときのために予備として使用してください。
- メイン キーは 4 枚まで設定することができます。

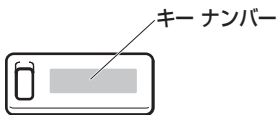
キー フリー システム装着車

⚠注意

- エマージェンシー キーは、必ず電子カード キーに格納しておいてください。電子カード キーは電池の消耗などにより、突然使用できなくなることがあります。

アドバイス

- 電子カード キー（エマージェンシー キー内蔵）とメイン キーを用意しております。メイン キーは、大切に保管しておいてください。
- キーを紛失されたときは、再登録が必要となります。ダイハツ サービス工場にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。
  なお、メイン キーと、電子カード キーはそれぞれ最大 4 枚（合わせて8枚）まで設定することができます。

キー ナンバー プレートについて

- お客様以外にキー ナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキー ナンバーを打刻してあります。

- キー ナンバー プレートを車両以外の場所に大切に保管してください。
  万一、キーを紛失したときに、キー ナンバーをダイハツ サービス工場にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

航空機に乗るときは

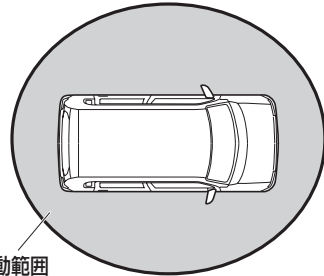
- 航空機にメイン キー（キーレス エントリー）、電子カード キー（キー フリー システム）を持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

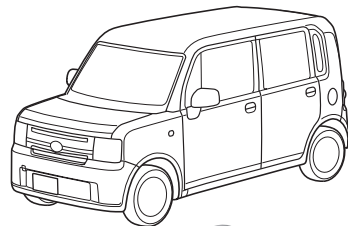
キーレス エントリー

オプション/グレード別装備

ドアの施錠、解錠をメイン キーで行うことができます。

▼ 作動範囲

車両中心から周囲約 3m以内です。

▼ 操作方法

ドアが施錠された状態で、メイン キーの“UNLOCK”ボタンを押すと、インジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアは解錠されます。
“LOCK”ボタンを押すとインジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアは施錠されます。

アドバイス

- メイン キーは誤って操作しないために、凸側が“LOCK”ボタン、凹側が“UNLOCK”ボタンになっています。
- “UNLOCK”ボタンを押し、ドア ロックが解錠されたあと、ドアの開閉を行わなかった場合は約 30 秒後、自動的にすべてのドアが施錠されます。（自動ロック機能）
- メイン キーと車両中心の距離が約 3m 以上離れているときは正確に作動しないことがあります。また、近くにTV塔や発電所、放送局があるなど周囲の状況により正確に作動しないことがあります。
- キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれている場合、またはいずれかのドアが開いている場合は作動しません。
- メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 直射日光や高温下に放置しないでください。
  - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えないでください。
  - 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにしてください。
- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。

アドバイス

- メイン キーの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。

電池の消耗について

- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 268 ページ）

作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明により、キーレス エントリーの作動完了を確認することができます。

▼ 確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチがDOOR位置のとき）が下表の通り作動します。（アンサー バック）
これにより、キーレス エントリーの作動完了を確認してください。

作動	部位	アンサーバック
LOCK時	非常点滅灯	1回点滅
	室内照明	減光し、その後消灯
UNLOCK時	非常点滅灯	2回点滅
	室内照明	約15秒間点灯

アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

キー フリー システム

オプション/グレード別装備

発信機から発する電波を電子カード キーが感知することによって、下記の操作を行うことができます。

- 運転席ドア アウター ハンドル横のスイッチを押すことで、ドアの施錠・解錠ができます。
- キーの差し込み操作なしでエンジンの始動、停止ができます。
（エンジン スイッチ→ 140 ページ）
- イモビライザー機能（車両盗難防止機能）を備えています。
（イモビライザー機能→ 145 ページ）

⚠注意

- 車両から降りるときは、電子カード キーを携帯してください。車内に電子カード キーを放置したままにしておくと、電波などの影響や電池の消耗により電子カード キーを車内に閉じ込めてしまうことがあります。

電子カード キーの持ち出し警告について

- 電子カード キーによりエンジンを始動した場合、エンジン スイッチが“ACC”、または“ON”の位置で、下記のことを行うと、セキュリティ インジケーターが高速で点滅し、警告ブザー（室内は「ピピピピピ」、室外は「ピッピッピッ」という音）が鳴ることで、電子カード キーの持ち出しを警告します。
（セキュリティ インジケーター → 120 ページ）
  - いずれかのドアを一度開けて、電子カード キーを車室内発信機の作動範囲外に移動させ、ドアを閉めたとき。
（作動範囲→ 141 ページ）

⚠注意

- また、電子カード キーを車室内発信機の作動範囲外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われることがあります。

アドバイス

- 電子カード キーは必ず運転者が所持し、管理してください。エンジン回転中は通信を停止するため、特にキーを紛失しやすくなります。また、メイン キーは大切に保管しておいてください。
- 電子カード キー・メイン キーを紛失した場合は、再登録が必要になります。ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 電子カード キー・メイン キーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
  - 電子カード キーをズボンなどの後ろポケットに入れないでください。
  - 直射日光や高温下に放置しないでください。
  - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
  - 分解しないでください。
  - 超音波洗浄機などにかけないでください。
  - 磁気を帯びたキー ホルダーなどを付けないでください。
- 車を離れるときは、ドア ハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。

アドバイス

- メイン キーと、電子カード キーはそれぞれ最大 4 枚（合わせて 8 枚）まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

電池の寿命について

- 電子カード キーの電池寿命は、1 日 10 回程度の乗降で約 2 年です。（電子カード キーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています）
  ただし、電子カード キーのキーレスボタン操作（ドアの施錠・解錠）の使用頻度が高い場合、または電子カード キーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。

電子カード キーの保管について

- 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くに電子カード キーを置かないでください。電子カード キーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
  - テレビ
  - オーディオ
  - パソコン
  - ACアダプター
  - 携帯電話、コードレス電話
  - 充電器
  - 電気スタンド
  - 低周波治療器などの医療用電気機器
  - 液晶表示器
  - モーター類

発信機

警告

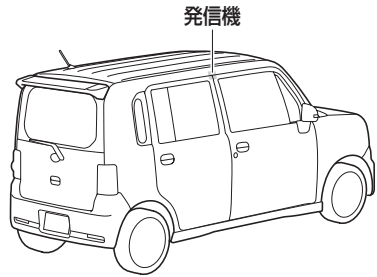
植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

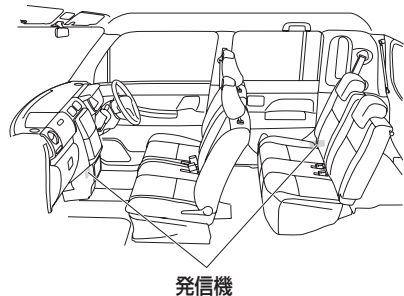
- 車室外発信機・車室内発信機から約 22 cm以内に近づかないようにしてください。電波により、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 車室外発信機・車室内発信機から約 22 cm以内に近づかなければ、電波による影響を受けるおそれはありませんが、不要な電波の発信を避けるため、電子カード キーは、必ず運転者が所持したまま乗車してください。
  また、電池の消耗などにより、電子カード キーで操作できないときは、電子カード キーを所持していない状態と同じですので、注意してください。
  （電子カード キーで操作できない場合 → 83 ページ）
- 植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

アドバイス

- 電子カード キーを所持していない状態では、車室外発信機は常に電波を発しています。
- 電子カード キーを所持していない状態で、ドアを開閉すると、車室外発信機・車室内発信機から電波が発されます。この場合、エンジン スイッチにメイン キーを差し込むと、電波の発信が停止されます。
- 発信機から発する電波を停止（キーフリー システムを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 発信機から発する電波を停止させたとき、エンジンの始動・停止は、キーの差し込み操作なしで行うことができなくなります。（キーレス操作によるドアの施錠・解錠は行えます）
  （電子カード キーで操作できない場合 → 83 ページ）

▼ 車室外発信機

運転席側センター ピラー付近にあります。（1 カ所）

▼ 車室内発信機

インストルメント パネル中央と右側デッキ サイド トリムにあります。（2 カ所）

電子カード キーの使いかた

電子カード キーは下記のような場合、ドアの施錠・解錠やエンジンの始動ができないなど、正常に作動しないことがあります。

- 近くにTV塔や発電所、放送局、電光掲示板、ガソリン スタンド、コイン パーキングなど強い電波を発生する設備があるとき
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブル オーディオ、または他車の電子カード キーと一緒に携行したとき
- 本体が金属製の物と接しているとき
- 電子カード キーの電池が消耗しているとき

このような場合、電子カード キーに内蔵されているエマージェンシー キーを使用してドアの施錠・解錠やエンジンの始動を行ってください。

（電子カード キーで操作できない場合 → 83 ページ）

⚠注意

- エマージェンシー キーは、必ず電子カード キーに格納しておいてください。電子カード キーは電池の消耗などにより、突然使用できなくなることがあります。

アドバイス

- 電子カード キーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。
- 車両の形状により、キー フリー操作・キーレス操作が作動しにくい場所があります。
- エンジン スイッチが“ACC”・“ON”の位置のとき、またはいずれかのドアが開いている場合は、キー フリー操作・キーレス操作は作動しません。
- エンジン スイッチのキー挿入口にエマージェンシー キー、またはメイン キーが差し込まれているときは、キー フリー操作・キーレス操作は作動しません。
- キー フリー操作・キーレス操作により、ドア ロックが解錠されたあと、ドアの開閉を行わなかった場合は約 30 秒後、自動的にすべてのドアが施錠されます。（自動ロック機能）

電池の消耗について

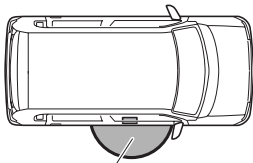
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 268 ページ）

○キー フリー操作

電子カード キーを所持して作動範囲内に入り、運転席ドア アウター ハンドル横のスイッチを押すごとに、すべてのドアの施錠・解錠が繰り返されます。

▼作動範囲

運転席ドア アウター ハンドルから周囲約 80cm以内です。

作動範囲
運転席ドア アウター ハンドル
から約80cm以内

⚠注意

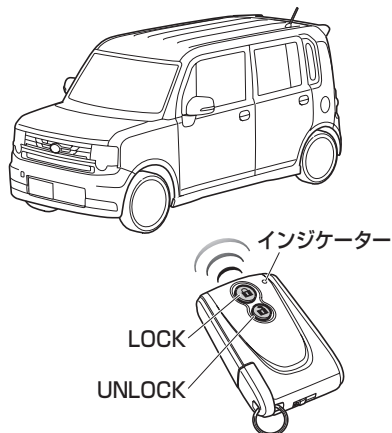
- 運転席ドア アウター ハンドル横のスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

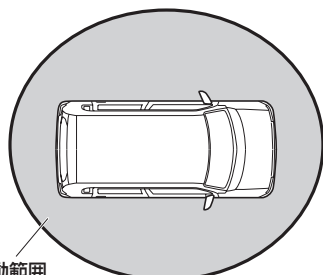
アドバイス

- 周囲の状況により、作動範囲は変化することがあります。
- ドア ガラスやドア ハンドルに近付きすぎた場合などは、施錠・解錠されないことがあります。
- スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。
- 施錠・解錠するときは、運転席ドア アウター ハンドル横のスイッチを確実に押して施錠・解錠されたことを確認してください。
- 電子カード キーを所持している人が作動範囲にいるときは、所持していない人でも、同じ作動範囲での施錠・解錠が可能です。
- 電子カード キーが作動範囲内にあっても、電子カード キーが地面の近くや高い場所にあるときは、正常に作動しない場合があります。
- 電子カード キーの持ちかたにより、作動しにくい場合があります。

○キーレス操作

ドアが施錠された状態で、電子カード キーの“UNLOCK”ボタンを押すと、インジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアは解錠されます。

“LOCK”ボタンを押すとインジケーターが 1 回点滅し、すべてのドアは施錠されます。

▼作動範囲

車両中心から周囲約 3m以内です。

○作動完了の確認方法

非常点滅灯と室内照明とブザーにより、キー フリー操作・キーレス操作の作動完了を確認することができます。

▼確認方法

ドアの施錠・解錠と連動して、非常点滅灯と室内照明（スイッチがDOOR位置のとき）とブザーが下表の通り作動します。（アンサー バック）

これにより、キー フリー操作・キーレス操作の作動完了を確認してください。

作動	部位	アンサーバック
LOCK時	非常点滅灯	1回点滅
	室内照明	減光し、その後消灯
	ブザー	1回
UNLOCK時	非常点滅灯	2回点滅
	室内照明	約15秒間点灯
	ブザー	2回

アドバイス

- 室内照明の点灯時間とブザーの音量を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

電子カード キーで操作できない場合

電池の消耗などにより、電子カード キーでドアの施錠・解錠ができない場合、電子カード キー（エマージェンシー キー）、またはメイン キーを使用してドアの施錠、解錠、およびエンジン スイッチの操作を行ってください。

⚠警告

- 電池の消耗などにより、電子カード キーで操作できない場合でも、発信機は常に電波を発信していますので、植込み型心臓ペース メーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車室外発信機・車室内発信機から約 22 cm以内に近づかないようにしてください。

（発信機→ 78 ページ）

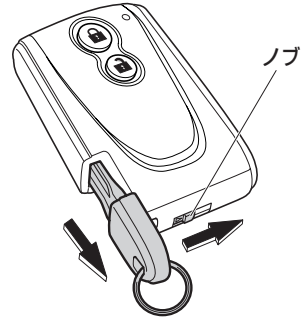
⚠注意

- エマージェンシー キーを使用したあとは、必ず電子カード キーに格納してください。電子カード キーは電池の消耗などにより、突然使用できなくなることがあります。

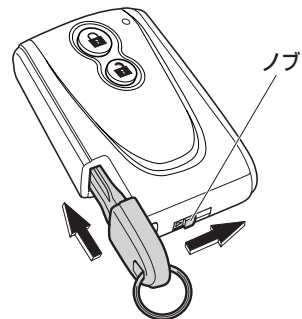
○エマージェンシー キーの取り出しかた

エマージェンシー キーは電子カード キーに内蔵されています。

▼取り出しかた

電子カード キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、電子カード キーから、エマージェンシー キーを引き抜きます。

○エマージェンシー キーの格納のしかた

▼格納方法

1. 電子カード キーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、エマージェンシー キーを下図のように差し込みます。

2. ノブを戻してロックします。

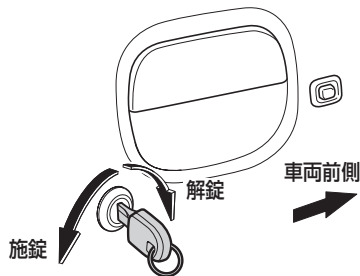
○エマージェンシー キーによる
ドアの施錠・解錠

アドバイス

セキュリティ アラームがセットされている場合

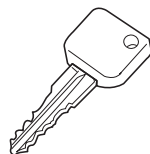
- 電子カード キー以外でドアを解錠してドアを開けると、セキュリティ アラームの警報が作動します。
  警報が作動した場合は、ただちに「エマージェンシー キーによる警報の停止方法」にしたがってエンジン スイッチを“ON”の位置にしてください。
  警報が停止します。
  （エマージェンシー キーによる警報の停止方法→ 88 ページ）

▼ 操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前側に回すと解錠され、後ろ側に回すと施錠されます。

○エマージェンシー キーによる
エンジンの始動

（エマージェンシー キーによるエンジンの始動→ 143 ページ）

メイン キー

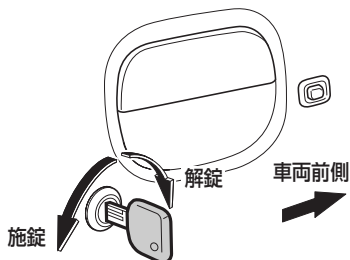
電子カード キーを紛失、または破損したときなど、エマージェンシー キーも使用できない場合は、付属のメイン キーを使用してください。

○メイン キーによるドアの施錠、
解錠

アドバイス

セキュリティ アラームがセットされている場合

- 電子カード キー以外でドアを解錠してドアを開けると、セキュリティ アラームの警報が作動します。
  警報が作動した場合は、ただちにエンジン スイッチを“ON”の位置にしてください。警報が停止します。

▼ 操作方法

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前側に回すと解錠され、後ろ側に回すと施錠されます。

○メイン キーによるエンジンの始動

（メイン キーによるエンジンの始動
→ 144 ページ）

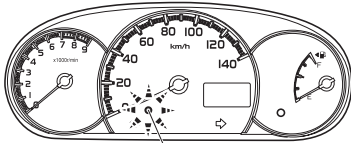
セキュリティ アラーム

セキュリティ アラームは、すべてのドアを閉め、キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）でドアを施錠した場合に、盗難に対する警戒を開始します。
キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）以外の操作でドアを開けると、警報を発して周囲に異常を知らせます。

アドバイス

- セキュリティ アラームは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、セキュリティ アラームの作動について知らない方が運転するときは、セキュリティ アラームについて十分ご説明ください。
  セキュリティ アラームの作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。
- たとえセキュリティ アラームをセットしていても、現金や貴重品は車内に放置しないでください。

セキュリティ アラームのセット方法

すべてのドアを閉め、キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）でドアを施錠すると、セキュリティ インジケーターが点灯し、セットを開始します。
約 30 秒後にセットが終了し、セキュリティ アラームは警戒状態になります。
警戒中は、セキュリティ インジケーターが点滅します。

セキュリティ インジケーター

アドバイス

- キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）以外の操作でドアを施錠した場合、セキュリティ アラームはセットされません。（キーレス エントリー・キー フリー システムの自動ロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティ インジケーターが点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をした場合、セキュリティ アラームのセットは中断されます。
  - 運転席ドアを解錠したとき
  - ドアを開けたとき
  - キーがエンジン スイッチのキー挿入口に差し込まれたとき（またはキー フリー システム装着車で、エンジン スイッチを“ON”の位置にしたとき）

キー フリー システム装着車の場合

- セキュリティ インジケーターは、イモビライザー機能と兼用しているため、セキュリティ アラームを解除しても、エンジン スイッチを“ACC”の位置にするまで消灯しません。
  また、エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にすると点滅します。

警戒中の作動

警戒中にキーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）以外でドアを開けると、警報が作動します。（1 次警報）
この間、警報が解除されなかった場合、さらに警報が作動します。（2 次警報）

アドバイス

- 警報作動中にドアを閉めても、警報は停止しません。
- 警報終了後、ドアを閉めると、セキュリティ アラームが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

○セキュリティ アラーム警報

▼ 1 次警報

- セキュリティ インジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

▼ 2 次警報

- セキュリティ インジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る

セキュリティ アラームの解除方法

キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）でドアを解錠するか、エンジン スイッチを“ON”の位置にすると解除できます。

アドバイス

- セキュリティ アラームは、車内に人が乗っているときや、ドア ウインド ガラスが開いているときにも作動します。セキュリティ アラームを誤作動させないために、車内に人が乗っているときや、ドア ウインド ガラスが開いているときは、セキュリティ アラームをセットしないでください。

警報の停止方法

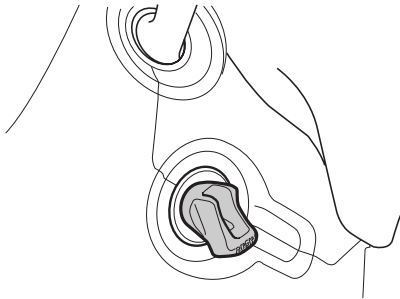
◯キーレス操作で警報を停止する

▼ 操作方法

すべてのドアを閉め、キーレス エントリー（またはキー フリー システムのキーレス操作・キー フリー操作）で施錠すると警報を停止できます。

◯エンジン スイッチを“ON”にして警報を停止する

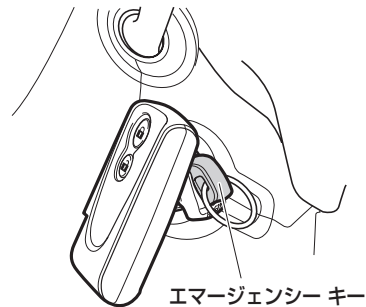
▼ 操作方法

電子カード キーを携帯して、エンジン スイッチを押したまま“ON”の位置にすると警報を停止できます。

◯エマージェンシー キーでエンジン スイッチを“ON”にして警報を停止する

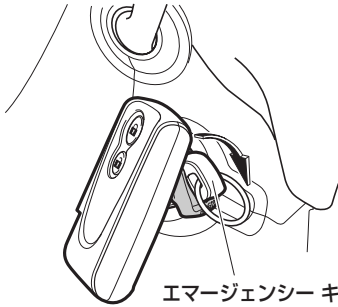
電池の消耗などにより、電子カード キーでエンジン スイッチを“ON”の位置にできない場合、電子カード キーに内蔵されているエマージェンシー キーを使用して警報を停止してください。

（電子カード キーで操作できない場合 → 83 ページ）

▼ 操作方法

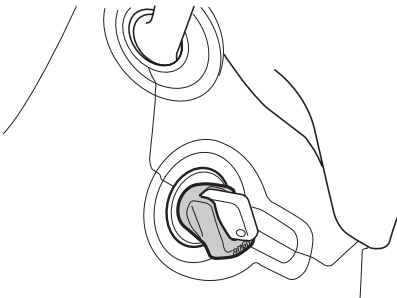
1. 電子カード キー裏面のダイハツ マーク付近をエンジン スイッチに接触させます。
2. エマージェンシー キーをエンジン スイッチのキー挿入口に挿入します。

アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

3. エンジン スイッチを押します。
4. エンジン スイッチを押したまま“ON”の位置にすると警報を停止できます。

○メイン キーでエンジン スイッチを“ON”にして警報を停止する

メイン キーによる通常操作や電子カードキーを紛失、または破損したときなど、エマージェンシー キーも使用できない場合は、付属のメイン キーを使用して以下のように警報を停止してください。

▼ 操作方法

1. メイン キーをキー挿入口に挿入し、エンジン スイッチを押します。
2. エンジン スイッチを押したまま“ON”の位置にすると警報を停止できます。

セキュリティ アラームの作動履歴の確認

セキュリティ アラームのセット中に警報（2 次警報まで作動した場合のみ）が作動したことを確認することができます。

▼ 確認方法

エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴り、2 次警報まで作動したことを知らせます。

アドバイス

- 作動履歴の確認は、2 次警報作動後、1 回のみ行うことができます。

セキュリティ アラームのメンテナンスについて

セキュリティ アラーム システムのメンテナンスは不要です。

⚠注意

- セキュリティ アラーム システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

ドアの開閉

▼操作を行う前に

⚠警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、法的にも義務付けられていますので、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

アドバイス

- ドアを施錠している場合でも、車を離れるときは貴重品などは車の中に置いたままにしないでください。

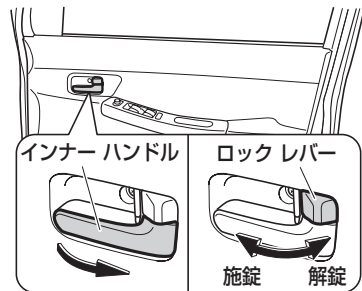
車外からの施錠、解錠

キーを確実に差し込んでから回します。キーを車両前側に回すと解錠され、後ろ側に回すと施錠されます。

アドバイス

- ドアのキー挿入口は助手席側には設定していません。

車内からの施錠、解錠

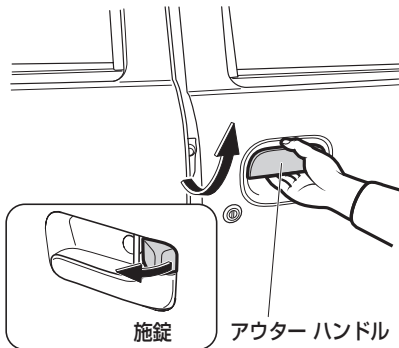
ロック レバーを押し込むと施錠できます。ロック レバーを手前に引くと解錠できインナー ハンドルを引くとドアが開きます。

車外からキーを使わない施錠

アドバイス

- キーを車内に置き忘れないようにしてください。不注意によりキーを車内に閉じ込めてしまう場合があります。
- キーを使用せずにドアを施錠するときにキーを手に持っていることを確認してからドアを閉める習慣を身に付ければ、車内にキーを閉じ込めてしまうことを防止できます。

○フロント ドア

▼操作方法

ロック レバーを押し込み、アウター ハンドルを引いたままドアを閉めて施錠します。

○リヤ ドア

▼操作方法

ロック レバーを押し込み、ドアを閉めて施錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。
以下の状態で作動します。

キーレス エントリー装着車

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき

キー フリー システム装着車

エンジン スイッチが“ACC”か“ON”の位置のとき、または車内に電子カード キーがあるとき

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのロック レバーを施錠方向に押し込み、運転席アウター ハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドア ロック レバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

アドバイス

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

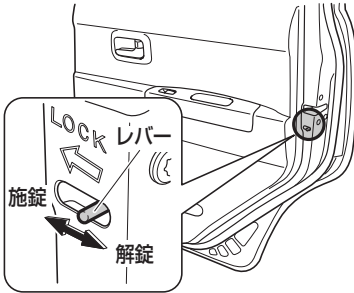
キー フリー システム装着車

- 電子カード キーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、キー閉じ込み防止機能が作動せず、施錠されることがあります。

チャイルド セーフティ

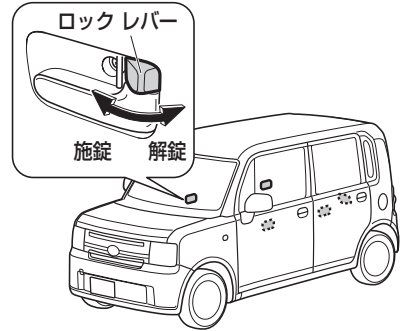
お子さまの安全のため、チャイルド セーフティを左右リヤ ドア後部に設けています。

▼ 操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドア ハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。ドアを開けるときは、車外のドア ハンドルで操作します。

⚠注意

- お子さまを後部座席に乗せるときは必ずチャイルド セーフティを使用してください。

パワー ドア ロック

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動して助手席ドア・左右リヤ ドア・バック ドアが施錠、解錠されます。

キー抜き忘れ警告ブザー

エンジン スイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置でいずれかのドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

バック ドア

▼操作を行う前に

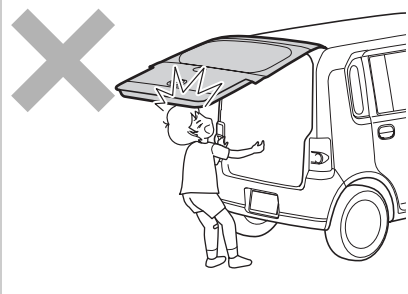
⚠警告

走行するときは

- 走行中はバック ドアを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 走行前はバック ドアを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

お子さまを乗せているときは

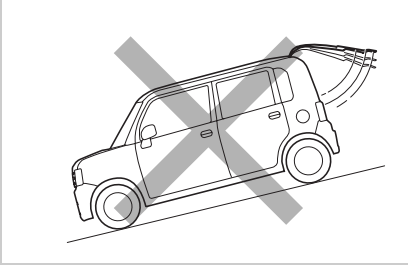
- お子さまにはバック　ドアの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。

- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。

⚠警告

バック　ドアを開閉するときは

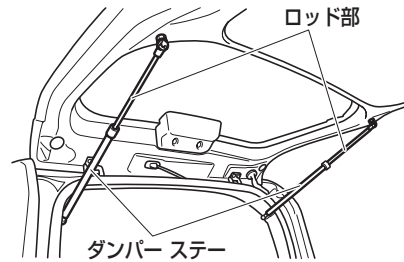
- バック　ドアの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。ドアで頭をぶつけたり、首や手を挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - バック　ドア周辺の安全を十分確認してください。
  - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - バック　ドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
  - バック　ドアは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
  - バック　ドアを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもバック ドアが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。
  ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

- バック ドアを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- バック ドアを支えているダンパー ステーを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりするおそれがあります。
- バック ドアにダイハツ純正用品以外のアクセサリーを取り付けないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

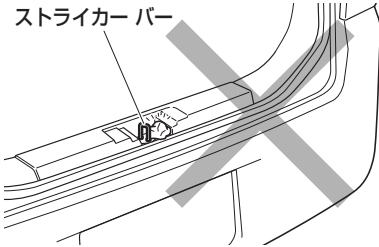
⚠注意

ダンパー ステーについて

- バック ドアには、ドアを支えるためのダンパー ステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。
  - ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
  - ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。

  - 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

⚠注意

ストライカー バーについて

- バック ドアを閉めるときはストライカー バーに異物がかみ込まないようにしてください。
  バーが破損し、バック ドアが閉まらなくなるおそれがあります。

車内からの施錠、解錠

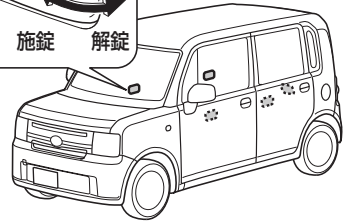
○バック ドア連動パワー ドア ロック

運転席ドアのロック レバーを操作すると、連動してバック ドアが施錠、解錠されます。このとき助手席ドア・リヤ ドアも同時に施錠、解錠されます。

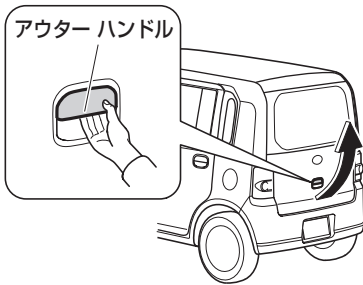
▼ 施錠方法

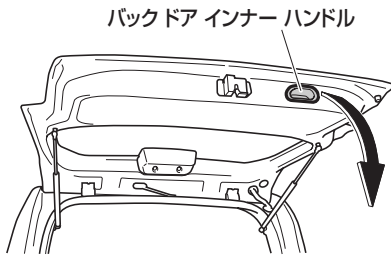
運転席ドアのロック レバーを押し込むと施錠できます。

▼ 解錠方法

運転席ドアのロック レバーを手前に引くと解錠できます。

バック ドアの開閉

▼ 開けるとき

解錠したあとでアウター ハンドルを引いて、バック ドアをゆっくりといっぱいまで持ち上げます。

▼ 閉めるとき

1. バック ドア インナー ハンドルを持ってバック ドアを途中までゆっくりと下げます。

⚠注意

- バック ドア インナー ハンドルで直接バック ドアを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをするおそれがあります。バック ドアは、必ず外から押して閉めてください。

2. ハンドルから手を離して、バック ドアを上から手で押さえつけるように閉めます。
3. 半ドアでないことを確認します。

ボンネット

▼ 操作を行う前に

⚠警告

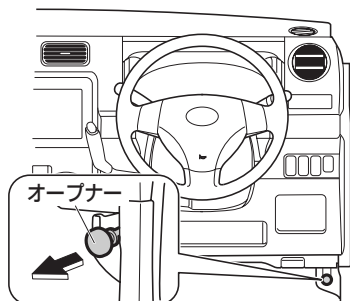
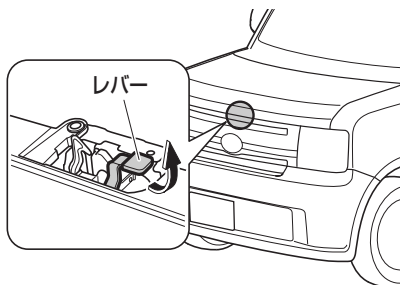
- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

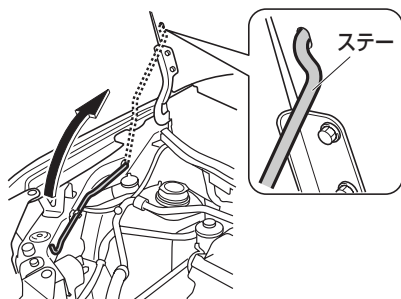
- ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあり大変危険です。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。

開けかた

▼ 操作手順

1. インストルメント パネル右下のオープナーを手前に引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。

2. ボンネット前部中央にあるキャッチフックのレバーを矢印の方向に引き上げ、もう一方の手でボンネットを持ち上げます。

⚠注意

- エンジン回転中や停止後は、レバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、レバーを持つ前に必ず確認してください。

3. ボンネットをステーで確実に支えます。

⚠注意

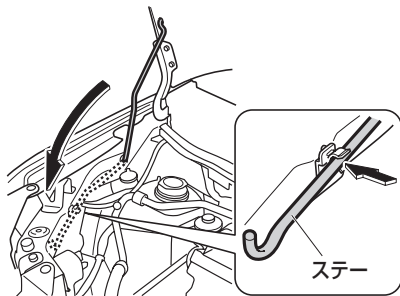
- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ステーを持つ前に必ず確認してください。
- ステーを確実に固定穴に差し込んでください。ステーが外れると大変危険です。

アドバイス

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けると、ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

閉めかた

▼ 操作手順

1. ボンネットを片手で支えて、ステーを元の位置へ戻します。

2. ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉めます。

アドバイス

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。

フューエル リッド

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - 車のドア、窓は閉めてください。
  - タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
  - フューエル キャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
  - フューエル キャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
  - 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
  - フューエル キャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

⚠警告

- フューエル キャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオート ストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリン スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエル キャップを閉める場合「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
- ダイハツ純正フューエル キャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリン スタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

● 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

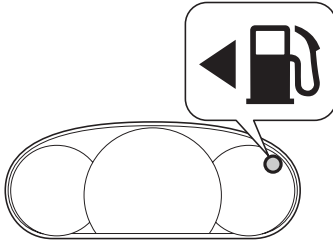
⚠注意

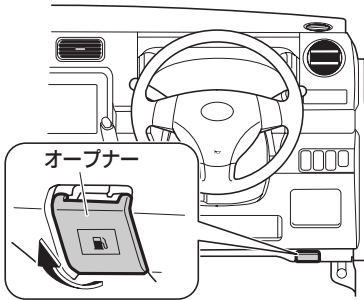
● 指定燃料は無鉛レギュラー ガソリン、または無鉛プレミアム ガソリンです。

- 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

フューエル リッドの開閉

アドバイス

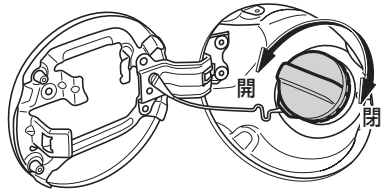
- メーター内にフューエル リッドの車両取り付け方向を示しています。

▼ 開けるとき

インストルメント パネルの右下にあるオープナーを引き上げます。

▼ 閉めるとき

リッドを押して閉めます。

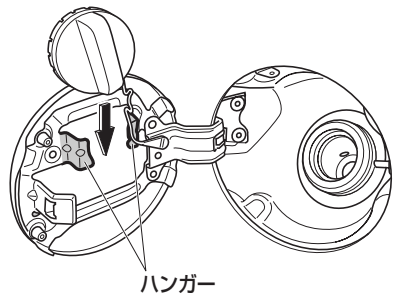
フューエル キャップの開閉

▼ 開けるとき

左に回して開けます。

▼ 閉めるとき

「カチッ」という音が一度するまで、右に回して閉めます。

フューエル キャップ ハンガー

給油中は、外したフューエル キャップをフューエル リッド裏側にあるハンガーにかけておくことができます。

パワー ウインド

スイッチ操作により運転席、助手席、後席のウインドの開閉ができます。

▼操作を行う前に

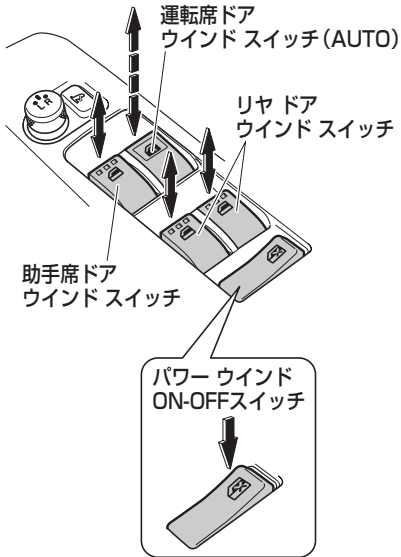
⚠警告

- パワー ウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワー ウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワー ウインドON-OFFスイッチを“OFF”にしてください。

アドバイス

- 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさないでください。故障の原因となるおそれがあります。
- ウインドを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けると故障の原因となりますので、操作完了後はすぐに手を離してください。
- パワー ウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。エンジン停止時に行うと、バッテリーあがりの原因になります。
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウインド スイッチの“開”または“閉”を連続操作しないでください。故障の原因となります。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、ウインド スイッチのマークが点灯します。

運転席ドア側スイッチ

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、使用できます。

○運転席ドア ウインド スイッチ (AUTO)

▼操作方法

スイッチを軽く押し下げている間ウインド ガラスは開き、軽く引き上げている間ウインド ガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。
「カチッ」と音がするまで押し下げる、または引き上げるとウインド ガラスは自動的に全開、全閉します。途中で止めるときは、軽く逆方向にスイッチを操作します。

▼エンジン スイッチ“LOCK”後作動機能

エンジン スイッチを“LOCK”または“ACC”の位置にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ウインド ガラスを開閉できます。

○助手席ドア　ウインド　スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド　ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。

○リヤ　ドア　ウインド　スイッチ

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド　ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。

○パワー　ウインドON-OFF　スイッチ

▼操作方法

スイッチの右側（マークの付いている方）を押すと“OFF”になり、運転席ウインド　ガラス以外は操作できなくなります。
スイッチの左側（マークのない方）を押すと解除されます。

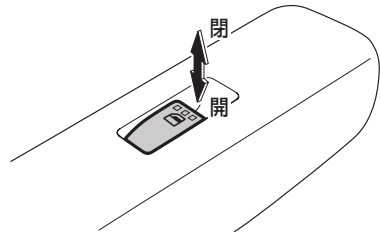
アドバイス

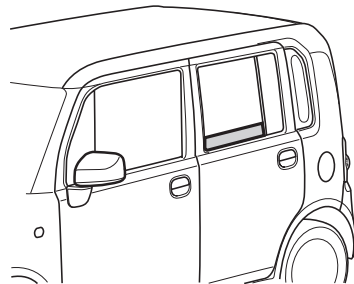
- スイッチを押して“OFF”にすると、助手席ドア側スイッチ・リヤ　ドア側スイッチのマークも消灯します。

助手席・リヤ　ドア側スイッチ

エンジン　スイッチが“ON”の位置のとき、使用できます。

▼操作方法

スイッチを押し下げている間ウインド　ガラスは開き、引き上げている間ウインドガラスは閉まります。
手を離すと、その位置で止まります。

アドバイス

- 後席左右のドア　ウインドは全開になりません。

挟み込み防止機構（運転席）

運転席ウインド ガラスを閉めるときに、窓枠とウインド ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインド ガラスの上昇を停止し、自動的にウインド ガラスが下降します。

アドバイス

- 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機構が作動しないことがあります。
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がウインド ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

運転席ドア ウインド ガラス が全閉しないときは

挟み込み防止機構が異常に作動してしまい、ウインド ガラスを全閉できないときは、運転席ドア ウインド スイッチで、下記の操作を行ってください。

▼操作方法

1. 車を停止し、エンジン スイッチを“ON”の位置にします。
2. 運転席ドア ウインド スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインド ガラスを全閉にします。
3. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 6 秒間スイッチを上に引き続けます。

アドバイス

- 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。
- 上記の操作を行ってもウインド ガラスが全閉しない場合はパワー ウインドの初期設定を行ってください。それでも反転して閉じ切らない場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

（初期設定→ 106 ページ）

初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワー ウインドの初期設定をしてください。
パワー ウインドの初期設定がされていないと、下記の機能は作動しません。

- 運転席ウインド ガラスの
  - 自動開閉機能
  - 挟み込み防止機構
  - エンジン スイッチ“LOCK”後作動機能

▼ 操作手順

1. エンジン スイッチを“ON”の位置にします。
2. 運転席ドア ウインド スイッチを下に押し続け、ウインド ガラスを全開にします。
3. 運転席ドア ウインド スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままウインド ガラスを全閉にします。
4. 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約２秒間スイッチを上に引き続けます。

車体各部の調整

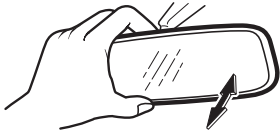
ルーム ミラー

▼ 操作を行う前に

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

▼ 調整のしかた

手でルーム ミラーの角度を調整します。

電動格納式ドア ミラー

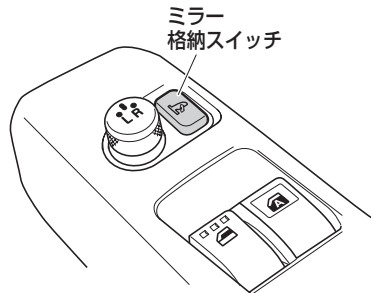
▼ 操作を行う前に

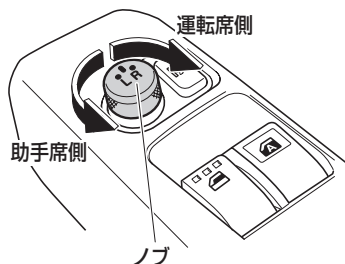
⚠注意

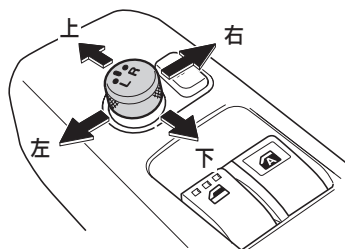
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。

ミラーの格納、角度調整をスイッチまたはノブの操作で行うことができます。
エンジン スイッチが“ACC”または“ON”の位置のときに使用できます。

▼ 格納のしかた

ミラー格納スイッチを押すと、ミラーを格納することができます。もう一度押すと元に戻ります。走行するときは、必ず元に戻してください。

▼ 調整のしかた

1. ノブを調整する側にまわします。

2. ノブを動かして、ミラーの角度を調整します。

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。

アドバイス

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 調整ノブを中立（中央）の位置にすると操作することができません。

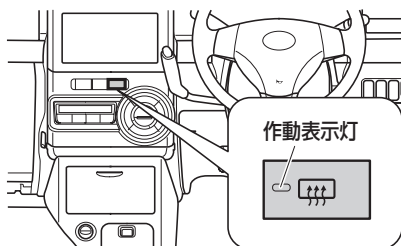
電動格納式ヒーテッド ドア ミラー

オプション/グレード別装備

曇り取り機能を装備した電動格納式ドア ミラーです。
雨天時などに、ドア ミラーが曇ったとき、ドア ミラーの曇りを取ることができます。

（電動格納式ドア ミラー →107 ページ）

▼ 操作方法

リヤ ウインド デフォッガー スイッチを押すと、作動表示灯が点灯し、ドア ミラーが暖められ曇りが取れます。
作動を停止するときは、リヤ ウインド デフォッガー スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車

オート エアコン装着車

アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

車を運転するにあたって

車を運転するうえでの各部のはたらき、装置の使いかた、運転の方法について説明しています。

■ メーターのはたらき

■ 表示灯、警告灯のはたらき

■ スイッチの使いかた

■ 運転装置の使いかた

■ エンジンのかけかた

■ CVT車の運転

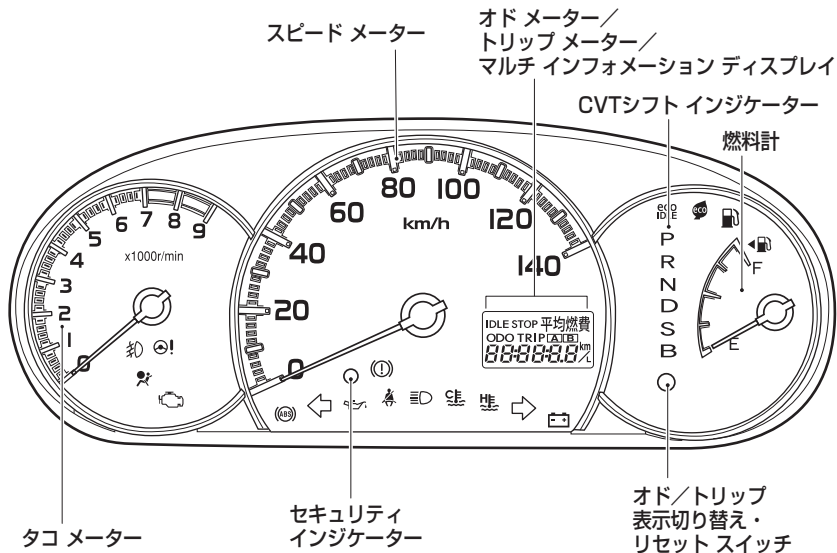
■ アイドリング ストップ システムの使いかた

■ エコ発電制御

メーターのはたらき

メーター

標準車

グレードの違い、オプションも含まれています。

○メーター照明

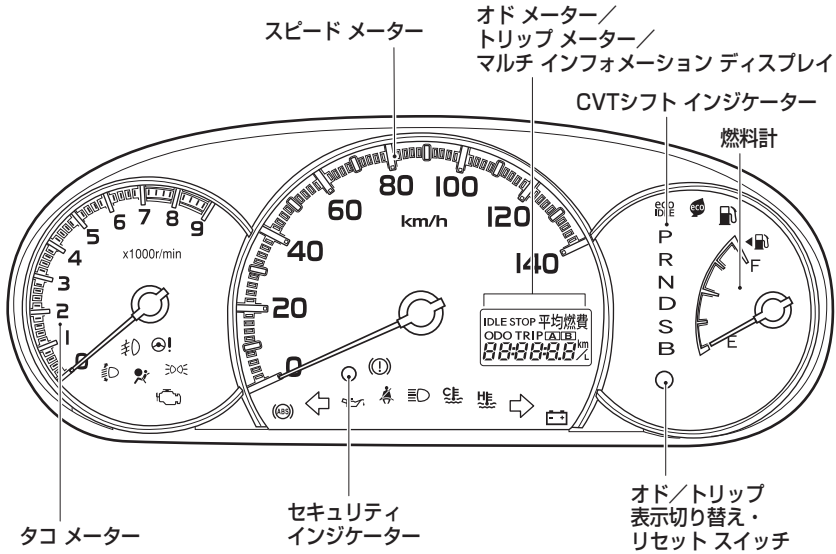
- 車幅灯に連動して点灯・消灯します。
- 車幅灯が消灯している状態で、エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”の位置のときは、ドア連動機能により点灯・消灯します。

（ドア連動機能→ 214 ページ）

アドバイス

- メーター照明の照度は調整することができます。

（照度調整→ 118 ページ）

カスタム仕様車

○メーター照明

- エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、車幅灯の点灯・消灯に関わらず点灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。
- エンジン スイッチが“ACC”または“LOCK”の位置のときは、ドア連動機能により点灯・消灯します。

（ドア連動機能→ 214 ページ）

アドバイス

- ライトの点灯・消灯の確認は、テール インジケーターで行ってください。

（テール インジケーター→ 119 ページ）

- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。

（照度調整→ 118 ページ）

メーターのはたらき

スピード メーター

走行速度をkm/h で表示します。

タコ メーター

1分間当たりのエンジン回転数を示します。

⚠注意

- 指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、燃料残量を表示します。

燃料残量が2WD車は約 6ℓ、4WD車は約5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

（燃料残量警告灯→ 126 ページ）

⚠注意

指針が“E”に近付いたり、燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を補給してください。
  燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

オド メーター／トリップ メーター／マルチ インフォメーション ディスプレイ

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、表示されます。

○オド メーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

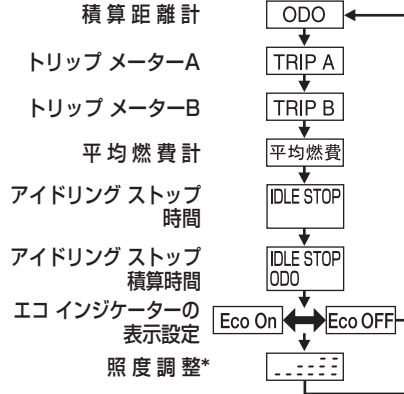
○トリップ メーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

トリップ メーターは、同時に 2 つの区間の走行距離を表示することができます。

○オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチ

▼表示を切り替えるには

スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

＊ 車幅灯が点灯しているときに表示されます。

▼トリップ メーター表示をリセットするには

リセットするトリップ メーター（AまたはB）を表示させ、スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

メーターのはたらき

○平均燃費計

表示をリセットしてからの平均燃費を約10秒ごとに更新して表示します。

平均燃費
23.4 km/L

アドバイス

- エンジン スイッチを“ON”の位置にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、ブランク表示になります。
- 給油後、約 2km/h以上の速度になると、自動でリセットされ（表示が「0.0km/L」になり）ます。自動でリセットされない場合は、平均燃費を表示させているときに、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを押し続けるとリセットされます。

○アイドリング ストップ時間

エンジン スイッチを“ON”の位置にしてからのeco IDLEによるアイドリング ストップ時間を表示します。

IDLE STOP
00:03:45

▼ アイドリング ストップ時間表示のリセットについて

エンジン スイッチを“LOCK”の位置にすると、表示がリセットされます。リセット後、エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、表示が“00:00:00”になります。

○アイドリング ストップ積算時間

表示をリセットしてからのeco IDLEによるアイドリング ストップ積算時間を表示します。

IDLE STOP
ODO
00:12:34

▼ アイドリング ストップ積算時間表示をリセットするには

アイドリング ストップ積算時間を表示させ、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

○エコ インジケーターの表示設定

Eco On（またはEco OFF）を表示させて、オド／トリップ表示切り替え・リセットスイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“Eco On”、“Eco OFF”が切り替わります。

（エコ インジケーター
→ 122 ページ）

表示設定	エコ インジケーター
Eco On	二酸化炭素排出量の少ない、環境にやさしい運転をしていると点灯します。
Eco OFF	常時消灯します。

メーターのはたらき

○照度調整

照度調整表示中、オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが下表のように変わります。

明るさ	表示	照度レベル
明るい	_ _ _ _ _ _	レベル1
↕	_ _ _ _	レベル2
	_ _	レベル3
暗い	_	レベル4

☝アドバイス

- エンジン スイッチが“ON”の位置で、車幅灯が点灯しているときのみ、照度調整を表示させることができます。

カスタム仕様車

- “レベル 1”に設定すると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。

表示灯、警告灯のはたらき

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯

○方向指示表示灯
エンジン スイッチが“ON”の位置で、方向指示灯を点滅させると、同時に点滅します。

○非常点滅表示灯
エンジン スイッチの位置に関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に点滅します。

アドバイス

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッド ランプ上向き表示灯

エンジン スイッチの位置に関係なく、ヘッド ランプを上向きの状態にすると点灯します。

テール インジケーター

カスタム仕様車

エンジン スイッチの位置に関係なく、車幅灯が点灯しているときに点灯します。

フォグ ランプ表示灯

オプション/グレード別装備

エンジン スイッチの位置に関係なく、フォグ ランプを点灯させると点灯します。

（フォグ ランプ スイッチ
→ 137 ページ）

水温表示灯

- エンジン スイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が低いときに点灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、暖機を十分に続けていても、水温センサー等に異常があると点灯したままになります。

⚠注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても、点灯したままの場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジン冷却水温が異常に高くなったときは、水温警告灯が点滅・点灯します。

（水温警告灯→ 125 ページ）

セキュリティ インジケーター

キー フリー システム装着車

- エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- エンジン スイッチを“LOCK”から“ACC”の位置にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

（イモビライザー機能→ 145 ページ）

⚠注意

- 電子カード キーによりエンジンを始動した場合、エンジン スイッチが“ACC”、または“ON”の位置で、下記のことを行うと、表示灯が高速で点滅し、警告ブザー（室内は「ピピピピピ」、室外は「ピッピッピッ」という音）が鳴ることで、電子カード キーの持ち出しを警告します。
  - いずれかのドアを一度開けて、電子カード キーを車室内発信機の作動範囲外に移動させ、ドアを閉めたとき。

（作動範囲→ 141 ページ）

- また、電子カード キーを車室内発信機の作動範囲外に置いたまま、運転席ドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われることがあります。

アドバイス

- セキュリティ インジケーターはセキュリティ アラームと兼用しているため、キー フリー操作・キーレス操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかわります。
  また、セキュリティ アラームが解除されていない場合は、エンジン スイッチを“ACC”の位置にしても消灯しない場合があります。

エンジン スイッチを押すと、高速で点滅した場合

- 電子カード キーが車室内発信機の作動範囲外にあることが考えられます。
  運転者は電子カード キーを身に付けてください。
  それでも消灯しない場合、電池が消耗しているおそれがあります。早めに電池を交換してください。
  (キーの電池交換→ 268 ページ)

キーレス エントリー装着車

(セキュリティ アラーム
→ 85 ページ)

CVTシフト インジケーター

P
R
N
D
S
B

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、使用中のシフト レバーの位置が点灯します。

⚠注意

“D”が点滅した場合

- CVTシステムの異常が考えられます。
  ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  (CVT警告灯→ 125 ページ)

表示灯、警告灯のはたらき

エコ インジケーター

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転をしていると、点灯します。
  必要以上にアクセル ペダルを踏むと、消灯します。

アドバイス

- エコ インジケーターの表示設定を“Eco On”に設定していないと、点灯しません。
  （エコ インジケーターの表示設定→ 117 ページ）
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は点灯します。
  （eco IDLE（エコ アイドル）→ 162 ページ）

eco IDLE表示灯

eco
IDLE

（eco IDLE表示灯／警告灯 → 169 ページ）

警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジン スイッチを“ON”の位置にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

エンジン警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠注意

点灯・点滅した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

油圧警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジン オイルの圧力に異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
  ただちにダイハツ サービス工場にご連絡ください。

アドバイス

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイル レベル ゲージで行ってください。（オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンス ノート」参照）

充電警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、エンジンを始動して、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記の場合に点灯します。

▼点灯理由
- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液の液量が不足しているとき
- EBD制御に異常があるとき

▼駐車ブレーキが解除されている場合
エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

○警告ブザー
駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。
駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

⚠注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキ パッドの摩耗が考えられます。
ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合
- ブレーキ液量の不足が考えられます。
この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
効きが悪いときは、ブレーキ ペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合
- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

水温警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、エンジン冷却水温が異常に高くなると点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠注意

点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバー ヒートが考えられます。
  ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。
  （オーバー ヒートの処置
  → 244 ページ）

○警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が点滅、または点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

アドバイス

- ブザーは警告灯が点滅時は断続的に鳴り、警告灯が点灯に変わると同時に連続音に変わります。

CVT警告灯

エンジン スイッチが“ON”の位置で、CVTシステムに異常があるとCVTシフト インジケーターの“D”の位置が点滅します。

（CVTシフト インジケーター
→ 121 ページ）

⚠注意

“D”が点滅した場合

- CVTシステムの異常が考えられます。
  ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

表示灯、警告灯のはたらき

シート ベルト未装着警告灯（運転席）

- エンジン スイッチが“ON”の位置で、運転席側シート ベルトを装着していないと点滅します。
- シート ベルトを着用すると消灯します。

○警告ブザー

シート ベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

アドバイス

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約20km/h以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシート ベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

燃料残量警告灯

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき、燃料残量が 2 WD車は約 6ℓ、 4 WD車は約 5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点灯します。

（燃料計→ 114 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- ただちに燃料を補給してください。燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

ABS警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、ABSに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、ダイハツ サービス工場にご連絡ください。

アドバイス

- エンジン始動後に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

SRSエアバッグ警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼異常があると点灯するシステム

- SRSエアバッグ
  （SRSエアバッグ→ 62 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構 → 48 ページ）

⚠注意

点灯した場合

- 車両にできるだけショックをあたえずに走行し、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

ロー ビーム・オート レベリング警告灯

ディスチャージ ヘッド ランプ装着車

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、ロー ビーム・オート レベリング機能に異常があると点灯します。
  (ロー ビーム・オート レベリング機能 → 132 ページ)

⚠注意

走行中に点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。
  再度エンジン スイッチを“ON”の位置にしたとき、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すれば、そのまま走行することができます。
  消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

電動パワー ステアリング警告灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置で、電動パワー ステアリング システムに異常があると点灯します。

⚠注意

点灯した場合

- ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
  これは、パワー ステアリング モーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワー ステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
  この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
  ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。
- 停車中に長時間、エンジンの空ぶかしを行ったときは、警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなりますが、エンジンを再始動し、走行を開始すれば警告灯は消灯し、通常の重さに戻ります。

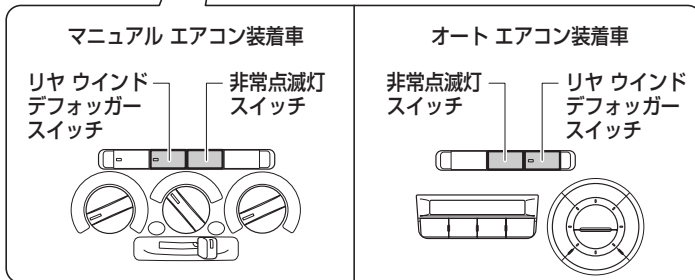
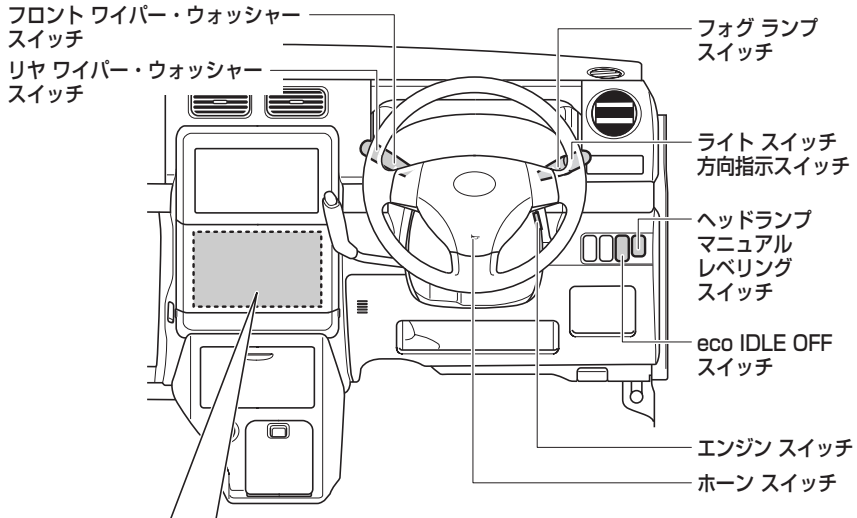
スイッチの使いかた

スイッチの名称

グレードの違い、オプションも含まれています。

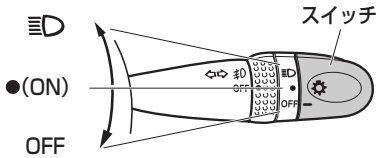
フロント ワイパー・ウォッシャー スイッチ
リヤ ワイパー・ウォッシャー スイッチ
フォグ ランプ スイッチ
ライト スイッチ
方向指示スイッチ
ヘッドランプ マニュアル レベリング スイッチ
eco IDLE OFF スイッチ
エンジン スイッチ
ホーン スイッチ

マニュアル エアコン装着車
リヤ ウインド デフォッガー スイッチ
非常点滅灯 スイッチ

オート エアコン装着車
非常点滅灯 スイッチ
リヤ ウインド デフォッガー スイッチ

ライト スイッチ

ライトの点灯

▼ 操作方法

スイッチを回すと、下表のライト類が点灯します。

ライト ＼ スイッチ位置	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
OFF	—	—
●（ON）	—	点灯
≣D	点灯	点灯

⚠注意

- エンジンを停止した状態で長時間ライト類を点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

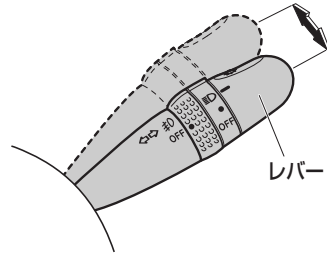
ライトの消灯

▼ 操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

ヘッド ランプの切り替え

▼ 操作方法

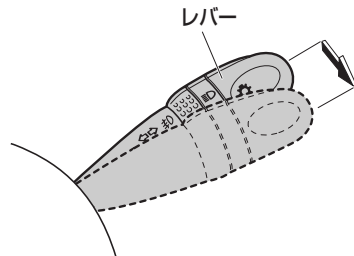
ライト スイッチが“≣D ”の位置のときレバーを押すと、前照灯が上向き（ハイ ビーム）になり、戻すと下向き（ロー ビーム）になります。

⚠注意

- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

▼ 一時的に使用する場合

アドバイス

- 前照灯が上向きのときは使用できません。

レバーを手前に引いている間、前照灯が上向きに点灯します。

ライト消し忘れ警告ブザー

ライトを点灯したままで、エンジン スイッチからキーを抜き、いずれかのドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

ディスチャージ ヘッド ランプ

オプション/グレード別装備

ディスチャージ ヘッド ランプは、ランプ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

⚠警告

- ディスチャージ ヘッド ランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。ディスチャージ ヘッド ランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電するおそれがあり危険です。
  ランプを交換・修理・廃棄するときは、必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。

アドバイス

- ディスチャージ ヘッド ランプが点滅を繰り返すようになると電球の寿命が考えられます。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- 衝突などでランプ周りに衝撃を受けた場合は点灯装置も衝撃を受け正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- システムの異常により電圧がディスチャージ ヘッド ランプの作動電圧範囲から外れたときは、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
  - 点灯中に作動電圧範囲から外れたときは消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
  - 点灯操作をするときに作動電圧範囲から外れているときは、ライト スイッチを操作しても点灯しません。

○ロー ビーム・オート レベリング機能

乗員数や積載量などの車両姿勢の変化に対して、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）の上下方向を自動的に調整する装置です。

アドバイス

- エンジンを始動して、初めてヘッド ランプを点灯したとき、システムの正常な作動をチェックしているため、ヘッド ランプの光軸が動くことがありますが、異常ではありません。
- ヘッド ランプの光軸に異常を感じたときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

ヘッド ランプ マニュアル レベリング スイッチ

ハロゲン ヘッド ランプ装着車

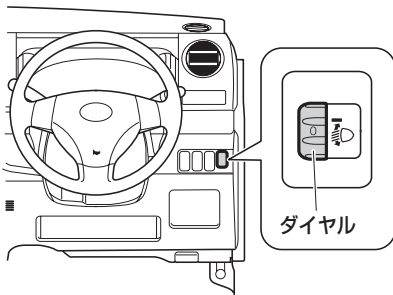
ヘッド ランプが点灯しているときに使用できます。
乗員数や積載量によって車両の姿勢が変化し、ヘッド ランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。

アドバイス

ディスチャージ ヘッド ランプ装着車

- ヘッド ランプの光軸は自動的に調整されるため、ヘッド ランプ マニュアル レベリング スイッチは装着されていません。

▼ 操作方法

ダイヤルを回転させると、ヘッド ランプの光軸が上下に変わります。
ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。

アドバイス

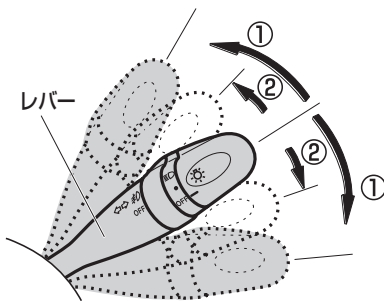
- 乗員数などに応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置	
	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0
運転席と助手席に乗車時	0.5	0.5
4名乗車時	2	2
4名乗車で荷室満載時	3	2.5
運転席のみ乗車で荷室満載時	4	3.5

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

方向指示スイッチ

▼ 操作方法

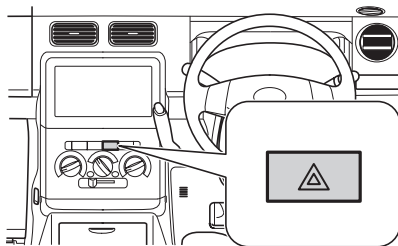
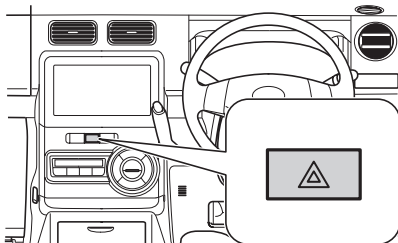
レバーを①の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。車線変更などのときには、レバーを②の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。

アドバイス

- ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

非常点滅灯スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

マニュアル エアコン装着車

オート エアコン装着車

⚠注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。
- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー･ウォッシャースイッチ

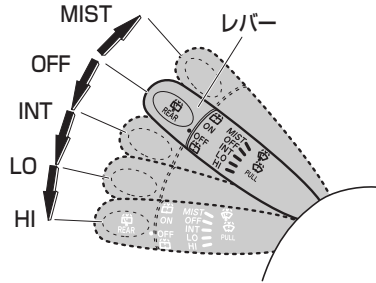
⚠注意

- 空ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパー ゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパー モーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパー モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。
- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき使用できます。

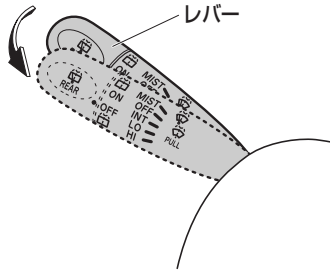
○ワイパーの使いかた

レバーを下げると、ワイパーが作動します。

MIST	一時作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

アドバイス

- MIST（一時作動）はレバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと“OFF”に戻ります。
- 寒冷地仕様車のワイパーは、雪がたまったときにワイパーの反転位置を切り替える機構になっています。この機構の作動中に「コン、コン」という音が発生しますが、異常ではありません。

○ウォッシャー液の噴射

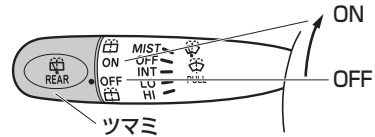
レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

アドバイス

- フロント ウォッシャーを作動させると連動してフロント ワイパーが低速作動します。

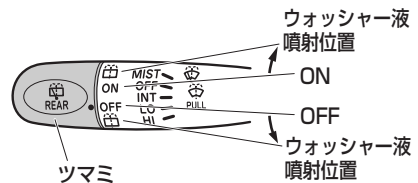
リヤ

エンジン スイッチが“ON”の位置のとき使用できます。

○ワイパーの使いかた

ツマミを“ON”の位置に回すと、リヤ ワイパーが作動します。

○ウォッシャー液の噴射

リヤ ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを“ON”の位置から上側の“ウォッシャー液噴射位置”に回します。

また、ツマミを“OFF”の位置から下側の“ウォッシャー液噴射位置”に回しても噴射します。

○リバース連動リヤ ワイパー

フロント ワイパーが作動中、または作動後約 10 秒以内に、シフト レバーをⓇにすると、リヤ ワイパーが数回作動します。

アドバイス

- 下記の場合、シフト レバーをⓇにしても、リヤ ワイパーは作動しません。
  - フロント ワイパーが作動後、約 10 秒以上経過しているとき
  - フロント ウォッシャーを作動させてから約 10 秒以内のとき
- 機能を停止することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

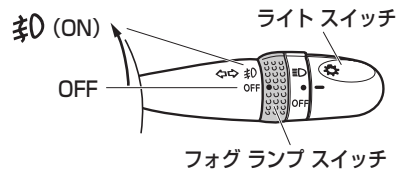
フォグ ランプ スイッチ

オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。

▼ 操作方法

車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にすると、メーター内のフォグ ランプ表示灯が点灯し、フォグ ランプが点灯します。

消灯するときは、スイッチを“OFF”にしてください。フォグ ランプ表示灯も消灯します。

リヤ ウインド デフォッガー スイッチ

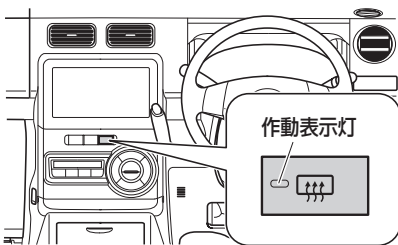
リヤ ウインド ガラスの曇りを取るときに使用します。

▼操作方法

スイッチを押すと作動表示灯が点灯し、リヤ ウインド ガラスと、電動格納式ヒーテッド ドア ミラー装着車はドア ミラーが暖められ曇りが取れます。

作動を停止するときは、スイッチをもう一度押してください。作動表示灯も消灯します。

マニュアル エアコン装着車

オート エアコン装着車

アドバイス

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。バッテリーあがりの原因になります。
- リヤ ウインド ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

eco IDLE OFFスイッチ

（eco IDLE OFFスイッチ → 170 ページ）

ホーン スイッチ

ハンドルの📯マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

アドバイス

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

運転装置の使いかた

エンジン スイッチ

⚠警告

- 走行中は、エンジン スイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

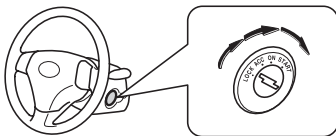
エンジンをかけるときやオーディオを聞くときなどに使用します。

⚠注意

- エンジンを止めた状態で、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

キー差し込みタイプ

キー フリー システム装着車以外

挿入口にキーを差し込んで回し、エンジンの始動、停止を行います。

LOCK	キーを抜き差しする位置です。キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	エンジンを止めたまま、オーディオが聞ける位置です。
ON	エンジン回転中の位置です。
START	エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”の位置にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。

アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

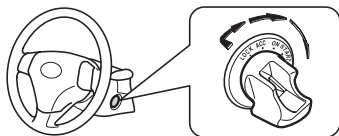
ハンドル ロックを解除するには

- キーが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

キー フリー タイプ

キー フリー システム装着車

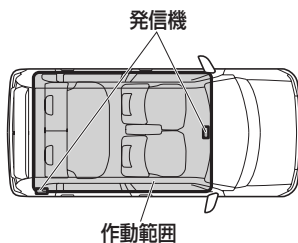
発信機から発する電波を電子カード キーが感知することによって、エンジン スイッチのロックが解除され、キーの差し込み操作なしで、エンジンの始動、停止を行うことができます。

- 電子カード キーを所持して作動範囲に入ると、エンジン スイッチを“LOCK”から“ACC”の位置に回すことができます。

LOCK	メイン キー、エマージェンシー キーを抜き差しする位置です。ハンドルがロックされ、キー フリー システムの通信を開始します。
ACC	エンジンを止めたまま、オーディオが聞ける位置です。キー フリー システムの通信は解除されます。
ON	エンジン回転中の位置です。キー フリー システムの通信は解除されます。
START	エンジンを始動するときの位置です。手を離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。

⚠注意

- エンジン始動後は、すぐにエンジン スイッチから手を離してください。“START”の位置にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- エンジンを止めた状態で、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にしたまま長時間放置しないでください。バッテリーあがりの原因になります。

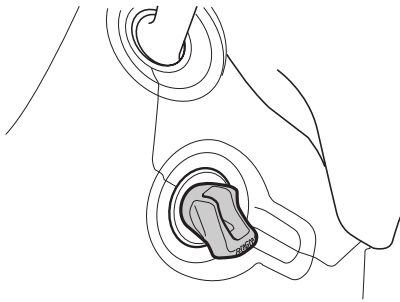
○作動範囲

車室内です。

アドバイス

- インストルメント パネルの上や中（グローブ ボックス内など）・荷室・ドア ポケット内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドア ハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。
- エンジン始動後に電子カード キーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、電子カード キーが車内に無いためにエンジンの再始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓から電子カード キーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

（セキュリティ インジケーター → 120 ページ）

○エンジンの始動

1. 電子カード キーを携帯し、運転席に座ります。
2. エンジン スイッチを押します。
3. エンジン スイッチを押したまま回します。
   エンジン スイッチを“ACC”の位置にすると、セキュリティ インジケーターが消灯します。
   （セキュリティ インジケーター → 120 ページ）

アドバイス

- エンジン スイッチを押したとき、セキュリティ インジケーターが消灯せず、高速で点滅したときは、電子カード キーが作動範囲外にある可能性があります。電子カード キーを確認してください。
- エンジン スイッチを回すときは、必ず押したままゆっくり回してください。押してすぐに回すと引っかかるおそれがあります。
- 通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。その場合は、いったんエンジン スイッチを“ACC”の位置に戻してから、再度始動し直してください。
- 電子カード キーによるエンジン停止時、エンジン スイッチが“ACC”の位置でドアを開けると、ブザー（断続音）が鳴り、エンジン スイッチの戻し忘れを警告します。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジン スイッチが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらエンジン スイッチを回してください。

○エマージェンシー キーによるエンジンの始動

電池の消耗などにより、電子カード キーでエンジンが始動できない場合、電子カード キーに内蔵されているエマージェンシー キーを使用してください。

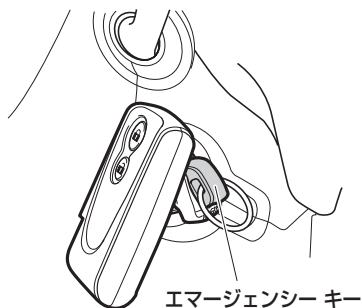
▼エマージェンシー キーの取り出しかた

（電子カード キーで操作できない場合 → 83 ページ）

▼操作方法

1. 電子カード キー裏面のダイハツ マーク付近をエンジン スイッチに接触させます。
2. エマージェンシー キーをエンジン スイッチのキー挿入口に挿入します。

アドバイス

- キーは確実にエンジン スイッチに差し込んで操作してください。

3. エンジン スイッチを押します。
4. エンジン スイッチを押したまま回します。

5. エンジン スイッチを“ACC”の位置にすると、セキュリティ インジケーターが消灯します。

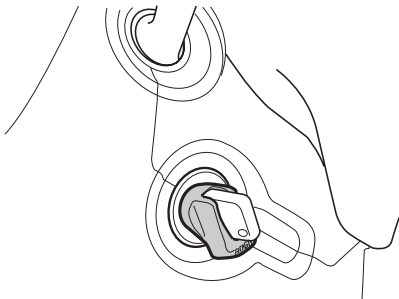
（セキュリティ インジケーター → 120 ページ）

○メイン キーによるエンジンの始動

電子カード キーを紛失、または破損したときなど、エマージェンシー キーも使用できない場合は、付属のメイン キーを使用してください。

▼操作方法

1. メイン キーをキー挿入口に挿入し、エンジン スイッチを押します。
2. エンジン スイッチを押したまま回します。
   エンジン スイッチを“ACC”の位置にすると、セキュリティ インジケーターが消灯します。

（セキュリティ インジケーター → 120 ページ）

アドバイス

エマージェンシー キー、メイン キーを使用するときは

- 確実にメイン キー、またはエマージェンシー キーを奥までしっかりと差し込んでください。
  確実にキーが差し込まれていない状態でも、エンジン スイッチが回る場合があります。この場合、エンジン スイッチの位置に関係なく、キーが抜けるおそれがあります。
  キーが抜けてしまった場合は、“LOCK”以外の位置でキーを差し込むことはできませんので、いったん、車を交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで戻してから、再度キーを差し込んでください。

ハンドル ロックを解除するには

- エンジン スイッチが“LOCK”から“ACC”の位置に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらエンジン スイッチを回してください。

キー インター ロック

誤操作防止のため、シフト レバーがⓅレンジ以外のときに、エンジン スイッチが“LOCK”の位置まで回らないようにする装置です。

▼ 操作方法

エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にするときは、シフト レバーをⓅレンジにしてから行います。

⚠注意

キーレス エントリー装着車

- Ⓟレンジ以外では、キーは“LOCK”位置まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

キー フリー システム装着車

- シフト レバーがⓅレンジ以外でも、“ACC”から左（“LOCK”）側に回りますが、“LOCK”位置の手前で止まり、“LOCK”位置まで回すことはできません。
  また、キーを挿入しているとき、この位置（“LOCK”位置の手前）では、キーを抜くことができません。

イモビライザー機能

キー フリー システム装着車

車両の盗難防止のため、電子カード キーおよびメイン キーには信号発信機が内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

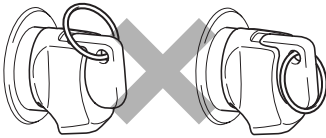
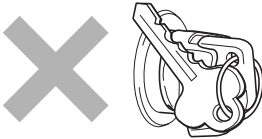
▼ 操作方法

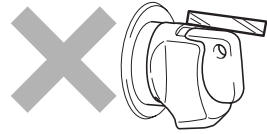
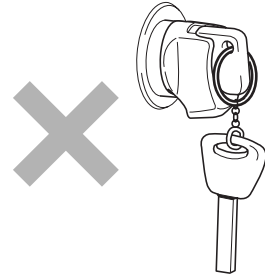
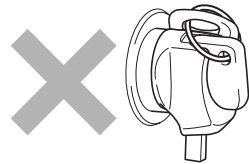
- エンジン スイッチを“ACC”から“LOCK”の位置にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティ インジケーターが点滅します。
  （セキュリティ インジケーター → 120 ページ）
- エンジン スイッチを“LOCK”から“ACC”の位置にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティ インジケーターが消灯します。

アドバイス

- セキュリティ インジケーターはセキュリティ アラームと兼用しているため、キー フリー操作・キーレス操作によりドアを施錠すると、約 30 秒間点灯にかわります。
  また、セキュリティ アラームが解除されていない場合は、エンジン スイッチを“ACC”の位置にしても消灯しない場合があります。

アドバイス

- 電子カード キー、メイン キーに登録された信号はキーごとに異なります。
- メイン キーでエンジンの始動、停止を行う場合、下記のような状態では、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。
  - キー グリップに金属製のリングをのせたままのとき

  - キー グリップにほかのキーの金属部が接しているとき

アドバイス

  - キー グリップに金属製の物が接しているとき

  - メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号発信機内蔵の物）と近いとき

  - メイン キーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号発信機内蔵の物）と重なっているとき

駐車ブレーキ

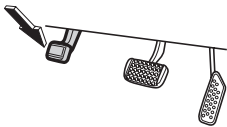
⚠注意

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
  駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼かけるとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルをいっぱいまで踏み込みます。
- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

▼解除するとき

- 右足でブレーキ ペダルを踏みながら、左足でパーキング ペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキング ペダルをゆっくり戻します。
- エンジン スイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。

⚠注意

- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキ ペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキング ペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときは必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

アドバイス

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

（ブレーキ警告灯→ 124 ページ）

坂道に駐車するとき

▼操作方法

坂道に駐車するときは、駐車ブレーキをかけるとともに、シフト レバーをⓅレンジに入れます。さらに輪止めもしてください。

ターボ車

オプション/グレード別装備

⚠注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコ メーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイル フィルターの交換を必ず行ってください。

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング状態にしてからエンジンを止めてください。

運転状態	アイドリング時間
一般走行後	―
高速走行後、登坂走行後	約1分

アドバイス

- アイドリング状態にするときは駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れてください。

4 WD車

オプション/グレード別装備

⚠注意

- 4WD車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。
  また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
  万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- 4WD車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

フル タイム 4 WDシステム

アドバイス

- フル タイム 4WDシステムは、2WDと4WDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。また 4WD表示灯もありません。

4WD車のタイヤ交換

4WD車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。
タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

⚠注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤ交換をするときは、4 輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッド パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

アドバイス

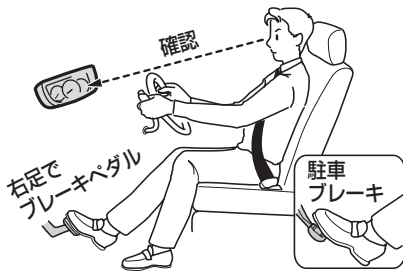
- タイヤ空気圧の点検は最低でも月に 1 回行ってください。タイヤの空気圧が前輪と後輪で大きく異なるときは、車の性能が十分に発揮できません。（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤのローテーションは 5,000kmごとに行ってください。タイヤ間で摩耗差があると車の性能が十分に発揮できません。
- タイヤ チェーンは必ず前輪に装着してください。

エンジンのかけかた

CVT車

エンジン始動の準備

▼ 操作方法

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーがⓅレンジの位置にあることを確認します。
2. ペダル類が確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるようにシートの位置を調整します。
3. アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルを右足で踏み位置を確認します。

エンジンをかけるとき

▼ 操作方法

1. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置まで回します。

⚠注意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。
- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

アドバイス

- エンジンの始動性を良くするためにライト、リヤ ウインド デフォッガー、ヒーター ファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。
- キー フリー システム装着車で電子カード キーを使用してエンジン始動する場合、通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。そのときは、いったんエンジン スイッチを“ACC”の位置にしてから、再始動してください。

○イージー スタート サポート

イージー スタート サポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。
エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジン スイッチを“START”の位置で保持する必要はありません。

アドバイス

- イージー スタート サポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、イージー スタート サポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

エンジンを止めるとき

▼操作方法

エンジンを止めるときは、アイドリング回転にしてからエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”の位置にします。

⚠注意

- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリングを 1 分程度行ってください。

CVT車の運転

CVT車

CVT車は、ギヤ チェンジやクラッチ ペダルの操作から解放され、運転は大変楽になりますが、いくつかの特性があります。CVT車の運転の基本を理解し、正しく操作する習慣を身に付けてください。

CVT車の特性

○クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドル アップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキ ペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 停車中は、平坦時であっても車が動かないように、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

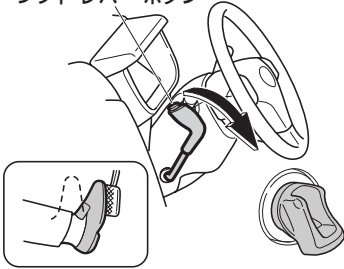
シフト レバー

シフト レバーの操作は確実に行ってください。

○シフト ロック装置

誤操作防止のため、シフト ロック装置が付いています。

▼シフト ロック解除方法

シフト ロックを解除する場合は、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にし、ブレーキ ペダルを踏むと、シフト レバーの操作ができます。

アドバイス

- シフト レバーはブレーキ ペダルを踏みながらでないと、Ⓟレンジからほかのレンジへは動きません。
- エンジン スイッチが“LOCK”の位置では、ブレーキ ペダルを踏んでもシフト レバーはⓅレンジからほかのレンジへは動きません。
- 先にシフト レバー ボタンを押した状態で、ブレーキ ペダルを踏むと、シフト レバーが動かない場合があります。一度ボタンから手を離し、ブレーキ ペダルを先に踏んでから操作してください。

CVT車の運転

シフト レバーの操作

シフト レバー部には、シフト レバーを動かすときに使用するシフト レバー ボタンが装着されています。

▼操作する前に

⚠警告

- Ⓟレンジから Ⓡレンジへシフト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、シフト レバー ボタンを押して動かしてください。

各位置のはたらき

Ⓟレンジ	駐車するとき、エンジンを始動するとき、およびキーを抜くときの位置
Ⓡレンジ	車を後退させるときの位置（車が完全に止まってから入れてください）
Ⓝレンジ	一時停止などで動力を伝えない位置
Ⓓレンジ	通常の走行をする位置［前進］（速度に応じて無段階で自動的に変速されます）
Ⓢレンジ	上り坂や下り坂を走行するときの位置［前進］（エンジン　ブレーキが必要なときの位置）
Ⓑレンジ	急な上り坂や下り坂を走行するときの位置［前進］（強いエンジン　ブレーキが必要なときの位置）

シフト レバーの動かしかた

ブレーキ ペダルを踏みながらシフト レバー ボタンを押して動かします。

シフト レバー ボタンを押して動かします。

そのまま動かします。

⚠警告

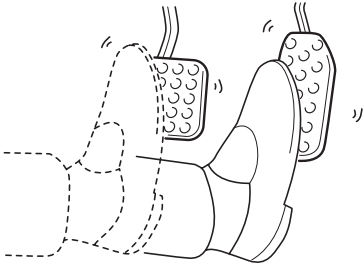
- ➡の操作は誤作動を防ぐため、シフト レバー ボタンを押さずに動かしてください。常にシフト レバー ボタンを押して操作していると、Ⓟ・Ⓡ・Ⓑレンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中にⓃレンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちにⓅレンジに入れないでください。また、前進走行中にⓇレンジ、および後退走行中にⒹ・Ⓢ・Ⓑレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

CVT車の運転

運転のしかた

エンジン始動前

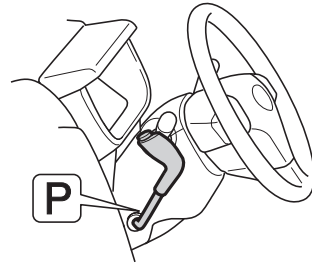
▼ 操作を行う前に

アクセル ペダルおよびブレーキ ペダルの位置を右足で確認します。

⚠注意

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジン始動時

▼ 操作手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
2. シフト レバーがⓅレンジにあることを確認します。
3. ブレーキ ペダルをしっかりと踏みます。
4. ブレーキ ペダルを踏んだまま、エンジン スイッチを“START”の位置にします。

発進時

▼ 操作を行う前に

⚠警告

- Ⓟレンジから Ⓡレンジへシフト レバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、ブレーキ ペダルを踏みながら、シフト レバー ボタンを押して動かしてください。
- アクセル ペダルを踏んだままシフト レバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

▼ 操作手順

1. ブレーキ ペダルを右足で踏んだままシフト レバーを前進であれば Ⓓレンジに、状況に応じて Ⓢ、Ⓑレンジに、また後退のときは Ⓡレンジに入れます。
2. 駐車ブレーキを戻したあと、徐々にブレーキ ペダルから足を離し、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込み発進します。

⚠注意

- シフト レバーがどの位置にあるかは、メーター内のインジケーターで確認してください。
- シフト レバーが Ⓟ、Ⓝレンジ以外の位置にあると、アクセル ペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドル アップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフト レバー操作をするときはしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどで Ⓓレンジから Ⓡレンジ、Ⓡレンジから Ⓓレンジと何度もシフト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。
  トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために Ⓟレンジから Ⓡレンジ、Ⓝレンジから Ⓓレンジ、Ⓝレンジから Ⓡレンジにシフト レバー操作をするときもブレーキ ペダルをしっかり踏んでから行ってください。
- 坂道発進時など、アクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

CVT車の運転

アドバイス

- シフト レバーをⓇレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にシフト レバーがⓇレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんので注意してください。

▼ 坂道発進する場合

1. 駐車ブレーキがしっかりかかっていることを確認しながら、シフト レバーをⒹレンジに入れます。
2. 右足でアクセル ペダルをゆっくり踏み、車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進します。

アドバイス

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがありますが故障ではありません。

走行時

▼ 操作手順

1. 通常はⒹレンジで走行します。
2. 急加速が必要な場合は、アクセル ペダルを踏み込みます。
3. 長い下り坂や急な下り坂など、強いエンジン ブレーキを必要とする場合は、路面状態やスピードに応じてⓈレンジまたはⒷレンジに切り替えます。

⚠警告

- 坂道などでは、シフト レバーをⒹ、Ⓢレンジまたはⓑレンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

⚠注意

- 走行中はNレンジに入れないでください。エンジン ブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故の原因になります。
- 走行中にPレンジ、また前進走行中にRレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損傷をあたえる原因となります。
- 滑りやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセル ペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂をDレンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。
  このようなときに、フット ブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
  Sレンジにしてエンジン ブレーキを併用してください。また、より強いエンジン ブレーキが必要な場合は、Bレンジに入れてください。
- ブレーキ ペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行中にアクセル ペダルとブレーキ ペダルを同時に踏んだりしないでください。走行中、アクセル ペダルを踏んでいるときにブレーキ ペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

アドバイス

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセル ペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- Dレンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVTの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。
  CVT車は、軽くアクセル ペダルを踏むだけでスムーズに加速します。

CVT車の運転

一時停止時

▼ 操作手順

1. シフト レバーは走行位置のままでブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けます。
2. 停車が長びくときは、ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓃレンジに入れます。
3. 発進するときは、シフト レバーの位置を確認したあと、アクセル ペダルをゆっくりと踏み込みます。

⚠注意

- 上り坂での停止はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキ ペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキ ペダルを踏んでください。

後退時

▼ 操作方法

車が完全に止まってからも、ブレーキ ペダルをしっかりと踏み続け、シフト レバーをⓇレンジに入れます。

⚠注意

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどはⓇレンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃレンジに戻すよう習慣付けましょう。
- 切り返しなどでⒹレンジからⓇレンジ、ⓇレンジからⒹレンジと何度もシフト レバー操作をするときは、そのつどブレーキ ペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。また、シフト位置も忘れずに確認してください。

アドバイス

- シフト レバーをⓇレンジに入れると警告ブザーが鳴り、運転者にシフト レバーがⓇレンジにあることを知らせます。警告ブザーは車外の人には聞こえませんのでご注意ください。

駐車時

▼ 操作手順

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキ ペダルを踏んだままで駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れます。
3. エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回してキーを抜きます。

⚠注意

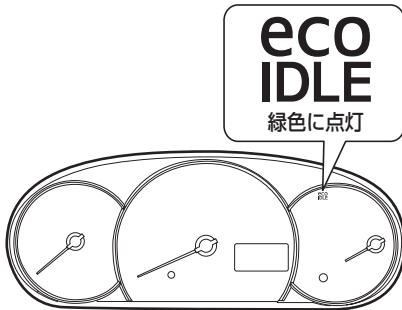
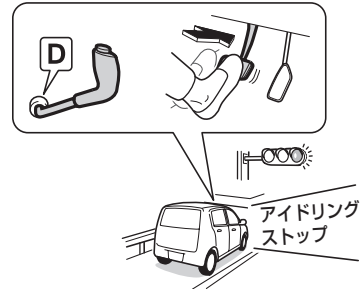
- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジン スイッチを“LOCK”の位置にしてキーを抜いてください。バッテリーあがりの原因となります。
- Ⓟレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずⓅレンジにあることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにⓅレンジに入れないでください。トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。
- キー インター ロック装置により、シフト レバーがⓅレンジ以外のときは、エンジン スイッチを“LOCK”の位置まで回すことができません。
  (キー インター ロック→ 145 ページ)

アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE（エコ アイドル）

eco IDLEは、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前（約7km/h）もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリング ストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリング ストップ、エンジンの再始動のしかた

1. 走行中にアイドリング ストップする条件を満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯します。
   <スタンバイ状態>

2. Ⓓレンジのままブレーキ ペダルを踏み減速すると、停車前（約 7km/h）もしくは停車後に、アイドリング ストップします。
   eco IDLE表示灯はアイドリング ストップ中も緑色に点灯し続けます。
   <アイドリング ストップ状態>

3. ブレーキ ペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。
   eco IDLE表示灯は消灯します。
   <エンジン再始動>

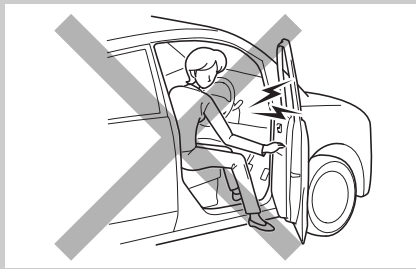
4. しばらく走行して、再びアイドリング ストップする条件を満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯します。

アイドリング ストップ システムの使いかた

⚠警告

- アイドリング ストップ中は車外へ出ないでください。車外へ出ようと、運転席シート ベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。
  ブレーキ ペダルから足を離すと車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - シート ベルトとドアを元に戻すまで、警告ブザーが鳴り続けます。
    (警告ブザー→ 168 ページ)

⚠注意

- アイドリング ストップ中は、ブレーキ ペダルを踏んだまま、アクセル ペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジン スイッチを操作してエンジンを停止させてください。

⚠注意

eco IDLEを正常に作動させるために

- 下記の場合、eco IDLEが正常に作動しないおそれがあります。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
  - 運転席シート ベルトを着用していても、シート ベルト未装着警告灯が点滅するとき
  - 運転席シート ベルトを外していても、シート ベルト未装着警告灯が点滅しないとき
  - 室内照明のスイッチが“DOOR”のとき、運転席ドアを閉めても室内照明が点灯するとき
  - 室内照明のスイッチが“DOOR”のとき、運転席ドアを開けても室内照明が点灯しないとき

アドバイス

アイドリング ストップ中の操作について

- アイドリング ストップ中に、シフト レバーをⒹからⓃレンジ（またはⓈ・Ⓑレンジ）に操作してもアイドリング ストップは継続します。
  ただし、シフト レバーをⓃレンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリング ストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す
  （eco IDLE OFFスイッチ→ 170 ページ）

アイドリング ストップ中のエアコンの作動について

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。
  通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

システムの作動条件について

○スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯し、アイドリング ストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFFスイッチを押して、eco IDLEの作動を停止していないとき
  （eco IDLE作動停止中は、eco IDLE表示灯が橙色に点灯します）
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッション オイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h以上でしばらく走行したあと
  （走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリング ストップしません）
- シフト レバーがⒹレンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シート ベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
- フロント デフロスター スイッチが“OFF”のとき（オート エアコン装着車）
- 車内温度が快適なとき（オート エアコン装着車の冷房時）
- システム（eco IDLE、エンジン電子制御、CVT、ABS、エアコン）が正常なとき

アドバイス

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
  - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
  - バッテリー交換などで、バッテリーの⊖端子をはずしたあと
  - 冷房初期（オート エアコン装着車）

○アイドリング ストップ条件
スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE表示灯が緑色に点灯したまま、停車前もしくは停車後にアイドリング ストップします。

アドバイス

- 停車前と停車後のアイドリング ストップ条件が異なるため、停車前にアイドリング ストップしなくても、停車後にアイドリング ストップすることがあります。

停車前アイドリング ストップ条件

- 車速が約 7km/hになったとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ライト スイッチが“OFF”のとき
- フロント ワイパー•ウォッシャー スイッチが“OFF”のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABSが作動していないとき

アドバイス

- 下記の場合、停車前アイドリング ストップしない場合があります。
  - ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
  - 勾配のある坂道を走行しているとき
  - ゆるやかに減速しているとき

アイドリング ストップ システムの使いかた

停車後アイドリング ストップ条件

- 車両が停車しているとき
- ブレーキ ペダルを踏んでいるとき
- アクセル ペダルを踏んでいないとき
- ABSが作動していないとき

アドバイス

- 下記の場合、停車後アイドリング ストップしない場合があります。
  - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ・ブレーキ ペダルを踏む力が弱いとき
  - ・急勾配の坂道で停車したとき

○エンジン再始動条件

アイドリング ストップ中に、下記のいずれかの操作を行うと、エンジンが再始動します。

- ブレーキ ペダルから足を離す
- ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
- アクセル ペダルを踏む
- シフト レバーをⓇ・Ⓟレンジに操作する
- シフト レバーをⓃレンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- eco IDLE OFFスイッチを押して、システム作動を停止する
- フロント デフロスター スイッチを“ON”にする（オート エアコン装着車）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シート ベルトを外す

アイドリング ストップ システムの使いかた

アドバイス

エンジンの再始動について

- 下記の場合でも、アイドリング ストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキ ペダルはしっかりと踏み続けてください。
  - アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが可能な条件を満たさなくなった場合（eco IDLE表示灯は緑色に点滅後消灯）
    - ・ブレーキ ブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
    - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
    - ・停車前アイドリング ストップ中に下り坂などで加速したとき
    - ・バッテリーの放電量が多いとき
    - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS）が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
    - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき（オート エアコン装着車）
    - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オート エアコン装着車）
    - ・アイドリング ストップしてから約3分経過したとき

* エンジンがかかっているとき、シフト レバーがⓅ、Ⓝレンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

アドバイス

  - アイドリング ストップ中に、eco IDLEシステムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（eco IDLE表示灯は橙色に点滅）

アイドリング ストップ時間が短くなる場合

- 下記の場合、アイドリング ストップ時間が短くなる場合があります。
  - 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリング ストップしたとき（オート エアコン装着車）
  - 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

- 下記の場合、警告ブザーが鳴ってeco IDLE表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキ ペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
  - アイドリング ストップ中にボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 168 ページ）

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリング ストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
  - オーディオ
  - メモリー ナビゲーション システム
- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

警告ブザー

アイドリング ストップ中に、運転席シート ベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザーが鳴ります。

◯運転席シート ベルトを外したとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、eco IDLE表示灯が緑色に高速で点滅します。
エンジンが再始動します。

▼対処方法

運転席シート ベルトを確実に着用してください。警告ブザーが止まります。

◯運転席ドアを開けたとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、eco IDLE表示灯が緑色に高速で点滅します。
エンジンが再始動します。

▼対処方法

運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。警告ブザーが止まります。

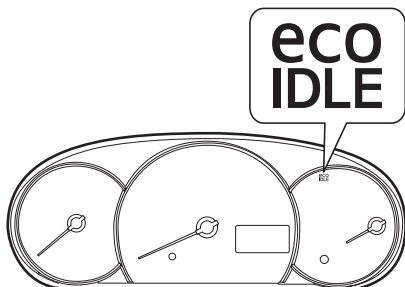
◯ボンネットを開けたとき

警告ブザー（断続音）が数秒間鳴り、eco IDLE表示灯が緑色に高速で点滅します。
安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・充電警告灯・油圧警告灯も同時に点灯します）

▼対処方法

ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。
シフト レバーをⓅレンジに操作してから、エンジン スイッチを操作して、エンジンを始動してください。

アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE表示灯／警告灯

eco IDLEに関する操作状況、車両の状態、システムの異常をお知らせします。

○緑色点灯

- エンジン スイッチを“ON”の位置にしたとき
  （数秒後消灯）
- アイドリング ストップが可能な条件を満たしたとき
  <スタンバイ条件成立>
- アイドリング ストップ中

○消灯

- アイドリング ストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリング ストップが可能な条件を満たしていないとき
  <スタンバイ条件不成立>

○緑色で低速点滅後、消灯

- アイドリング ストップ中に、アイドリング ストップが可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

○緑色で高速点滅

アイドリング ストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。

- 運転席シート ベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 168 ページ）

○橙色点灯

- eco IDLE OFFスイッチを押して、eco IDLE作動を停止したとき
  （eco IDLE OFFスイッチ→ 170 ページ）

○橙色点滅

- eco IDLEシステムに異常があるとき
- エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期のとき

⚠注意

橙色に点滅した場合

- ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アイドリング ストップ時間表示

アイドリング ストップ時間を、メーターのディスプレイに表示できます。

（オド／トリップ表示切り替え・リセット スイッチ→ 115 ページ）

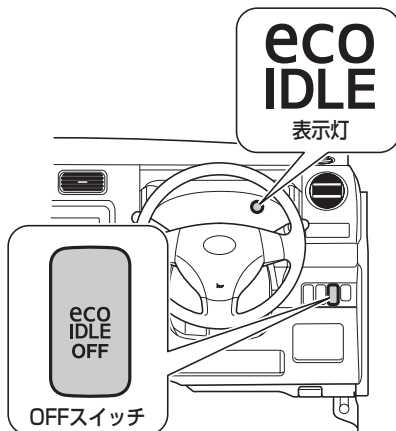
アイドリング ストップ システムの使いかた

eco IDLE OFFスイッチ

eco IDLEの作動を停止したいときにスイッチを押します。

▼ 操作方法

スイッチを押すと、eco IDLEの作動停止状態になり、メーター内のeco IDLE表示灯が橙色に点灯します。
もう一度スイッチを押すと、eco IDLEが作動可能になり、eco IDLE表示灯が緑色に点灯します。
（アイドリング ストップが可能な条件を満たしていないときは、消灯します）

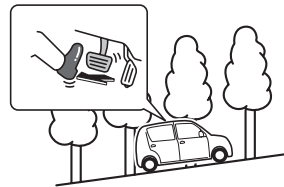
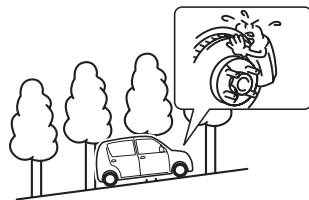
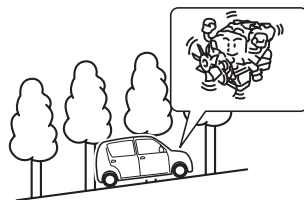
（eco IDLE表示灯／警告灯
→ 169 ページ）

アドバイス

- アイドリング ストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE作動停止状態になります。（eco IDLE表示灯は橙色に点灯します）
- eco IDLEはエンジン スイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

ヒル スタート システム

アイドリング ストップからブレーキ ペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。
坂道発進時の後退を軽減します。
ただし、アイドリング ストップしていないときは作動しません。

▼ 作動の流れ

1. ブレーキ ペダルを踏む力をゆるめる

2. ブレーキ力保持

3. エンジン再始動

4. 発進

⚠警告

- ヒル スタート システムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキ ペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキ ペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒル スタート システムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフト レバー、ブレーキ ペダル、アクセル ペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキ ペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

⚠警告

- ゆるやかな上り坂で停車前（約7km/h）アイドリング ストップしたあと、車両が停止する前にアクセル ペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
  車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキ ペダル、アクセル ペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒル スタート システムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

アドバイス

- ヒル スタート システムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキ ペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキ ペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する
- ヒル スタート システムは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

eco IDLE専用バッテリー

eco IDLE装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。
バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。

⚠注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やeco IDLEが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLEが正常に作動しなくなります。

アドバイス

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

エコ発電制御

エコ発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

装備品の使いかた

車の装備品の使いかたについて説明しています。

■ 空調

■ オーディオ

■ 室内装備品

空調

マニュアル エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。
コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼吹き出し口の位置

※はタイプ別装備

⚠警告

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

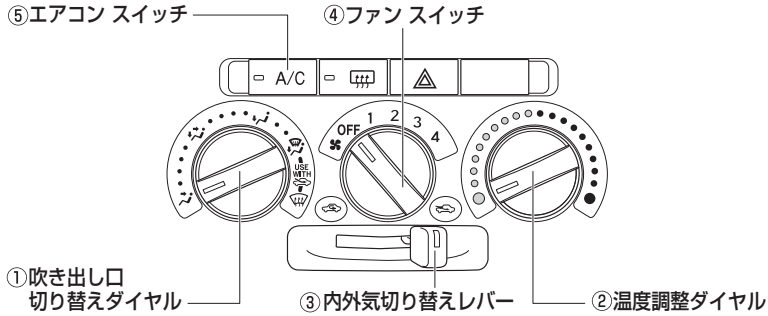
（ガラスの曇りを取るとき→ 183 ページ）

アドバイス

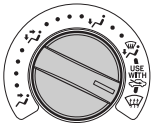
eco IDLEによるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 162 ページ）

マニュアル エアコン コントロール パネル

○各ダイヤル／レバー／スイッチの使いかた

①吹き出し口切り替えダイヤル

イラストの方向へ風が出てきます。風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル					
吹き出し口	Ⓑ	Ⓑ Ⓒ	Ⓒ (Ⓐ)	Ⓐ Ⓒ	Ⓐ

（　）は特に風量の少ないものを示します。

▼ 操作方法

ダイヤルを左右に回して、切り替えます。

⚠警告

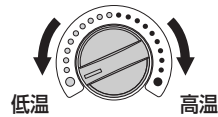
ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い温度で作動させている場合は、吹き出し口をに、またはに切り替えないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

アドバイス

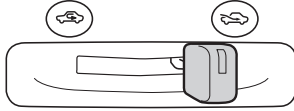
- このマークはガラスが曇ったときに使用する、の位置で、“外気導入”を使用していただくためのものです。“内気循環”にすると曇りが取れにくくなる場合があります。
- “外気導入”への切り替えは、内外気切り替えレバーで操作してください。
- このマークの位置でもダイヤルは止まりますが、この位置での使用はおすすめできません。ダイヤルは、、、、の位置に合わせて使用してください。

②温度調整ダイヤル

風の吹き出し温度を調整します。

▼ 操作方法

ダイヤルを左右に回して、調整します。

③内外気切り替えレバー

内気循環、外気導入の切り替えを行います。

内気循環	(内気循環マーク)	外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
外気導入	(外気導入マーク)	外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼ 操作方法

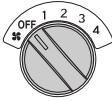
レバーを左右に動かして切り替えます。

⚠注意

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入”を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- ①のダイヤルが(マーク)、(マーク)または(マーク)のとき“内気循環”にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。

アドバイス

- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
  エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

④ファン スイッチ
吹き出し口からの風の強さを切り替えます。
スイッチにより 4 段階の切り替えができます。

▼ 操作方法
スイッチを左右に回して、操作します。

アドバイス

- “OFF”の位置にすると、ファンが停止します。

⑤エアコン スイッチ
冷房、除湿機能の作動と停止を行います。

作動表示灯
▼ 操作方法
ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、作動表示灯が点灯します。
もう一度押すとエアコンが停止し、作動表示灯が消灯します。

アドバイス

- 停車時（eco IDLEによるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
  冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。
  （CVT車の運転→ 152 ページ）
- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

風向きの調整

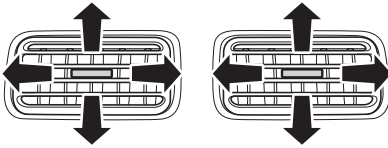
左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

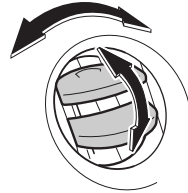
○中央吹き出し口

▼ 操作方法

ツマミを動かして調整します。

○左右吹き出し口

▼ 操作方法

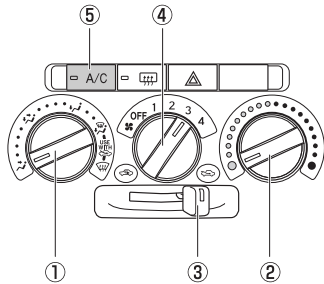
カバーを動かして調整します。

カバーを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

吹き出し口を開けるときは、くぼみ部分を押します。

マニュアル エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、レバー、スイッチのセット位置を説明します。

○通常の冷房

室内を冷やしたいときに使用します。

①
② 低温側
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

アドバイス

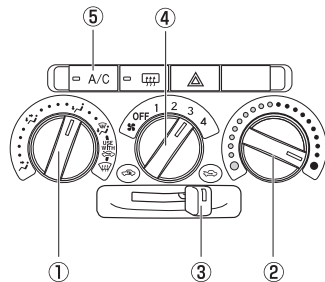
急速に冷房したいときは

- ②のダイヤルを最低温に、③のレバーを“内気循環”に、⑤のスイッチを作動させてください。
  ただし“内気循環”で長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき“外気導入”にしてください。
  冷えてきたら②のダイヤルを高温側に回し、お好みの温度に調整してください。

車内の温度が高いときは

- 駐車のあと車内の温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

○通常の暖房

室内を暖めたいときに使用します。

①
② 高温側
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ OFF

アドバイス

急速に暖房したいときは

- ②のダイヤルを最高温に、③のレバーを“内気循環”にしてください。
  ただし“内気循環”で長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
  暖かくなってきたら②のダイヤルを低温側に回し、お好みの温度に調整してください。

○ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

①
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- ②のダイヤルを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

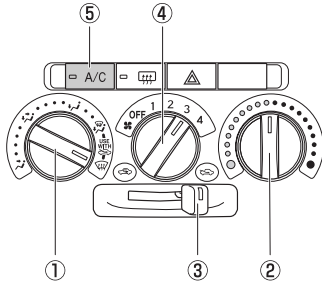
アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ①のダイヤルをにすると、曇り取りと同時に足元にも送風されます。

外気が汚れているときは

- 一時的に③のレバーを“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ④のスイッチを操作して、風量を増す
  - ②のダイヤルを操作して、設定温度を上げる

○除湿暖房するとき（曇り止め）

雨の日など湿気が多く、ガラスが曇りやすいときに使用します。

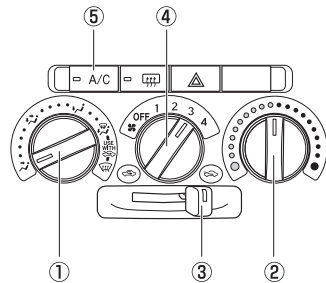
①
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ ON

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

○換気するとき

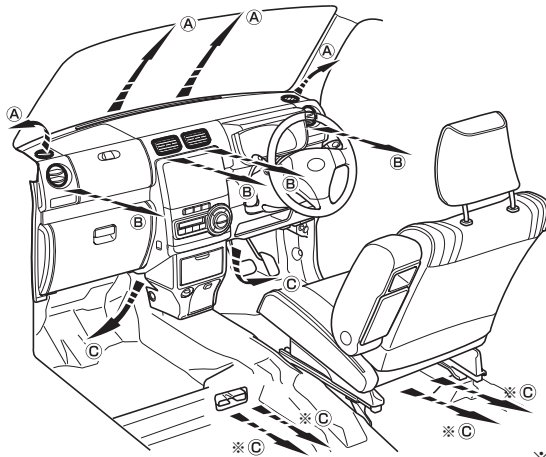
導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

①
② お好みの位置
③ 外気導入
④ お好みの位置
⑤ OFF

オート エアコン

オプション/グレード別装備

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。
コントロール パネルの操作により、吹き出し口から冷風、または温風が吹き出します。

▼吹き出し口の位置

⚠警告

- eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

（ガラスの曇りを取るとき→ 192 ページ）

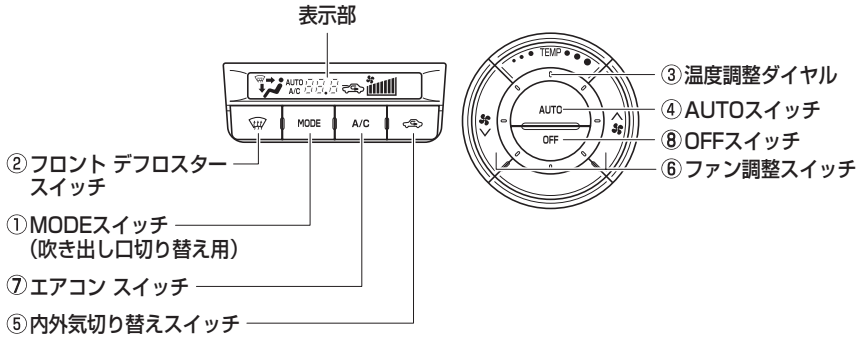
アドバイス

- エアコンの操作や室内温度により、eco IDLEによるアイドリング ストップをしない場合や、アイドリング ストップ中にブレーキ ペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

eco IDLEによるアイドリング ストップ中にエアコンを作動させるには

- アイドリング ストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
  - ブレーキ ペダルをすばやく増し踏みする
  - eco IDLE OFFスイッチを押す

（eco IDLE（エコ アイドル）→ 162 ページ）

オート エアコン コントロール パネル

○各ダイヤル／スイッチの使いかた

①MODE（吹き出し口切り替え用）
　スイッチ

吹き出し口を選択します。

選択された吹き出し口が表示部に表示されます。

選択された表示の方へ風が出てきます。

風量は吹き出し口によって異なります。

MODE

表示				
吹き出し口	Ⓑ	Ⓑ Ⓒ	Ⓒ （Ⓐ）	Ⓐ Ⓒ

（　）は特に風量の少ないものを示します。

▼ 操作方法

スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 → → → 」の順に切り替わります。

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を に切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

②フロント デフロスター スイッチ
ガラスの曇りを取ります。

▼ 操作方法
- スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、吹き出し口が切り替わります。同時に内外気切り替えが外気導入に切り替わり、表示部に“”が表示されます。
- もう一度スイッチを押すと“”が非表示になり、元の状態に戻ります。

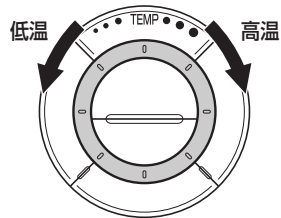
⚠警告

ガラスの曇りを防止するために
- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

アドバイス

- スイッチが“ON”のときは、eco IDLEによるアイドリング ストップをしません。
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

(eco IDLE（エコ アイドル）
→ 162 ページ)

③温度調整ダイヤル
室内の温度を調整します。
設定温度が表示部に表示されます。

▼ 操作方法
ダイヤルを左右に回して、調整します。

アドバイス

- 設定温度を 18℃～32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

④AUTOスイッチ

スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。

▼ 操作方法

スイッチを押すと“ON”になります。
“ON”のときは表示部に“AUTO”が表示されます。

アドバイス

- AUTOスイッチが“ON”のときは、下記のようになります。
  - 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、表示部の“AUTO”が表示されなくなりますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度AUTOスイッチを押してください。
  - 吹き出し口がまたはで、冬場などの寒いときには、温風の準備が出来るまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
  - 吹き出し口が または で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
  - エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。
  - AUTOスイッチが“ON”のときで、eco IDLEによるアイドリング ストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
    エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。
    (eco IDLE（エコ アイドル）→ 162 ページ)

⑤内外気切り替えスイッチ
内気循環、外気導入の切り替えを行います。

- 内気循環
  外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。
- 外気導入
  外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。

▼操作方法
スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。
- “内気循環”のとき表示部に“ ”が表示されます。
- “外気導入”のとき表示部に“ ”が表示されます。

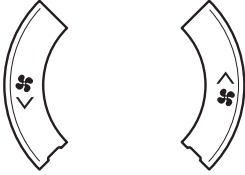
⚠注意

- “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。通常は、“外気導入”を使用してください。
- 渋滞に巻き込まれたときや、トンネル内は、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。

アドバイス

- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
  エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

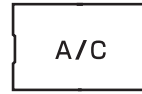
⑥ファン調整スイッチ

吹き出し口からの風の強さを調整します。
風量が表示部に表示されます。

▼ 調整方法

スイッチを押して調整します。

- 風量を強くするには∧側のスイッチ、弱くするには∨側のスイッチを押します。
- ファンを停止させたいときは、OFFスイッチを押します。

⑦エアコン スイッチ

冷房、除湿機能の作動と停止を行います。

▼ 操作方法

ファンが作動中のとき、スイッチを一度押すとエアコンが作動し、表示部に“A/C”が表示されます。
もう一度押すとエアコンが停止し、表示部の“A/C”が消灯します。

アドバイス

- 停車時（eco IDLEによるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジン アイドリング回転を少し高くするアイドル アップ装置が付いています。アイドル アップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
  冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。
  （CVT車の運転→ 152 ページ）
- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

⑧OFFスイッチ
空調機能の停止を行います。

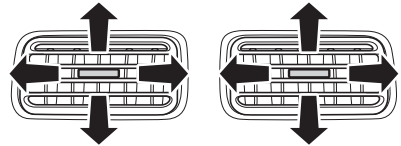
▼ 操作方法
スイッチを押します。

風向きの調整

左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

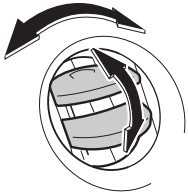
アドバイス

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

〇中央吹き出し口

▼ 操作方法
ツマミを動かして調整します。

○左右吹き出し口

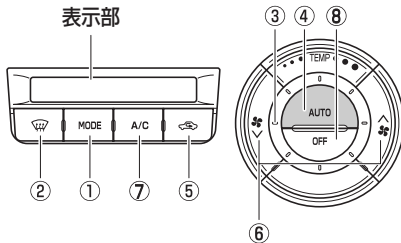
▼操作方法

カバーを動かして調整します。
カバーを一番下まで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。

吹き出し口を開けるときは、くぼみ部分を押します。

オート エアコンの使いかた

代表的な使用例におけるダイヤル、スイッチのセット位置を説明します。

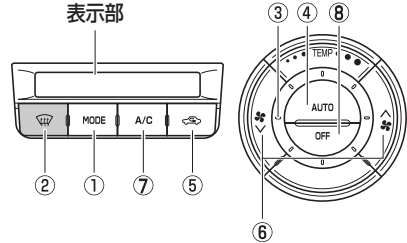
○通常の使いかた

室内温度を一定に保ちたいときに使用します。

① 操作不要
② OFF
③ お好みの温度
④ ON
⑤ 操作不要
⑥ 操作不要
⑦ お好みの設定
⑧ 操作不要

アドバイス

- ④のスイッチを“ON”にすることにより、状況に応じて①・⑤・⑥のスイッチが最適な状態に自動的に選択されます。
- 設定温度は25℃を目安に、お好みで調整してください。
  乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- 冷房、除湿をするときは、⑦のスイッチを“ON”にします。

○ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

① 操作不要
② ON
③ お好みの温度
④ OFF
⑤ 操作不要（外気導入）
⑥ お好みの風量
⑦ 操作不要
⑧ 操作不要

⚠警告

ガラスの曇りを防止するために

- ③のダイヤルを最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

アドバイス

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- ②のスイッチが“ON”のときは、eco IDLEによるアイドリング ストップをしません。
- eco IDLEによるアイドリング ストップ中に②のスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

(eco IDLE(エコ アイドル) → 162 ページ)

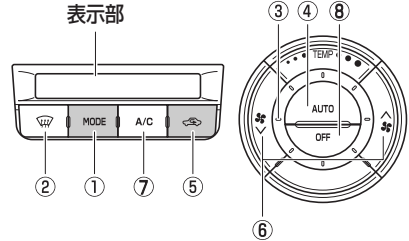
外気が汚れているときは

- 一時的に“内気循環”にしてください。

より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ⑥のスイッチを操作して、風量を増す
  - ③のダイヤルを操作して、設定温度を上げる

○換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

①	⑤ 外気導入
② OFF	⑥ お好みの風量
③ お好みの温度	⑦ OFF
④ OFF	⑧ 操作不要

温度調節センサー

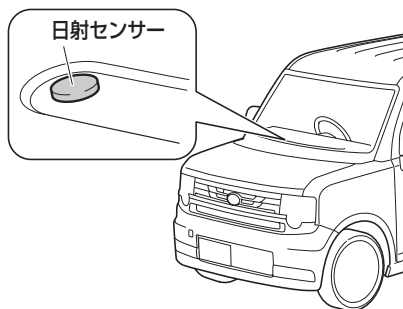
オート　エアコンには、自動的に温度調節を行うために、日射センサーと内気センサーが取り付けられています。

アドバイス

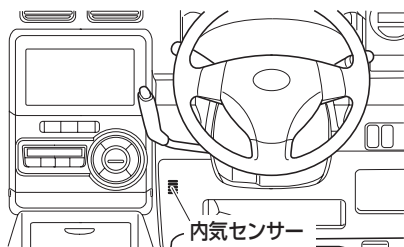
- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

○日射センサー

日射量を検知します。

インストルメント　パネル上部に取り付けられています。

○内気センサー

室内温度を検知します。

インストルメント　パネル中央部（運転席側）に取り付けられています。

オーディオ

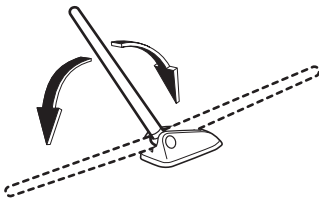
ルーフ アンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナを図のように立てた状態にしてください。

メモリー ナビゲーション システム装着車

ラジオ・テレビを受信するときは、アンテナを図のように立てた状態にしてください。

アンテナは、倒すことと取り外すことができます。

▼倒しかた

▼取り外しかた、取り付けかた

アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回します。

取り付け時はしっかりと締め付けてください。

⚠注意

- アンテナは横方向への調整はできません。
- 下記のようなときは、アンテナを取り外してください。破損したり、変形したりする場合があります。
  - 自動洗車機使用時
  - ボデー カバーをかけるとき
  - 降雪時に長時間駐車するとき
- 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるときは、アンテナを倒してください。
- 洗車時などアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。

オーディオの取り扱い

オプション/グレード別装備

⚠注意

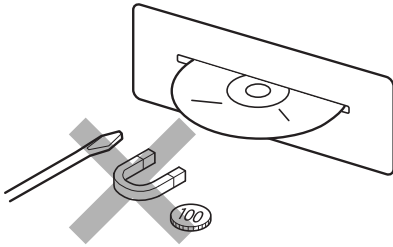
- 運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量でお楽しみください。大きな音量を出すと車外の音が聞こえず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にオーディオの操作をしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながります。

アドバイス

- オーディオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。
- エンジン停止時は、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなります。
- ラジオの受信は、電波の強さが変化したり、電車・信号機などの障害物の影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。
- 水分や高温・多湿・ほこり・ゴミを嫌いますので、車内清掃や換気に十分注意してください。
- オーディオ本体のお手入れは、乾いた柔らかい布でふいてください。損傷の原因となるおそれがある固い布や、ベンジン・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には、柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。
- 車内の温度に気を付けてください。極寒や酷暑のとき、特に夏期は車内の温度が大変高くなり、故障の原因となるおそれがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。

CDプレーヤーの取り扱い

アドバイス

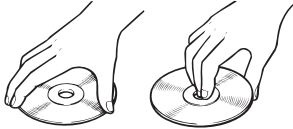
- 挿入口には、指定されているCD以外の物を入れたり、ドライバーなどの金属物や磁石などを近付けないでください。故障の原因となります。
  また、CDに磁石などを絶対に近付けないでください。

- CDが挿入された状態でエンジンを始動すると、「カチッ」・「ウイーン」などという音が数回しますが、これは再生準備のための作動音で、故障ではありません。
- CDを挿入して数秒すると、セットされずに戻ってくることがあります。この場合は、CDの異常が考えられますので、CDに異常がないかを確認してください。
- 取り出しボタンを押しても、CDが挿入されたまま取り出せないときは、プレーヤーの保護のため、機能が停止することがあります。この場合、ダイハツサービス工場にご相談ください。

アドバイス

- 車を降りるときは、必ずCDをオーディオ本体から取り出し、ケースに入れて、高温にならない場所に保管してください。
- CDを直射日光に長時間当てたり、挿入口に残した状態のまま長時間放置しないでください。また、高温・多湿な場所（インストルメント パネルの上やシートの上など）に長時間放置しないでください。CDがひずみ、使用できなくなるおそれがあります。
  従来のオーディオ レコードと同様にプラスチック製ですので、そりの原因となります。
  そり防止のため、必ずケースに入れ、直射日光の当たらない場所に保管してください。

CDの取り扱い

アドバイス

- CDを持つときは、信号面に触らないようにしてください。両端を挟むようにして持つか、中央の穴と端を挟んで持ってください。

- CDは内部で高速回転しますので、異常なCD（ハート型など異形のCD 、ヒビが入ったCDや大きくそったCD ）は使用しないでください。

- 記録部分に透明または半透明部分があるCDは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので、使用しないでください。
- ラベル面（印刷面）にも紙やシールなどを貼り付けたり、傷などを付けないようにしてください。
- CDに指紋やホコリが付いた場合でも、CDに記録された信号には直接影響しませんが、汚れにより、信号記録面からの反射光の明るさが低減して音質が低下したり、音飛びを起こすことがあります。

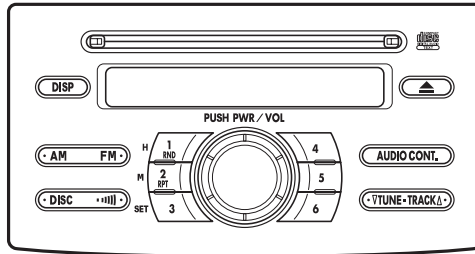
アドバイス

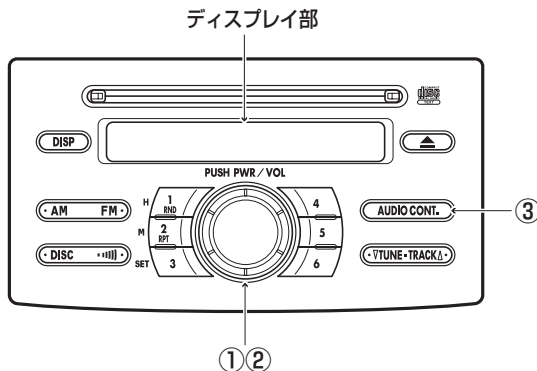
- CDが汚れたときは、柔らかい布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。
- レコード スプレー・帯電防止剤などは使用できません。またベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品をかけると、表面が侵されることがありますので使用しないでください。

- 8cmCDを挿入口に残した状態のまま走行しないでください。走行中の振動により、CDが落下することがあります。
- 振動の激しい悪路を走行すると、音飛びを起こすことがあります。
- 真冬の車内は極度に冷えています。この状態で、ヒーターを入れてすぐに使用すると、CDや光学部品（プリズムやレンズなど）が曇って、正常に再生されないことがあります。
  CDが曇っているときは、柔らかい布でふいてください。
  光学部品が曇っているときは、１時間ほど放置しておけば自然に曇りが取れ、正常に再生されます。

オーディオ インデックス

インテグレートCD・AM/FM付ステレオ

（音量・音質調整→ 200 ページ）
（ラジオの受信→ 202 ページ）
（CDの再生→ 206 ページ）
（時刻の調整→ 210 ページ）

インテグレートCD・AM/FM付ステレオ

オプション/グレード別装備

① 電源スイッチ
② 音量調整ツマミ
③ オーディオ コントロール ボタン

音量・音質調整

①電源スイッチ

電源の“ON”・“OFF”ができます。

▼ 電源を入れるには

1. エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にします。
   前回、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしたときにオーディオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。
2. スイッチを押します。
   スイッチを押すごとに、オーディオの電源が“ON”と“OFF”に切り替わります。

②音量調整ツマミ

音量を調整することができます。

▼ 音量を調整するには

ツマミを右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

③オーディオ コントロール ボタン
各種機能のモードを切り替えることができます。

AUDIO CONT.

▼モードを切り替えるには
ボタンを押すごとに、「FAD→BAL→BAS→TRE→VOL」の順に切り替わります。

▼各種機能を調整するには
1. オーディオ コントロール ボタンを押して、調整するモードを選択します。
2. 音量調整ツマミを回します。

○調整モードと調整レベル

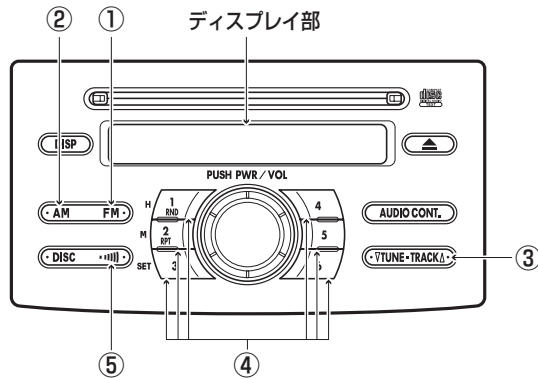
オーディオコントロールボタン	調整モード	前後音量バランス	左右音量バランス	低音	高音	音量
	モード表示	FAD	BAL	BAS	TRE	VOL
音量調整ツマミの操作	調整レベル範囲	F6～R6	R6～L6	5～-5	5～-5	50～0
	右に回す	前側大	右側大	強		音量大
	左に回す	後側大	左側大	弱		音量小

アドバイス

- 何も操作を行わないと、約 5 秒後に元の表示に戻ります。

リヤ スピーカーなし車

- リヤ スピーカーが装着されていないため、前後音量バランス“FAD”調整を「R6」にすると、音が出なくなります。

ラジオの受信

① FMボタン
② AMボタン
③ チューニング ボタン
④ プリセット ボタン
⑤ 交通情報ボタン

○ラジオを受信するには

1. エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にします。
   前回、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしたときにラジオを受信していた場合は、自動的にラジオが受信されます。
2. AMボタン、またはFMボタンを押して、AM・FM放送を選択します。
3. チューニング ボタン、またはプリセット ボタンを押して、希望の周波数を選択します。

①FMボタン
FM放送を受信することができます。
また、自動で受信可能な周波数を、プリセット ボタンに記憶させることができます。

▼ FM放送を受信するには

- ボタンを押します。
- FM放送を受信しているとき、ボタンを押すごとに「FM1→FM2」の順に切り替わります。

▼ 自動で周波数を記憶させるには

ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

（オート プリセット→ 205 ページ）

②AMボタン

AM放送を受信することができます。
また、自動で受信可能な周波数を、プリセット ボタンに記憶させることができます。

▼ AM放送を受信するには

ボタンを押します。

▼ 自動で周波数を記憶させるには

ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

（オート プリセット→ 205 ページ）

③チューニング ボタン

放送局の周波数を選択することができます。

∇TUNE・TRACK∆

▼ 手動で選択するには

ボタンを押して希望の周波数を選択します。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

▼ 自動で選択するには

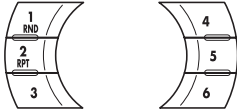
ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方に選択するには右側のボタン、低い方に選択するには左側のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

アドバイス

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。

④プリセット ボタン
放送局の周波数をあらかじめ記憶させておくことにより、ワンタッチでその周波数を選択することができます。

アドバイス

- 自宅付近などで日頃よくお聞きになる放送局の周波数を記憶させておくと便利です。
- AM・FM1・FM2 各 6 局まで周波数を記憶させることができます。

▼ 周波数を記憶させるには

1. 記憶させる周波数を選択します。
2. 記憶させるプリセット ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

▼ 記憶させた周波数を呼び出すには

ボタンを押します。

- そのボタンに記憶させた周波数が選択されます。

⑤交通情報ボタン
交通情報放送を行っている地域で、あらかじめ記憶されている交通情報放送局を受信することができます。

▼ 交通情報を受信するには

ボタンを押します。
もう一度ボタンを押すか、ほかのモードのボタン（FMボタン、AMボタン、ディスク ボタン）を押すと、解除されます。

アドバイス

- 初期設定の状態では 1620kHzが記憶されています。
- 交通情報が行われていない地域では受信できません。
- 交通情報ボタンを押して、交通情報を受信しているときは、チューニングボタン・プリセット ボタンを押したり、オート プリセットをしても、周波数を選択できません。

▼ 記憶されている周波数を変更するには

1. 記憶させる周波数を受信します。
2. 交通情報ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

アドバイス

- 交通情報は、AM放送の周波数のみ記憶させることができます。

○オート プリセット（放送局の自動記憶）

自動で受信可能な周波数を、プリセットボタンに記憶させることができます。
旅先などで放送局の周波数がわからないときなどに便利です。

▼自動で周波数を記憶させるには

- FMを聞いているときはFMボタン、AMを聞いているときはAMボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。
- 記憶操作が終了すると、「ピー」と音がして、記憶した中で一番低い周波数が受信されます。

▼記憶させた周波数を呼び出すには

プリセット ボタンを押します。

- そのボタンに記憶させた周波数が選択されます。

アドバイス

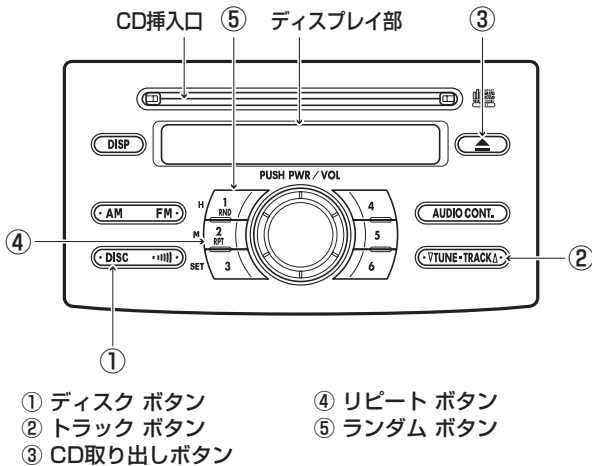
- オート プリセットをするごとに、現在受信状態の良い周波数が低い順に 6 局まで、プリセット ボタンに記憶されます。
  なお、オート プリセットをする前に記憶させていた周波数は消去されます。
- 受信周波数が 6 局未満のときは、受信することができた周波数だけが記憶されます。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶されないことがあります。
  その場合、オート プリセットをする前に記憶させていた放送局がプリセット ボタンに記憶されたままになります。
- 同じ放送局からの受信でも、プリセット ボタンで選択し、記憶させた周波数とオート プリセットで記憶させた周波数は一致しないことがあります。
- オート プリセットによる記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。

○プリセット ボタン・交通情報ボタンに記憶させた周波数

アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。
  この場合は、再度記憶させてください。

CDの再生

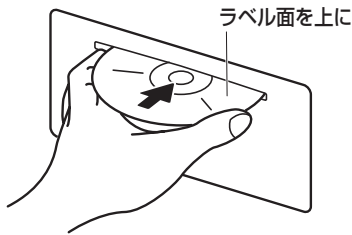
① ディスク ボタン
② トラック ボタン
③ CD取り出しボタン
④ リピート ボタン
⑤ ランダム ボタン

CDプレーヤーの使いかたについては、「オーディオの取り扱い」のページも併せてお読みください。

アドバイス

- 下記のマークが付いているディスクを使用してください。

  • CD TEXTは表示されませんが、再生は可能です。
- 音楽用CD-R（CD-Recordable）・CD-RW（CD-ReWritable）に記録された音楽用データを再生できます。
  ただし、特性・傷・汚れなどにより再生できない場合があります。
- ディスクの状態（録音環境・データ内容）により再生できない場合があります。
- MP3・WMA・AAC方式で記録されたディスクには対応していません。
- CD-ROM・コピー プロテクト機能付ディスクには対応していません。
- 8cmCDを使用するときは、アダプターを使用しないでください。
- Dual Discには対応していません。Dual Discを使用すると、機器の故障の原因になるおそれがあります。

○CDを再生するには

1. エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にします。
前回、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしたときにCDを再生していた場合は、自動的にCDが再生されます。
2. CDを挿入します。
CDはラベル面を上にして挿入します。
CDが挿入されているときは、ディスク ボタンを押すと再生されます。

①ディスク ボタン

CDを再生することができます。

▼ CDを再生するには

CDが挿入された状態で、ボタンを押します。

②トラック ボタン

曲の早送り・早戻しと、希望の曲の頭出しをすることができます。

▼ 早送り・早戻しをするには

ボタンを押し続けます。

- 早送りをするにはボタンの右側、早戻しをするにはボタンの左側を押します。
- ボタンを押している間、早送り（または早戻し）され、希望の位置で手を離すと、その位置から再生されます。

▼ 頭出しをするには

ボタンを曲数分だけ押して、希望の曲を選択します。

- 曲を進めるにはボタンの右側、曲を戻すにはボタンの左側を押します。

曲の再生中に

- ボタンの右側を押すと、次の曲が再生されます。
- ボタンの左側を押すと、その曲の始めに戻ります。このとき、もう一度ボタンを押すと、前の曲が再生されます。

③CD取り出しボタン
CDを取り出すことができます。

▼CDを取り出すには
ボタンを押します。
- CDが取り出されると、CDが再生される前の状態に戻ります。
- エンジン スイッチが“LOCK”の位置でも、CDを取り出すことができます。
- エンジン スイッチが“LOCK”の位置以外のときは、CDを挿入口に残したままの状態で、約 15 秒が経過すると、再度CDが挿入されます。

④リピート ボタン
選択されている曲を繰り返して（リピート）再生することができます。

▼リピート再生をするには
ボタンを押すごとに、リピート再生が“ON”と“OFF”に切り替わります。
- “ON”のときは、ディスプレイ部に“RPT”が表示されます。
- “OFF”にするまで、何度でも同じ曲が再生されます。

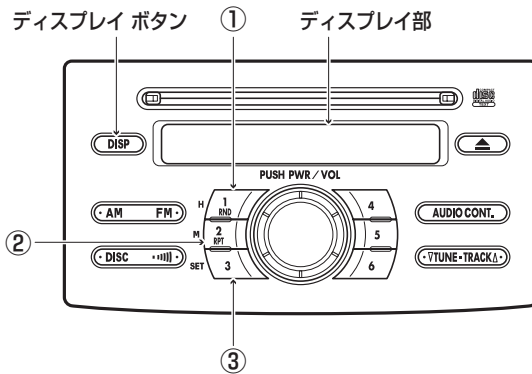
⑤ランダム ボタン
無作為に曲を選択して（ランダム）再生することができます。

▼ランダム再生をするには
ボタンを押すごとに、ランダム再生が“ON”と“OFF”に切り替わります。
- “ON”のときは、ディスプレイ部に“RAND”が表示されます。
- “OFF”にするまで、何度でもランダムに曲が再生されます。

○CDプレーヤーの機能

アドバイス

- プレーヤー内部を保護するため、異常が生じたときは、自動的にプレーヤーの機能が停止し、CDが再生されているときは、ディスプレイ部に“Err1”が表示され、異常を知らせます。
  ディスプレイ部に“Err1”の表示が出たときは、CD取り出しボタンを押してください。
- CDプレーヤーの内部温度が基準以上の高温になると、半導体レーザー部の劣化を保護するため、自動的に再生が停止されます。
  このとき、ディスプレイ部に“---H”が表示され、温度の上昇を知らせます。
  この状態のときは、温度が下がるまでお待ちください。

時刻の調整

① “時”調整ボタン
② “分”調整ボタン
③ 時刻合わせボタン

- オーディオの電源の“ON”・“OFF”に関わらず、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置にすると、ディスプレイ部に時刻が表示されます。
- オーディオの操作を行うと、オーディオ モードの表示になり、約 5 秒後に時計表示に戻ります。

○時計表示をオーディオ モードの表示に切り替えるとき

▼切り替えるには

ディスプレイ ボタンを押すごとに、時計表示とオーディオ モードの表示が切り替わります。

アドバイス

- オーディオの電源が“OFF”のときは、ディスプレイ ボタンを押すとバック ライトも消灯します。

○時刻の調整

時刻を表示させているとき、ディスプレイ ボタンを押しながら、同時に各ボタンを押して調整します。

アドバイス

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。

①“時”調整ボタン
時計の“時”表示を調整することができます。

▼ “時”表示を調整するには
ディスプレイ ボタンを押しながら、“時”調整ボタンを押します。
- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると、連続して数字が大きくなります。

②“分”調整ボタン
時計の“分”表示を調整することができます。

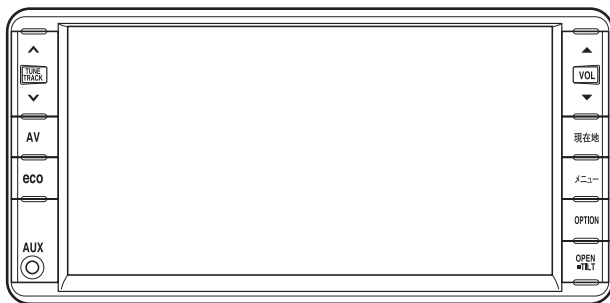
▼ “分”表示を調整するには
ディスプレイ ボタンを押しながら、“分”調整ボタンを押します。
- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
- ボタンを押し続けると、連続して数字が大きくなります。

③時刻合わせボタン
時報などに合わせて、“分”表示を「:00」にすることができます。

▼ “分”表示を「:00」にするには
ディスプレイ ボタンを押しながら、時刻合わせボタンを押します。
- “分”表示が「30」未満の数字のときは、“時”表示の数字が変わりません。例えば、10:20 は 10:00 になります。
- “分”表示が「30」以上の数字のときは、“時”表示の数字が 1 つ増えます。例えば、10:45 は 11:00 になります。

メモリー ナビゲーション システム

オプション/グレード別装備

取り扱い方法については、別冊の「メモリー ナビゲーション システム」取扱説明書をお読みください。

⚠警告

- 安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。
  走行中の操作は、ハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

室内装備品

室内照明

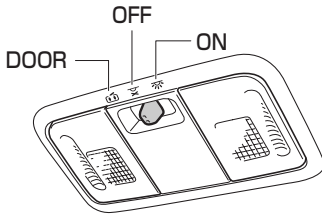
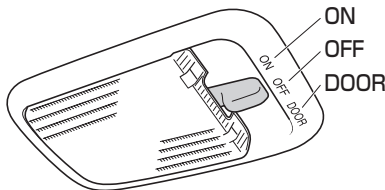
ルーム ランプ

スイッチの位置によって、点灯、消灯の切り替えができます。

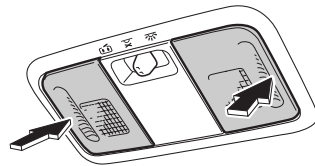
▼スイッチが“ON”のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼スイッチが“OFF”のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼スイッチが“DOOR”のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 214 ページ）

○フロント

○センター

フロント パーソナル ランプ

運転席、助手席の手元を照らすときに使用します。

▼操作方法
フロント パーソナル ランプを押し込むと点灯します。
もう一度押し込むと消灯します。

ドア連動機能

室内照明とメーター照明は、ドア操作、エンジン スイッチ操作に連動して、点灯・消灯します。

- スイッチ付き室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。
- 標準車のメーター照明は、車幅灯が消灯しているときに連動します。

(メーター→ 112 ページ)

アドバイス

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはダイハツ サービス工場にご相談ください。

○タイマー機能

- すべてのドアが閉まっているとき、エンジン スイッチの操作により照明が点灯・消灯します。

エンジン スイッチ	室内照明	メーター照明	
		*1	*2
ON	消灯	消灯	点灯
↓	↓		↓
ACC または LOCK	約15秒間点灯後に消灯	約15秒間点灯後に消灯	約15秒間点灯後に消灯
↓	↓		↓
ON	消灯（点灯中はすぐに）	消灯（点灯中はすぐに）	点灯

*1 標準車
*2 カスタム仕様車

- エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼運転席ドアの施錠・解錠

運転席ドアロック	室内照明	メーター照明
施錠	消灯	消灯
↓	↓	
解錠	約15秒間点灯後に消灯	約15秒間点灯後に消灯
↓	↓	↓
施錠	消灯（点灯中は減光後に）	消灯（点灯中はすぐに）

▼ドアの開閉

ドア	室内照明	メーター照明
全閉	消灯	消灯
↓	↓	
いずれか開	点灯	点灯
↓	↓	
全閉	約15秒後に消灯	約15秒後に消灯

○バッテリーあがり防止機能

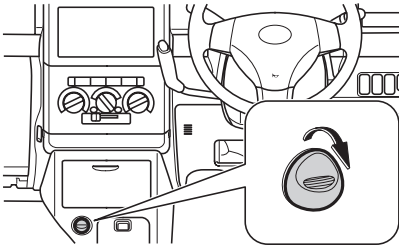
バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明・メーター照明を消灯する機能です。

- エンジン スイッチが“LOCK”または“ACC”の位置で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 再度、点灯させるには、すべてのドアを閉めるか、エンジン スイッチを“ON”の位置にしてください。

アクセサリー ソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

▼使用方法

カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

⚠注意

- 電気容量は、DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりのおそれがあります。また、エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- アクセサリー ソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

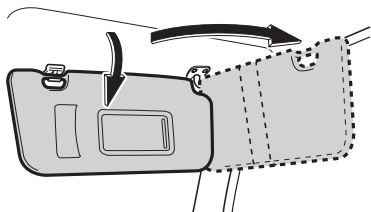
アドバイス

- アイドリング ストップからエンジンが再始動すると、アクセサリー ソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
  （eco IDLE（エコ アイドル）→ 162 ページ）
- 故障を防ぐため、電化製品はダイハツ純正用品をおすすめします。

サン バイザー

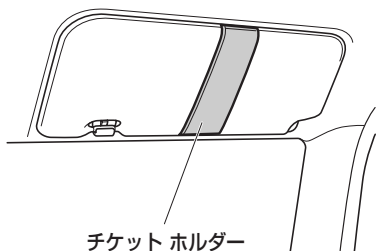
直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼使用するときは

図中の矢印の方向に動かします。

アドバイス

- サン バイザーと天井の間に物を挟まないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

チケット ホルダー

チケット類を収納することができます。

アドバイス

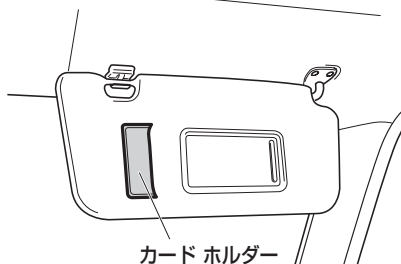
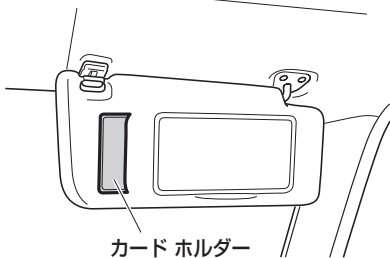
- チケット ホルダーにチケット類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。

カード ホルダー

カード類を収納することができます。

アドバイス

- カード ホルダーにカード類以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。

照明付バニティー ミラー装着車以外

照明付バニティー ミラー装着車

バニティー ミラー

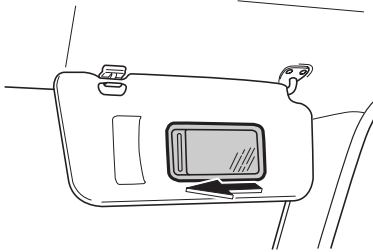
鏡として使用できます。

⚠注意

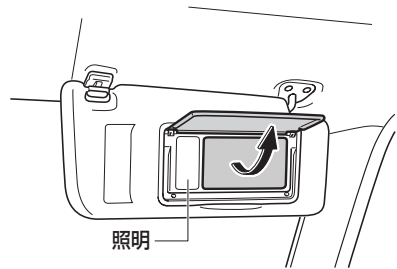
- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼使用方法

照明付バニティー ミラー装着車以外

カバーを矢印の方向にスライドさせます。

照明付バニティー ミラー装着車

カバーを矢印の方向に開けます。

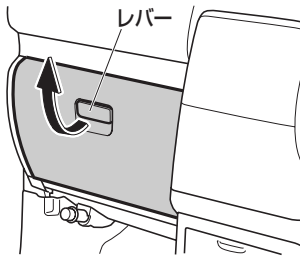
- カバーを開けると照明が点灯します。
- カバーを閉めると照明が消灯します。

⚠注意

- カバーを開けたままにしておくと、バッテリーあがりの原因になりますので、使用しないときはカバーを閉めておいてください。
- カバーを開けたままサン バイザーを側面に移動させると、カバーが損傷するおそれがありますので、サン バイザーを側面に移動させるときは、カバーを閉めてください。

グローブ ボックス

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

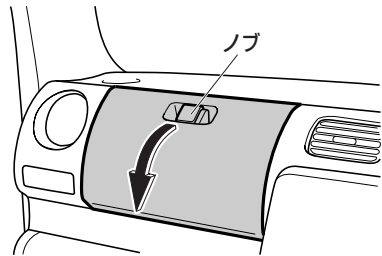
- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

⚠注意

- 走行中はグローブ ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。

助手席アッパー ボックス

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

- ノブをつまんで開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

⚠注意

- 走行中は助手席アッパー ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。

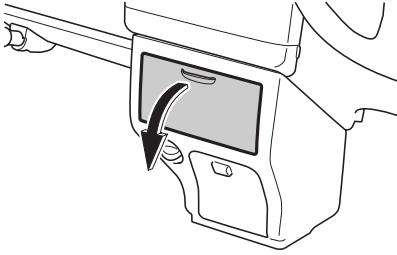
アドバイス

- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。破損や変形のおそれがあります。

インパネ センター ボックス

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

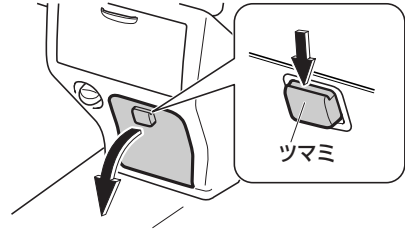
- ツマミを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

⚠注意

- 走行中はインパネ センター ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。
- フロント シートを前方にスライドさせるときは、インパネ センター ボックスを必ず閉めておいてください。インパネ センター ボックスが開いていると、カバーが体に当たるなど思わぬけがをしたり、カバーが損傷するおそれがあります。

インパネ センター ロア ボックス

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

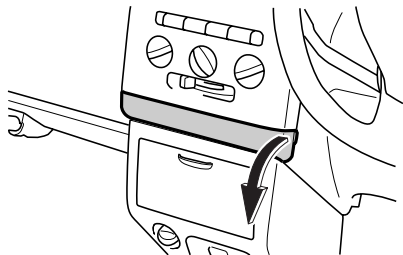
- ツマミを押して開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

⚠注意

- 走行中はインパネ センター ロア ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。

インパネ センター シークレット ボックス

物入れとして利用できます。

▼開閉方法

- カバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

⚠注意

- 走行中はインパネ センター シークレット ボックスを必ず閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたカバーに体が当たるなど思わぬけがをするおそれがあります。

アドバイス

- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。破損や変形のおそれがあります。

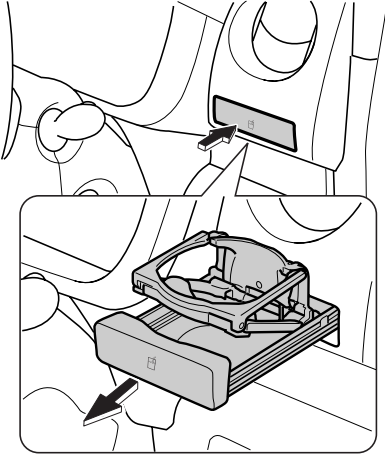
ワンプッシュ式オート オープン カップ ホルダー（前席）

ペット ボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

⚠注意

- 飲み物には、フタをするなどしてこぼさないように注意してください。振動で中身がこぼれるおそれがあります。
  特に温かい飲み物には、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。カップ ホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。また、スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- カップ ホルダーには、ペット ボトルやカップ、飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。
  また、下記のような異物が入ると、カップ ホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
  - 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
  - タバコの灰
  - 芳香剤の液体
- 使用しないときは、カップ ホルダーを必ず収納してください。急ブレーキなどの激しい運転の際に、カップ ホルダーに体が当たるなど、思わぬけがをするおそれがあります。

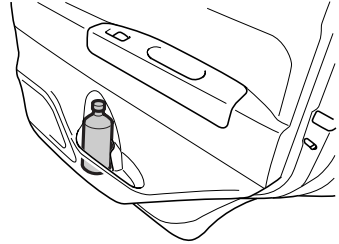
▼使用方法

- 使用するときは、トレイを押すと開きます。
- 収納するときは、そのままトレイを押し込みます。

○シンボル照明付きカップ ホルダー

オプション/グレード別装備

車幅灯が点灯しているとき、カップ ホルダーのシンボル照明が点灯します。

ボトル ホルダー

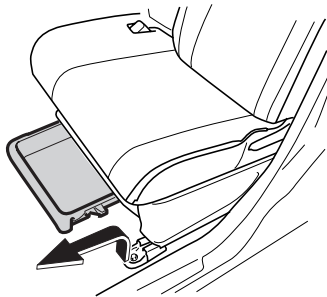
ペット ボトルなどを置くときに便利です。リヤ ドアにあります。

アドバイス

- 飲み物が入った栓をすることができない容器（缶やカップなど）を置かないでください。また、飲み物が入ったまま栓をしていないペット ボトルを置かないでください。
  ブレーキ時に、飲み物がこぼれるおそれがあります。

助手席大型シート アンダー トレイ

小物入れとして利用できます。

▼使用方法

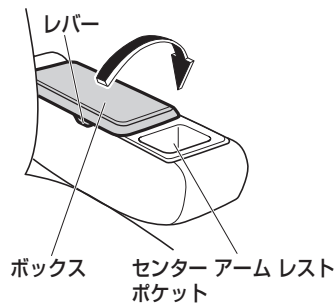
トレイを少し上に上げてから引き出して使用します。

⚠注意

- 走行中に引き出し、戻し操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行時はトレイを一番奥まで確実に戻してください。
- 重さが約 2.0kg以上ある物を入れると急ブレーキをかけたときなどに飛び出すおそれがあります。

センター アーム レスト ポケット＆ボックス

フロント シート アーム レストを倒すと、小物入れとして利用できます。

▼使用方法

1. アーム レストを倒します。
   （アーム レスト→ 40 ページ）
2. レバーを押して上に開けます。

アドバイス

- センター アーム レスト ポケットに物を入れているとき、シートのリクライニング調整やスライド調整を行うとアーム レストも同時に動きますので、中に入れている物が落ちる場合があります。注意してください。

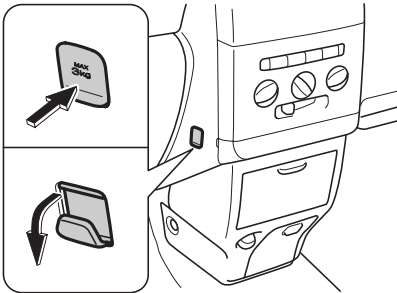
ショッピング フック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。
助手席側インストルメント パネル中央・助手席シート バックにあります。

アドバイス

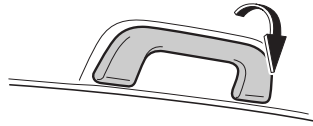
- 特に重たい物や、大きな物をショッピング フックにかけないでください。
（最大荷重量約 3kg）
フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

▼使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフックを格納してください。

格納式アシスト グリップ

引き起こして使用できます。

▼使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。

アドバイス

- 特に重たい物や、大きな物を格納式アシスト グリップにかけないでください。格納式アシスト グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

いざというときに

車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

■ いざというときの処置

工具類

格納場所

ラゲージ ルームに収納しています。

工具袋の中にジャッキ ハンドル、ホイール ナット レンチ、けん引フックが入っています。

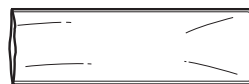
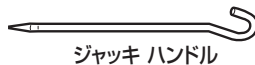
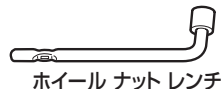
⚠注意

- スペア タイヤ、ジャッキ、工具は所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

2WD車

4WD車

○工具袋

タイヤ交換のときなどに使用します。

アドバイス

工具を収納する場合

- 工具を収納する場合は、上図の通りの方向で工具袋に収納し、付属のゴムバンドで工具袋の中央部を締め付けてください。
  - 工具袋の中央部を軽く振り、工具がぶつかる音がしないことを確認してください。

ジャッキの使いかた

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。

⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

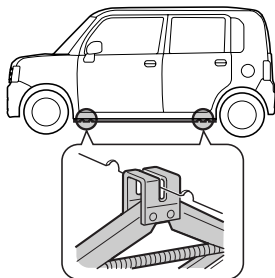
⚠注意

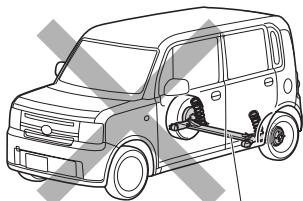
- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキをセットする位置

ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

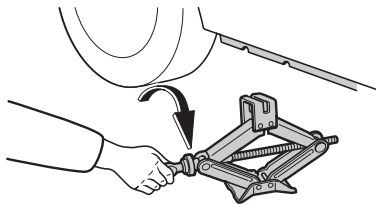
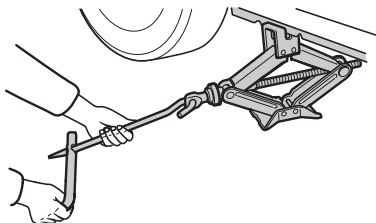
▼ セットする位置

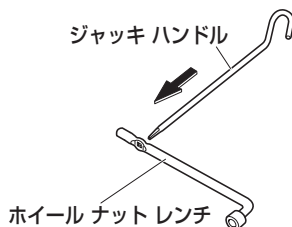
取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置にセットします。

⚠注意

- 2WD車はリヤ サスペンション ビームにジャッキをかけないでください。

リヤ サスペンション ビーム

ジャッキのかけかた

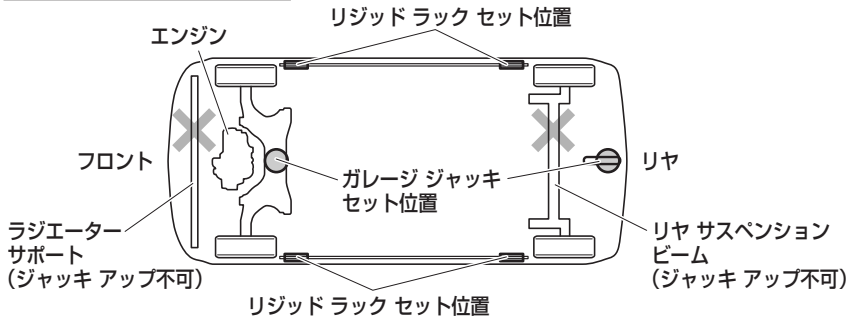
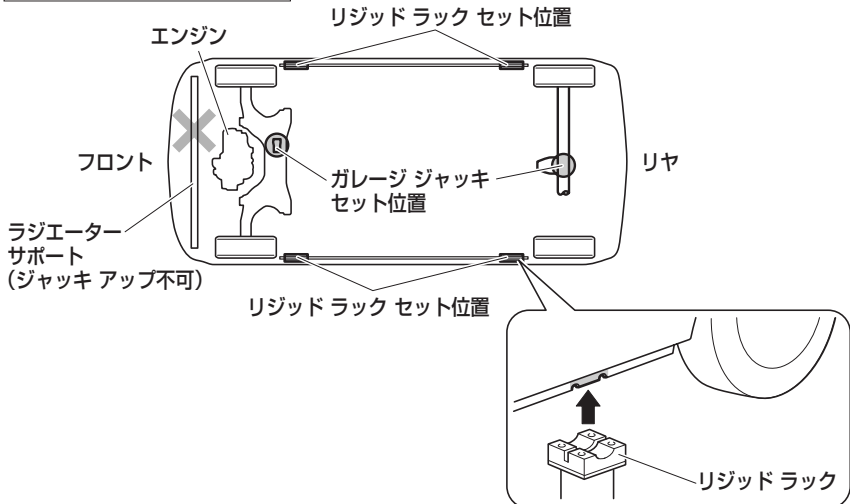
▼ 操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置まで上げます。

2. ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ ハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げます。

アドバイス

- ジャッキ ハンドルは図のように組み立てて使用してください。

ガレージ ジャッキ（市販品）を使用する場合

ガレージ ジャッキを使用する場合は、図のガレージ ジャッキ位置にセットしてジャッキ アップを行ってください。その際は、必ずリジッド ラック（市販品）をリジッド ラック セット位置にセットしてください。

⚠注意

- ガレージ ジャッキ、およびリジッド ラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カット システム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カット システムが作動している可能性があります。燃料カット システムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジン スイッチを“LOCK”または “ACC”の位置に戻してから行ってください。

⚠警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのダイハツサービス工場にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセル ペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
  （けん引されるとき→ 232 ページ）

▼脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、シフト レバーをⓅレンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。
4. エンジンを始動します。
5. シフト レバーをⒹレンジ、またはⓇレンジに確実に入れ、注意しながら、アクセル ペダルを軽く踏みます。

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠注意

- 車を押す場合、シフト レバーはⓃレンジに入れてください。

アドバイス

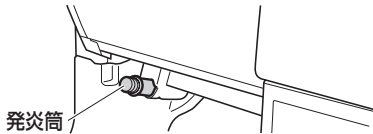
- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

○踏切内の場合
踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼設置場所

グローブ ボックス左下に設置されています。

⚠注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、ダイハツ サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

（別冊の「メンテナンス ノート」巻末のダイハツ サービス網、JAFロード サービスを参考にしてください。）

⚠警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。
  前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼けん引を行う前に

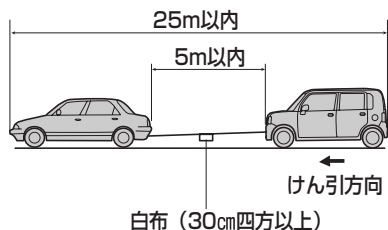
⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、ダイハツ サービス工場にご確認ください。
  駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h以下、けん引距離は 50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- キー フリー システム装着車のエンジン スイッチ回転機構が故障したときは、ハンドル ロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。

⚠注意

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
  - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
  - エンジン スイッチはハンドル ロックを解除させるために“ACC”の位置にし、シフト レバーは[N]レンジにしてください。
  - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
    また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキ ペダルを踏んでください。
  - 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

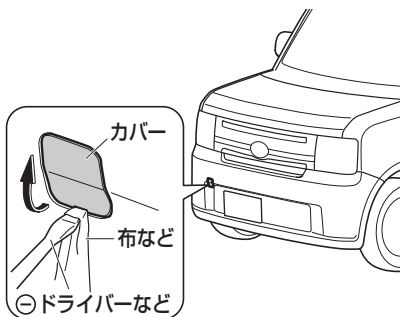
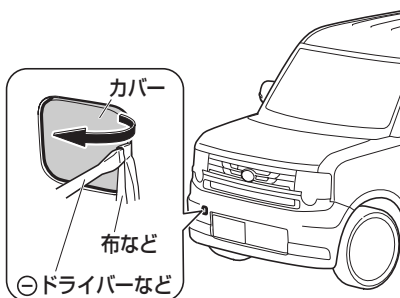
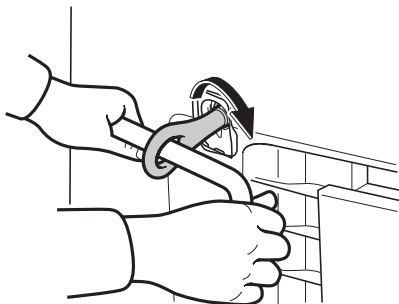
けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
また、けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

ロープは必ず車体先端のフックにかけてください。

▼けん引フックの取り付けかた

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、カバーとバンパーのすき間に入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどを図の位置の切りかきから差し込み、カバーを外します。

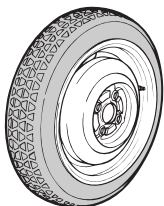
標準車

カスタム仕様車

3. けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナット レンチでしっかりと固定します。

アドバイス

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

パンクしたとき

高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

応急用スペア タイヤ

応急用スペア タイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみ使うタイヤです。応急用スペア タイヤは標準タイヤに比べて、空気圧が高く、直径がやや小さくできています。お使いになるときは注意事項をお守りください。

⚠注意

- 応急用スペア タイヤを装着した場合は 80km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- この応急用スペア タイヤは型式、車種によって違います。ほかのタイヤやホイールと組み合せたり、ほかの型式、車種の車に使わないでください。
  走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 前輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを前輪に使用しないでください。前輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に付けて走行してください。

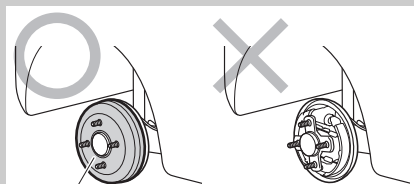
⚠注意

- 応急用スペア タイヤにタイヤ チェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
  雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に付けてからタイヤ チェーンを装着してください。
- 応急用スペア タイヤを装着して突起物などを乗り越えるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用スペア タイヤ装着時は車高が低下します。同じ感覚で運転するとぶつけるおそれがあります。
- 応急用スペア タイヤの点検は、最低でも月１回行ってください。
  空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（空気圧はフロント ドア開口部に記載しています）

タイヤ交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキ ドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキ ドラムが外れていないことを確認してください。
  ブレーキ ドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。

⚠注意

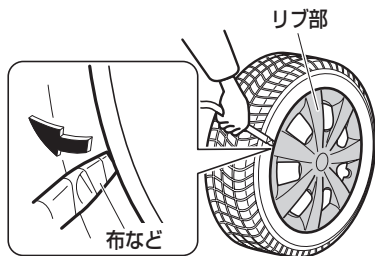
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。

交換の準備

⚠注意

- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

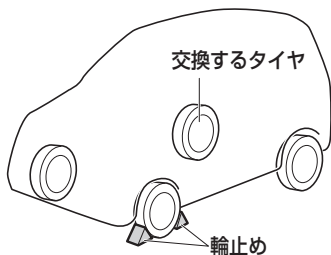
フル ホイール キャップ装着車

傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキ ハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。

⚠注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボデーなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキ ハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。

いざというときの処置

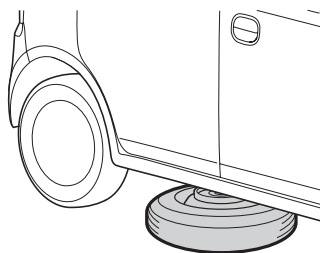
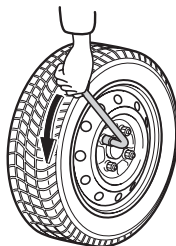
交換の手順

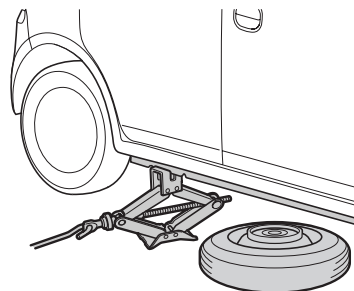
1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフト レバーをⓅレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。

アドバイス

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

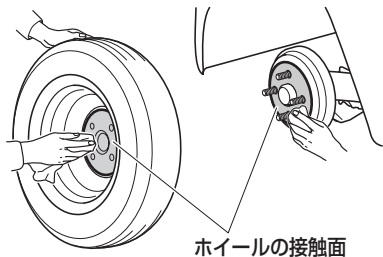
3. 工具、ジャッキ、スペア タイヤを取り出します。

(格納場所→ 226 ページ)
(ジャッキの使いかた→ 227 ページ)
(応急用スペア タイヤ→ 236 ページ)

4. ジャッキが外れた場合の危険防止のため、スペア タイヤは交換するタイヤの近くの車体の下に置きます。

5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。

6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。

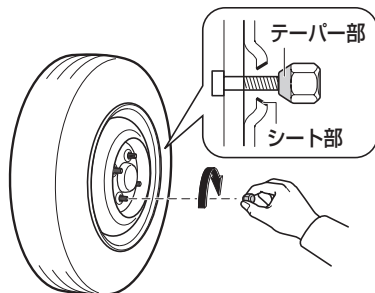
(ジャッキの使いかた→ 227 ページ)

7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。

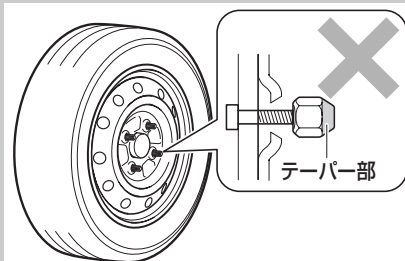
- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。

8. 交換するタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。

⚠注意

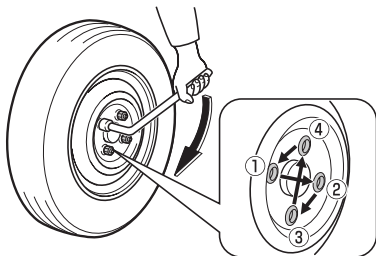
- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

9. 交換するタイヤを取り付けます。

10. ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。

⚠警告

- 必ずナットのテーパ―部を内側にして取り付けてください。テーパ―部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

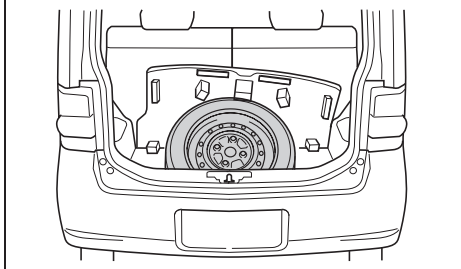
11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3度にわたり十分締め付けます。

⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
  - 締付力（ホイール ナット レンチ先端にて）：440～590N｛45～60kgf｝
  - 締付トルク：103N･m ｛1,050kgf･cm｝

12. 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。

アドバイス

標準タイヤを収納する場合

- パンクした標準タイヤは、応急用スペア タイヤを収納している位置には収納できません。
  デッキ ボードを起こし、ホイール意匠面を表向きして、図のように斜めにした状態で収納してください。

13. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

⚠注意

- パンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をダイハツ サービス工場で受けてください。
- アルミ ホイール装着車は、ダイハツ純正アルミ ホイール専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

標準タイヤに戻すとき

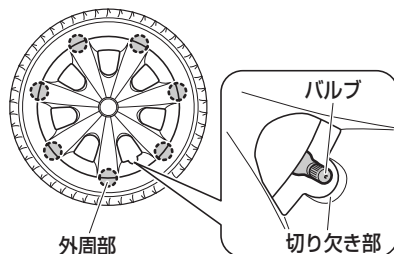
タイヤ交換の手順と同じです。

⚠注意

- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤを新品に交換する場合は、必ず指定のサイズのタイヤに交換してください。

フル ホイール キャップ装着車

フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップの切り欠き部を合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。

いざというときの処置

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- キー フリー システム装着車の電子カード キーでドアが解錠しない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やeco IDLEによるアイドリング ストップが正常に作動しなくなる原因となります。

  (eco IDLE専用バッテリー → 172 ページ)
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLEによるアイドリング ストップが正常に作動しなくなります。

  (eco IDLE専用バッテリー → 172 ページ)

アドバイス

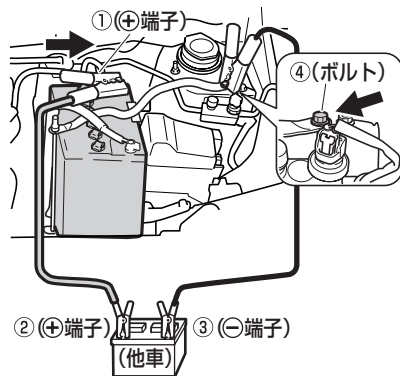
- バッテリーあがりを防ぐために下記のことをお守りください。
  - エンジンを止めたままライトをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
  - エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

▼ 処置の手順

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外し、ブースター ケーブルを図の番号順で接続します。
   ①バッテリーあがり車の⊕端子
   ②他車の⊕端子
   ③他車の⊖端子
   ④下記の箇所（アースにつなぐ）

2. 電源側の車（他車）を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
4. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

いざというときの処置

⚠注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- ケーブル接続の際には、ブースターケーブルを矢印の方向にして、⊕端子に接続させてください。
  また、⊕端子をボデー金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

オーバー ヒートの処置

下記の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

車を安全な場所に止め、下記の処置をしてください。

▼処置を行う前に

⚠警告

- 水温が高いときは、ラジエーター キャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーター キャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼処置の手順

1. ボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
2. ボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。

3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームをチェックします。エンジン ルーム内が下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてダイハツ サービス工場にご連絡ください。
   • 冷却ファンが回転していないとき
   • ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
   • ラジエーター リザーバー タンクの水がないとき
   • ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

アドバイス

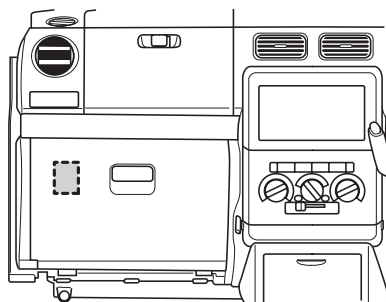
● **オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）**

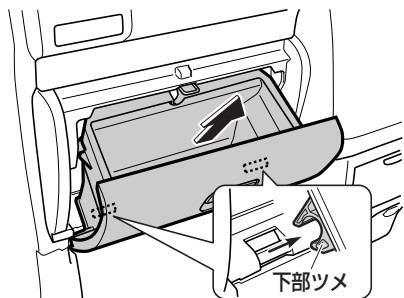
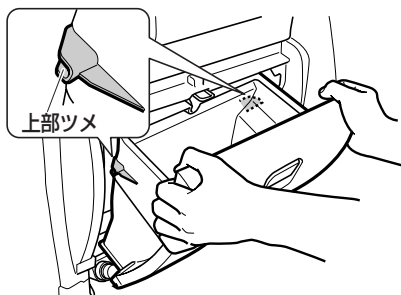
ヒューズの交換

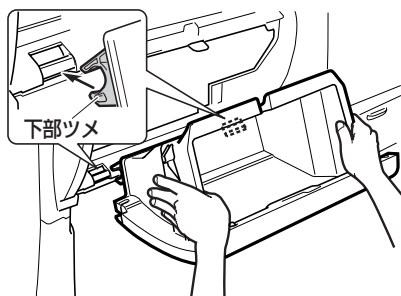
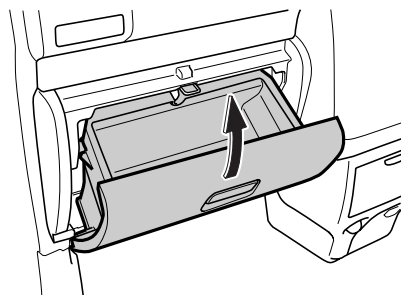
ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはダイハツ サービス工場にご相談ください。

ヒューズの位置

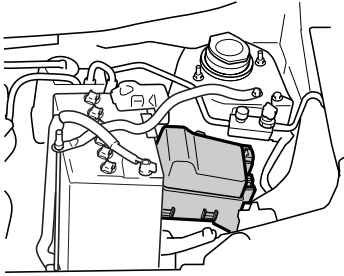
○インストルメント パネル
　ヒューズ ボックス

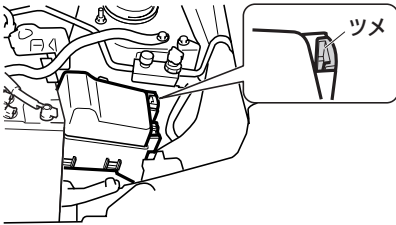
グローブ ボックス奥に設置されています。

▼グローブ ボックスの取り外しかた

1. エンジン スイッチを“LOCK”の位置にします。
2. グローブ ボックスを開けます。
3. グローブ ボックスを矢印の方向へ引き上げて下部ツメを外します。

4. 上部ツメがひっかからないように、少し傾けながら、グローブ ボックスを取り外します。

▼グローブ ボックスの取り付けかた

1. グローブ ボックスを水平にして、下部ツメを取り付けます。

2. グローブ ボックスを矢印の方向に押し込みます。

アドバイス

- グローブ ボックスを取り付けるときは、十分にかん合していることを確認してから、ボックスを閉めてください。下部ツメのかん合が不十分なままだと、ボックスが開かなくなります。

○エンジン ルーム ヒューズ ボックス

▼取り外しかた

1. エンジン スイッチを“LOCK”の位置にします。
2. カバー横のツメを押しながら、カバーを開けます。

▼取り付けかた

取り外すときと逆の手順で行います。

ヒューズ ボックス

ヒューズ ボックスのラベルに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。
ヒューズは、ラベル表示にしたがって交換してください。

○インストルメント パネル
　ヒューズ ボックス

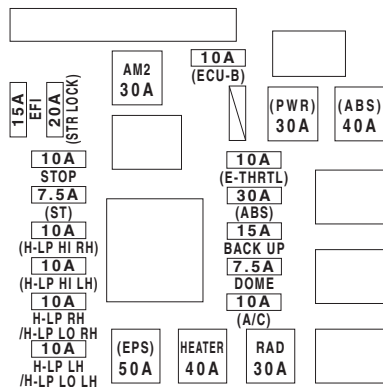
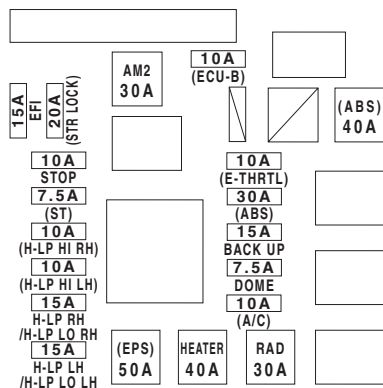
▼ラベル位置

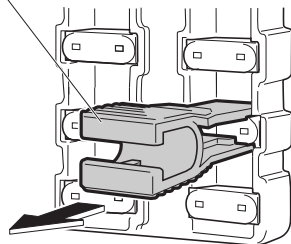
グローブ ボックスの裏側に表示されています。

いざというときの処置

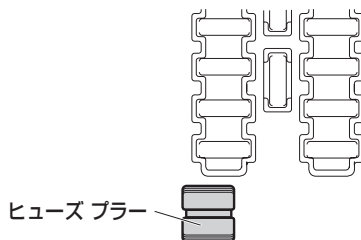
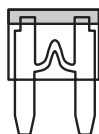
○エンジン ルーム ヒューズ ボックス

ヒューズ ボックスのカバーに表示されています。

ディスチャージ ヘッド ランプ装着車以外

ディスチャージ ヘッド ランプ装着車

ヒューズの点検と交換

1. 備え付けのヒューズ プラーを使用して、ヒューズを挟んで外します。

アドバイス

ヒューズ プラーの位置

- インストルメント パネル ヒューズ ボックス内にあります。

2. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

（正常）

（切れているとき）

⚠注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

標準車

グレードの違い、注文装備も記載しています。

ランプ		電球（バルブ）	
		W（ワット）数	タイプ
①	後退灯	16	T16
②	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	S25（アンバー）
③	バニティー ミラー ランプ	2	―
④	ルーム ランプ（フロント）	8	T10
⑤	フロント パーソナル ランプ	5	T10
⑥	ルーム ランプ（センター）	8	T10
⑦	番号灯	5	T10
⑧	フォグ ランプ	35	H8
⑨	車幅灯	5	T10
⑩	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	T20（アンバー）
⑪	前照灯	60/55	H4
⑫	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯（ドア ミラー ターン ランプ装着車以外）	5	T10

下記の電球の交換は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
⑬ハイマウント ストップ ランプ（LED）
⑭制動灯/尾灯（LED）
⑮側面方向指示灯 兼 非常点滅灯（LED）
（ドア ミラー ターン ランプ装着車）

アドバイス

- LEDを使用しているランプは、電球のみの交換をすることができません。ダイハツ サービス工場にご相談ください。

カスタム仕様車

グレードの違い、注文装備も記載しています。

ランプ		電球（バルブ）	
		W（ワット）数	タイプ
①	後退灯	16	T16
②	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	S25（アンバー）
③	バニティー ミラー ランプ	2	−
④	ルーム ランプ（フロント）	8	T10
⑤	フロント パーソナル ランプ	5	T10
⑥	ルーム ランプ（センター）	8	T10
⑦	番号灯	5	T10
⑧	フォグ ランプ	35	H8
⑨	前照灯／ハイ ビーム	60	HB3
⑩	車幅灯	5	T10
⑪	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21	T20（アンバー）

下記の電球の交換は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
⑫ハイマウント ストップ ランプ（LED）
⑬制動灯/尾灯（LED）
⑭前照灯／ロー ビーム（ディスチャージ）
⑮側面方向指示灯 兼 非常点滅灯（LED）

アドバイス

- ディスチャージ ヘッドランプは、高電圧を使用しているため、お客さまご自身による電球の交換はできません。ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- LEDを使用しているランプは、電球のみの交換をすることができません。ダイハツ サービス工場にご相談ください。

いざというときの処置

交換の手順

⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

ディスチャージ ヘッド ランプ装着車

- ディスチャージ ヘッド ランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。ディスチャージ ヘッド ランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電するおそれがあり危険です。
ランプを交換・修理・廃棄するときは、必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。

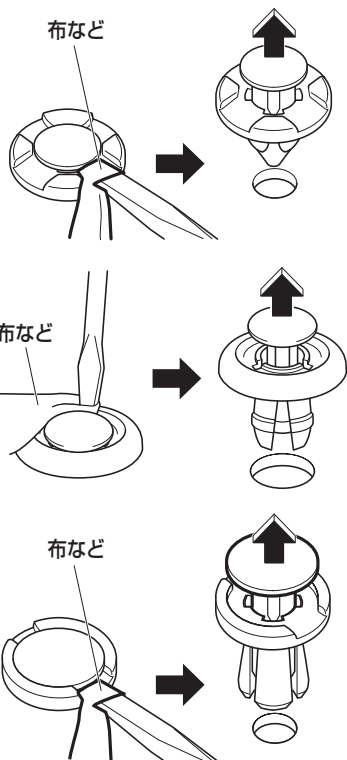
⚠注意

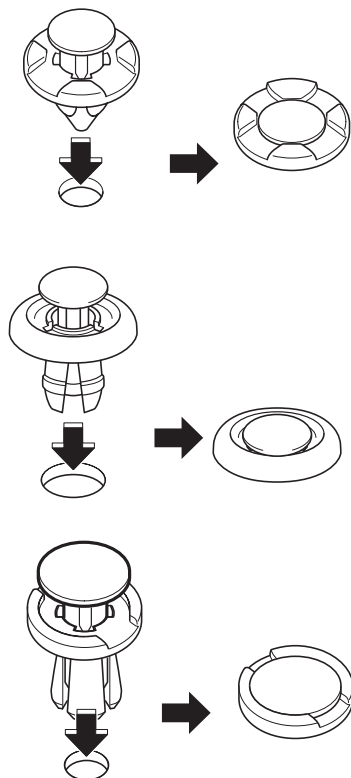
- 同じワット数の電球以外は使用しないでください。過熱などにより故障の原因になります。
- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- 前照灯（フォグ ランプ含む）などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。ダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- ヘッド ランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、ダイハツ サービス工場にご相談ください。

クリップの取り付け、取り外しについて

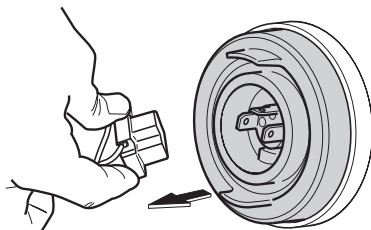
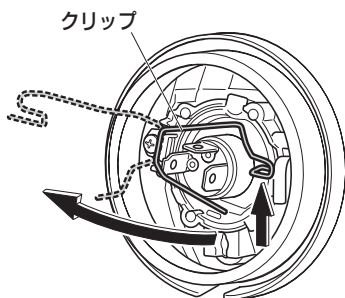
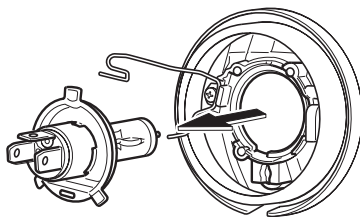
- 取り外すときは、⊖ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。

アドバイス

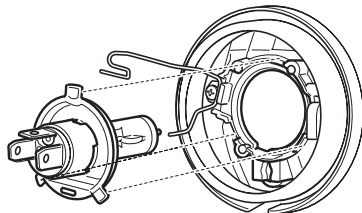
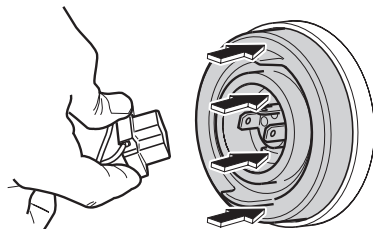
- 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込みます。

いざというときの処置

○前照灯

標準車

▼取り外し手順

1. コネクターを取り外したあと、カバーを取り外します。

2. クリップを矢印の方向に外します。

3. バルブを取り外します。

▼取り付け手順

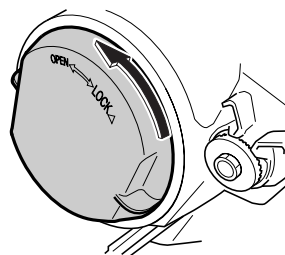
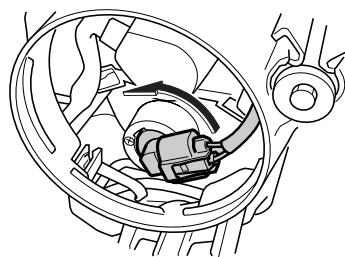
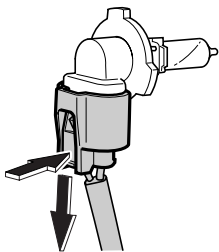
1. バルブの突起部をヘッド ランプ本体の溝にはめ込みます。

2. クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定します。
3. 矢印の方向にカバー押さえて、確実にカバーを取り付けたあと、コネクターを取り付けます。

○前照灯／ハイ ビーム

カスタム仕様車

⚠警告

- ハイ ビーム バルブを取り外すときは、ディスチャージ ヘッド ランプ（ロー ビーム）が消灯していることを確認してください。
- ディスチャージ ヘッド ランプ（ロー ビーム）が点灯中は、高電圧が発生するため、ディスチャージ ヘッド ランプのコネクターなどに触れると、感電により重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▼取り外し手順

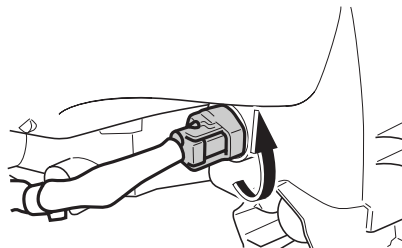
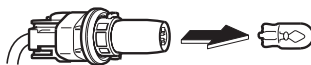
1. カバーを回して外します。

2. バルブを回して取り外します。

3. コネクターのツメを押して、コネクターを取り外します。

▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○車幅灯

標準車（車両右側）

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。

2. ソケットから電球を引き抜きます。

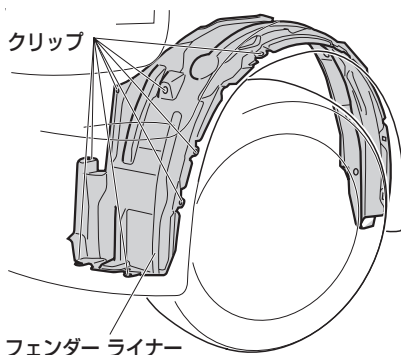
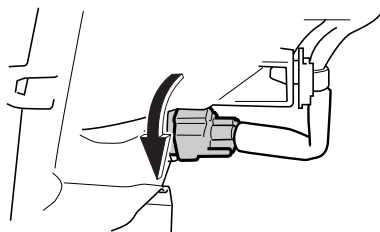
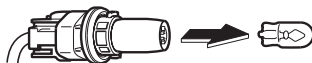
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

標準車（車両左側）

車両左側の車幅灯はエンジン ルームから交換できないため、フェンダー ライナーをめくって交換してください。

▼ 取り外し手順

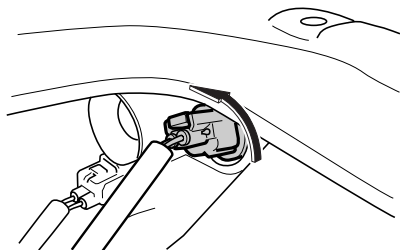
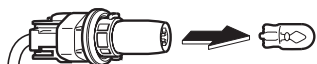
1. ハンドルを右に、いっぱいまで回します。
2. クリップ（8 個）を取り外し、バンパーとフェンダー ライナーの間に手が入るくらいフェンダー ライナーをめくります。

3. ソケットを回して取り外します。

4. ソケットから電球を引き抜きます。

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

カスタム仕様車

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。

2. ソケットから電球を引き抜きます。

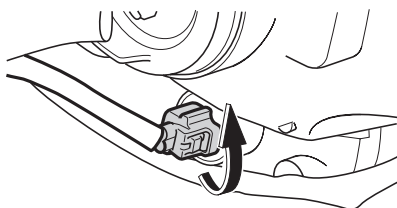
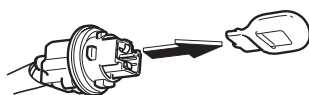
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

標準車（車両右側）

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。

2. ソケットから電球を引き抜きます。

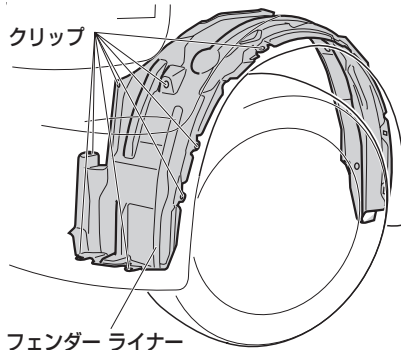
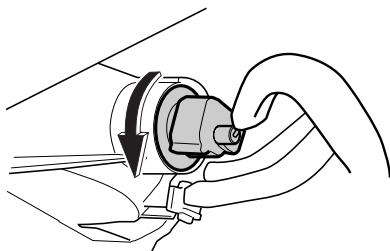
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

標準車（車両左側）

車両左側の前面方向指示灯 兼 非常点滅灯はエンジン ルームから交換できないため、フェンダー ライナーをめくって交換してください。

▼ 取り外し手順

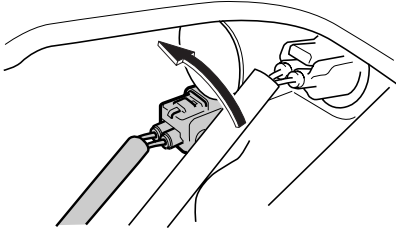
1. ハンドルを右に、いっぱいまで回します。
2. クリップ（8 個）を取り外し、バンパーとフェンダー ライナーの間に手が入るくらいフェンダー ライナーをめくります。

3. ソケットを回して取り外します。

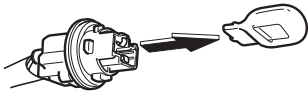
4. ソケットから電球を引き抜きます。

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

カスタム仕様車

▼取り外し手順

1. ソケットを回して取り外します。

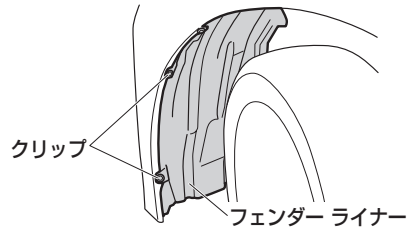
2. ソケットから電球を引き抜きます。

▼取り付け手順

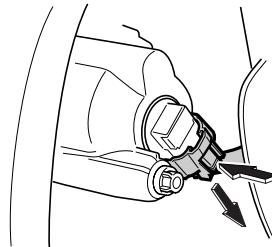
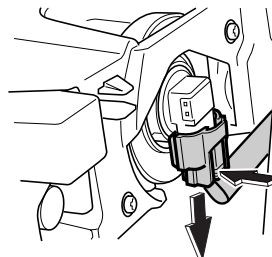
逆の手順で行います。

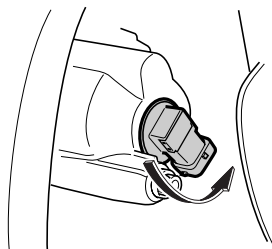
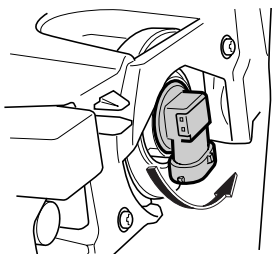
○フォグ ランプ

オプション/グレード別装備

▼取り外し手順

1. ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回します。
2. クリップ（2 個）を取り外し、バンパーとフェンダー ライナーの間に手が入るくらいフェンダー ライナーをめくります。

3. コネクターのツメを押して、コネクターを取り外します。

標準車

カスタム仕様車

4. バルブを回して取り外します。

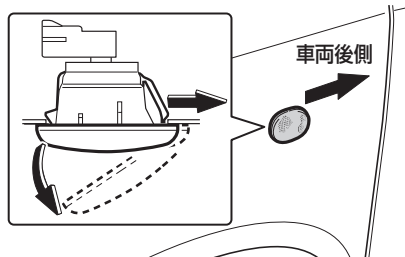
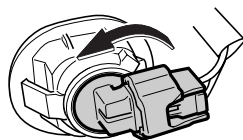
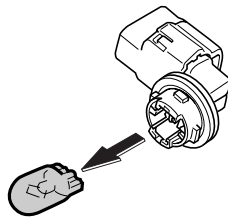
標準車

カスタム仕様車

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

○側面方向指示灯 兼 非常点滅灯

ドア ミラー ターン ランプ装着車以外

▼ 取り外し手順

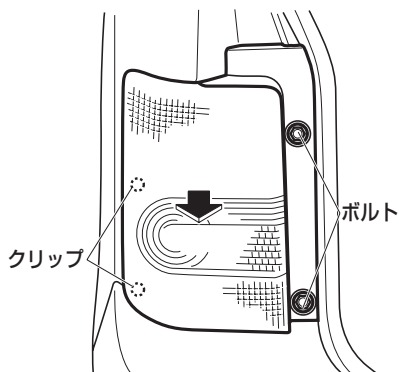
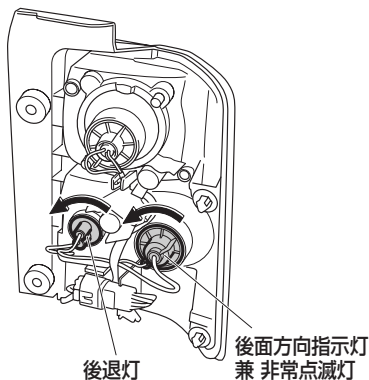
1. ランプ本体を車両後側に押しながら、手前に引いて外します。

2. ソケットを回して取り外します。

3. ソケットから電球を引き抜きます。

▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

○リヤ コンビネーション ランプ

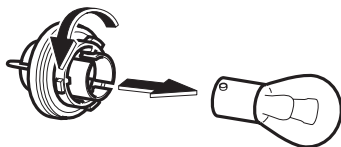
▼取り外し手順

1. バック ドアを開けます。
2. ボルト（2本）を取り外します。
3. 車両後方にランプ本体を引いて、車両からランプ本体を取り外します。

4. 交換する電球のソケットを回して取り外します。

5. 電球を取り外します。

後退灯

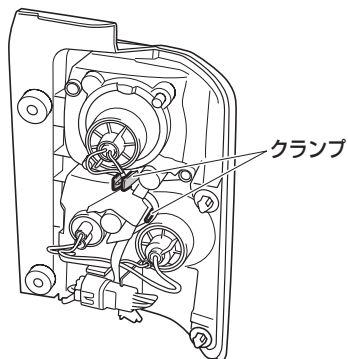
ソケットから電球を引き抜きます。

後面方向指示灯 兼 非常点滅灯

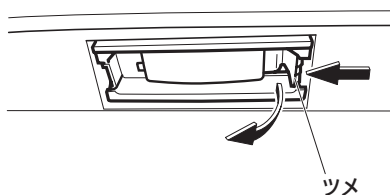
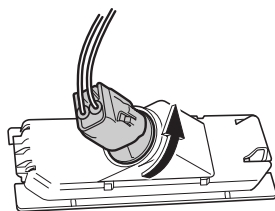
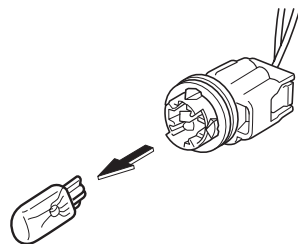
電球を押しながら回して、ソケットから抜き取ります。

▼取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠注意

- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線をクランプに取り付けてください。
  クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。

○番号灯

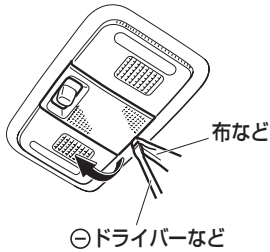
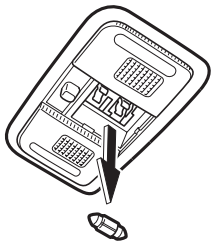
▼取り外し手順

1. ツメを矢印の方向に押して、ランプ本体を取り外します。

2. ソケットを回して取り外します。

3. ソケットから電球を引き抜きます。

▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○ルーム ランプ（フロント）

▼取り外し手順

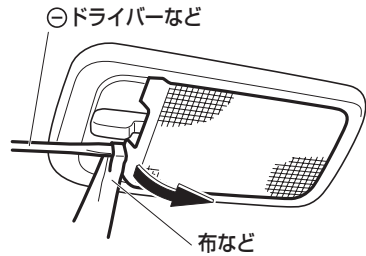
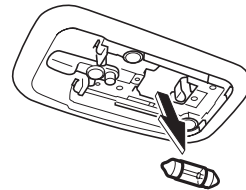
1. ⊖ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。

2. 電球を取り外します。

▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○ルーム ランプ（センター）

▼取り外し手順

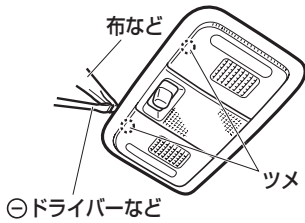
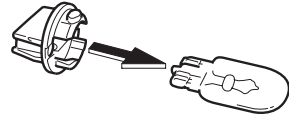
1. ⊖ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。

2. 電球を引き抜きます。

▼取り付け手順

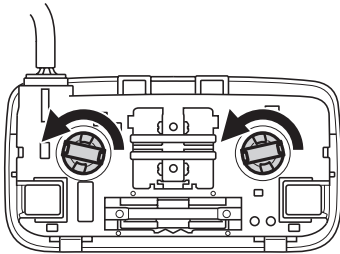
逆の手順で行います。

◯フロント パーソナル ランプ

▼取り外し手順

1. ⊖ドライバーを差し込み、ツメ（2カ所）を外してランプ本体を取り外します。

布など
ツメ
⊖ドライバーなど

2. 交換する電球のソケットを回して取り外します。

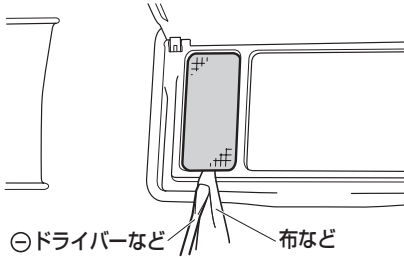
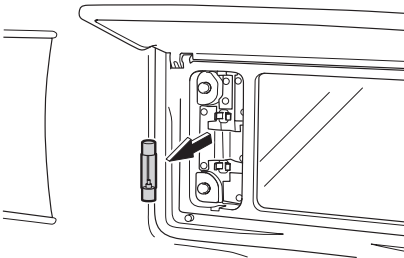
3. ソケットから電球を引き抜きます。

▼取り付け手順

逆の手順で行います。

○バニティー ミラー ランプ

オプション/グレード別装備

▼取り外し手順

1. ⊖ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。

2. 電球を取り外します。

▼取り付け手順

逆の手順で行います。

キーの電池交換

- インジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。
- 電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、ダイハツ サービス工場での交換をおすすめします。

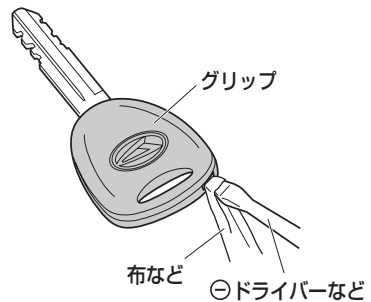
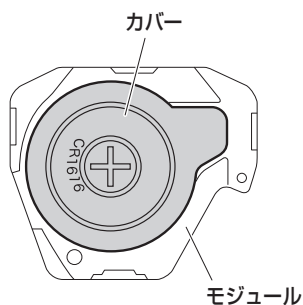
メイン キー

キーレス エントリー装着車

▼使用電池について

使用電池は「CR1616（3V）」です。

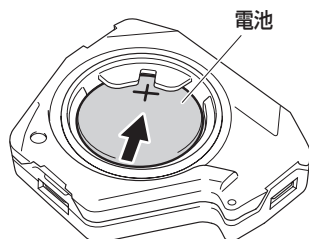
▼交換方法

1. 傷付き防止のため、先端に布などを巻いた、くぼみに入る程度の薄刃の⊖ドライバーなどを用意します。
2. 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、グリップを外します。

3. モジュールの裏側のカバーを外します。

4. 矢印の方向にスライドさせて、電池を取り出し、新しい電池と交換します。

⚠注意

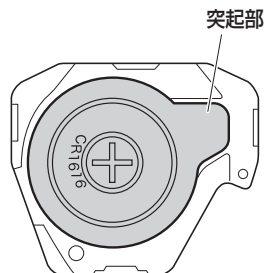
- 取り出した電池はお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

アドバイス

- 新しい電池は⊕極を上側にして取り付けます。

▼交換したあと

1. カバーとモジュール、およびグリップを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認します。

アドバイス

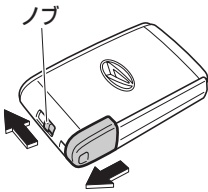
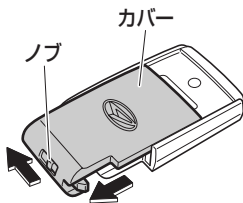
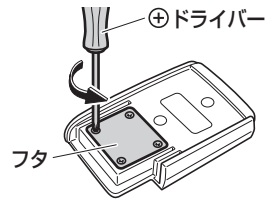
- カバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。カバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。

電子カード キー

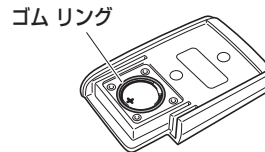
キー フリー システム装着車

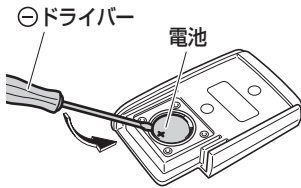
▼ 使用電池について

使用電池は「CR1632（3V）」です。

▼ 交換方法

1. 電子カードキーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、電子カードキーから、エマージェンシー キーを引き抜きます。

2. 電子カードキーのノブを矢印の方向にスライドさせたまま、カバーを外します。

3. 小さい⊕ドライバーで、ネジ（4本）を外して、フタを外します。

アドバイス

- 電池交換時は、ゴム リングを傷付けないようにしてください。
- フタを外すときは、ゴム リングがフタの裏面に付いている場合がありますので、紛失しないようにしてください。
  ゴム リングは下図の位置にねじれないように取り付けてください。

4. ⊖ドライバーを差し込み、電池を取り出し、新しい電池と交換します。

⚠注意

- 取り出した電池はお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

アドバイス

- 新しい電池は⊕極を上側にして取り付けます。

▼ 交換したあと

1. フタとカバー、およびエマージェンシー キーを逆の手順で取り付けます。
2. スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認します。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどを呼んでください。
別冊の「メンテナンス ノート」巻末のJAFロード サービスのご案内を参照してください。

▼ キーをなくした場合

キーレス エントリー装着車

キー ナンバーを最寄りのダイハツ サービス工場にご連絡ください。

アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
  - 日頃からキーを使ってロックしてください。
  - バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

キー フリー システム装着車

保管していたメイン キー（または電子カード キー）とキー ナンバー プレートを最寄りのダイハツ サービス工場にお持ちください。

アドバイス

- 電子カード キー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ず電子カード キーを携帯していることを確認するか、キーレス操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

○緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠警告

- ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

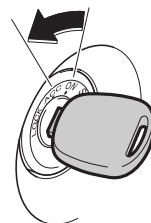
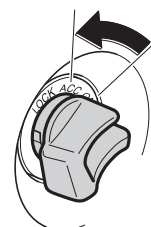
2. シフト レバーをⓃレンジに入れます。

▼シフト レバーがⓃレンジに入った場合

3. 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。

▼シフト レバーがⓃレンジに入らない場合

4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
5. エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。

キーレス エントリー装着車

キー フリー システム装着車

6. 車を安全な道路脇に停めます。

⚠警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察署または派出所へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

車のお手入れ

車の整備、お手入れの方法について説明しています。

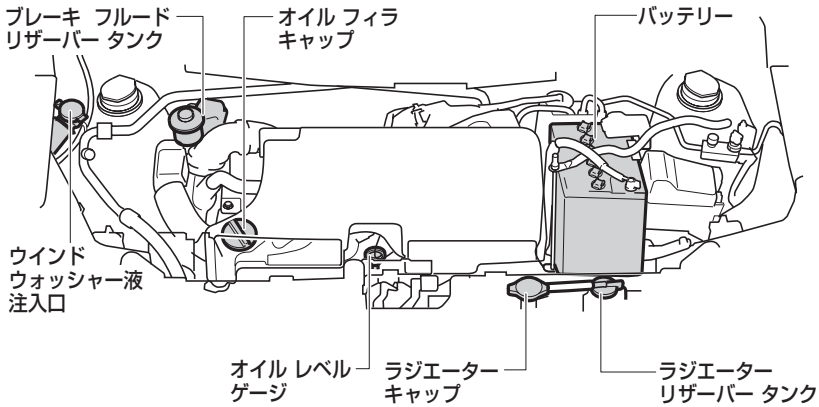
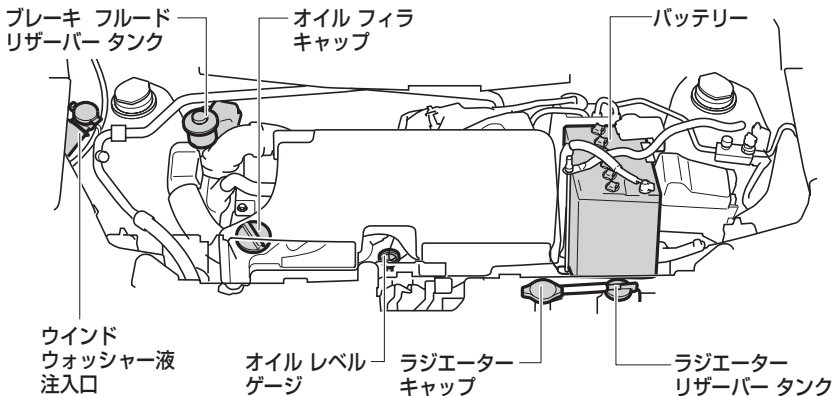
■ 車のお手入れ

車のお手入れ

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

エンジン ルーム

グレードの違い、注文装備も記載しています。

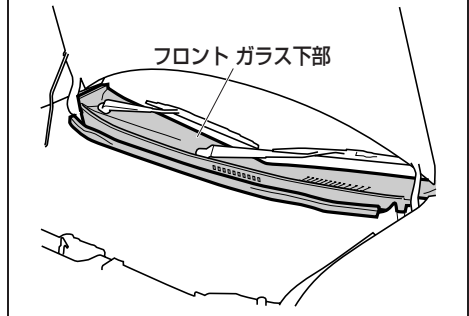
ターボ車以外

ターボ車

消耗品の補給、交換

消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

⚠警告

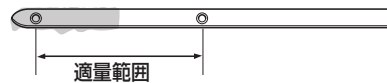
- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
  オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- エンジン ルームを点検するときは、フロント ガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。

エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。

オイル レベル ゲージ

車のお手入れ

アドバイス

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイル フィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼冷却水の点検について

ラジエーター リザーバー タンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠警告

- 水温が高いときは、ラジエーター キャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーター キャップにかかっているので、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。

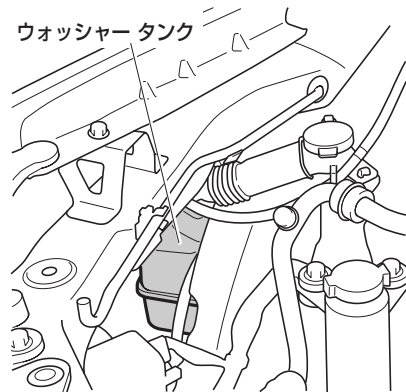
ウインド ウォッシャー液の補給

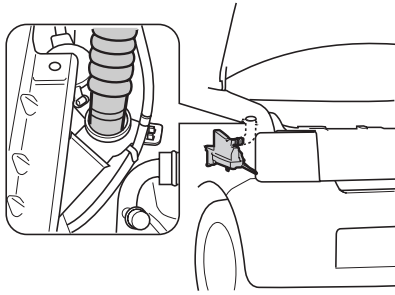
ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、ダイハツ純正ウインド ウォッシャー液を補給します。

アドバイス

- ウインド ウォッシャー液はダイハツ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウインド ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

▼点検のしかた

ウォッシャー タンクの側面から、液面を目視により確認します。

▼補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

⚠警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。

タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤ ゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。また、スペア タイヤの空気圧も点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。）

⚠警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディング ウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20～30kPa（0.2～0.3 {kgf/cm^2} ）空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

車のお手入れ

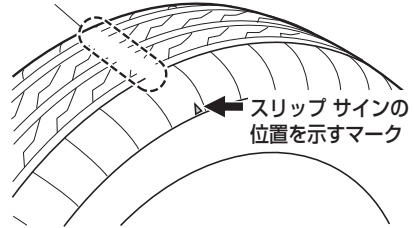
タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、ダイハツ サービス工場で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップ サイン（摩耗限度表示）により点検してください。
また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

⚠警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップ サイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロ プレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

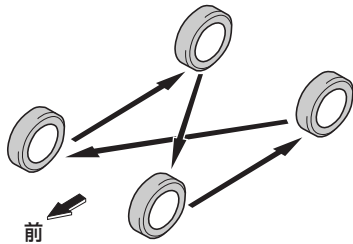
* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。
ローテーションは 5,000km走行ごとに行ってください。

▼ローテーションのしかた

図の順にローテーションしてください。

（タイヤ交換→ 237 ページ）

⚠注意

- 応急用スペア タイヤはローテーション用タイヤとしては使用しないでください。

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。
室内側のウインド ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠注意

- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
  特にシート ベルトについては、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

アドバイス

- リヤ ウインド ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

エアコンのお手入れ

エアコン ガス

エアコン　ガスは新冷媒HFC134a（R134a）を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はダイハツ サービス工場にご相談ください。

クリーン エア フィルター

エアコンには、車外から進入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーン エア フィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、ダイハツ サービス工場にご相談ください。
- 交換の目安は 20,000km（大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は10,000km）です。

アドバイス

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ボデー、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデー カバーを付けるように心がけましょう。
車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。
下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めにダイハツ純正タッチ アップ ペイントで補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

▼ 洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカー シャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

⚠注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジン ルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキ ペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキ ペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。

アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤を使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。

○自動洗車機を使用するとき

⚠注意

- エアコン コントロール パネルの内外気切り替えレバー、またはスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ミラーは格納し、ルーフ アンテナを取り外して、前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

○高圧洗車機を使用するとき

⚠注意

- ドア ガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

キー フリー システム装着車

- 運転席ドア アウター ハンドル横のスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

車のお手入れ

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。ワックスはダイハツ純正カー ワックスをおすすめします。

⚠注意

キー フリー システム装着車

- 運転席ドア アウター ハンドル横のスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスを使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。

樹脂部分のお手入れ

樹脂塗装部品（バンパーなど）にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ダイハツ サービス工場にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミ ホイールのお手入れ

オプション/グレード別装備

アルミ ホイールはボデーの洗車と同じ要領で行い、ボデーと同じワックスでワックスがけをしてください。

⚠注意

- アルミ ホイールにワックスがけをする際は、ホイール ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

ワイパーの交換

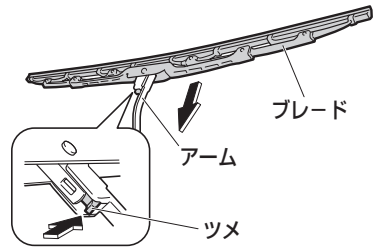
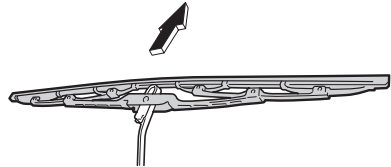
⚠注意

- ワイパー ブレード、ラバーはダイハツ純正をおすすめします。ダイハツ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインド ガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインド ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパー アームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。

フロント ワイパー

○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

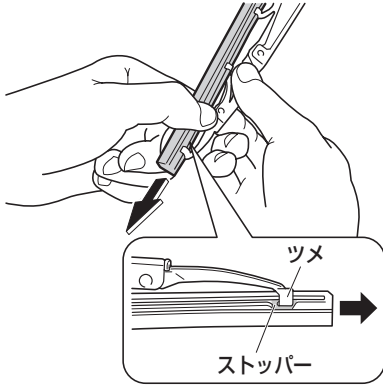
1. アームを起こします。
2. ツメを押しながら、ブレードを矢印の方向に引いて、ブレードのロックを外します。

3. ブレードのロックが外れていることを確認し、アームからブレードを抜きます。

▼取り付けかた

- 逆の手順で行います。
- アームとブレードが確実に固定されていることを確認してください。

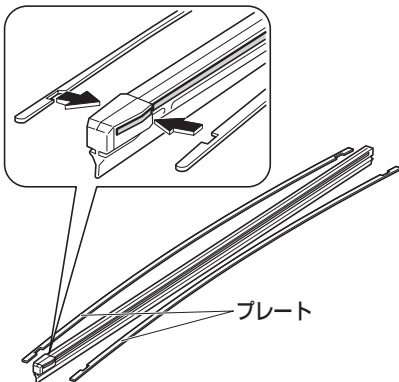
車のお手入れ

○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。

2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。

▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。

4. ストッパーがない側からラバーをブレードに挿入します。
5. 取り付けたとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

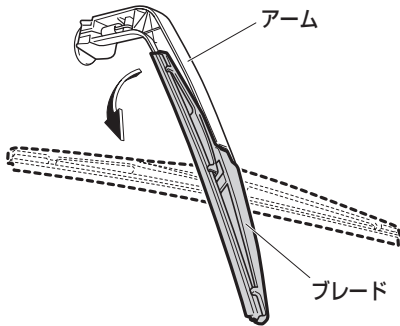
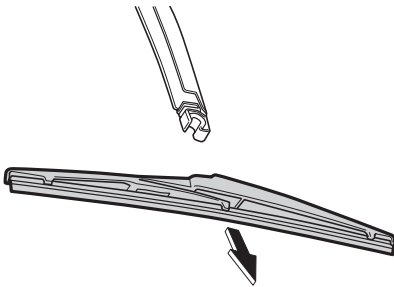
⚠注意

- ラバーのストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

リヤ ワイパー

○ワイパー ブレード

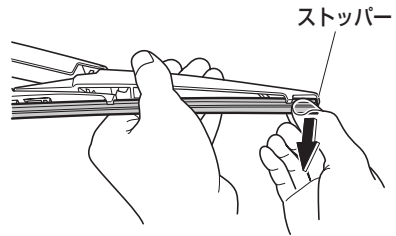
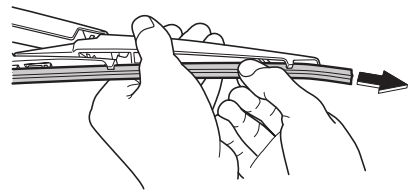
▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードを矢印の方向に回し、アームと垂直にします。

3. ブレードを矢印の方向に引いて、アームからブレードを引き抜きます。

▼取り付けかた

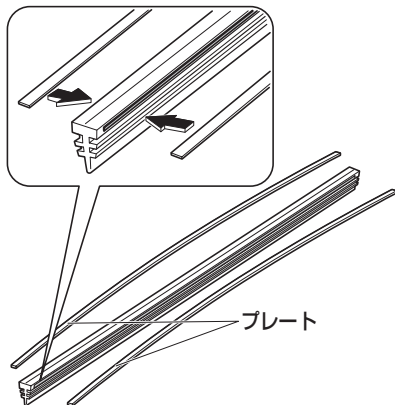
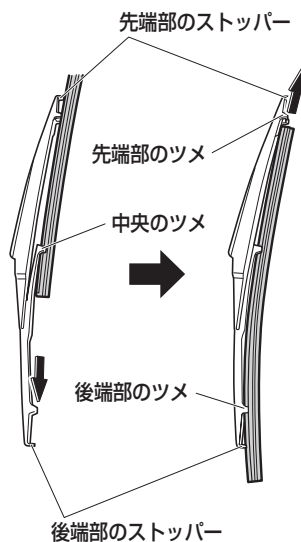
逆の手順で行います。

○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーを手前に引いて、ブレードの先端部のストッパーから取り外します。

2. ラバーをブレードから引き抜きます。

車のお手入れ

▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。

4. ブレードの中央のツメからラバーを挿入します。
5. ブレードの後端部のツメにラバーを通し、さらにラバーを挿入して、後端部のストッパーを通過させます。
6. 先端部のツメにラバーを通し、先端部のストッパーまで挿入します。
7. 後端部のツメにラバーが確実に挿入されていることを確認してください。

⚠注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインド ガラスに傷が付くおそれがあります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪時、寒冷時に必要となる
運転知識について説明しています。

■ 積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキー フリー システム（オプション/グレード別装備）に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジン オイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジン オイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をダイハツ サービス工場に依頼してください。

ウインド ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパー ブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパー ブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。
寒冷地用ワイパー ブレードは、ダイハツ サービス工場で各車指定のブレードをご購入ください。

⚠注意

- 高速走行時は、通常のワイパー ブレードよりウインド ガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。

積雪、寒冷時の取り扱い

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインド ガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインド ガラスが割れるおそれがあります。
- フロント ウインド ガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロント ウインド ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドア ミラー、ドア ガラスなどを無理に作動させると、ワイパー ゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤ チェーンまたはスノー タイヤを装着してください。

⚠注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  チェーン装着車、スノー タイヤ装着車、また 4WD車、ABS装着車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤ チェーンの装着

前輪駆動車ですので、チェーンは前 2 輪に装着します。4 WD車も前 2 輪に装着します。
チェーンはサイズに合った物を使用してください。

▼指定チェーン サイズ

タイヤ サイズ	指定チェーン サイズ		
155/65R14	ダイハツ純正チェーン	スチール	999-03040-P9-003
		サイル	999-02131-P9-076
	市販JISチェーン		使用不可
165/55R15	ダイハツ純正チェーン	サイル	999-02131-P9-095
	市販JISチェーン		使用不可

積雪、寒冷時の取り扱い

⚠注意

- タイヤ チェーンは車のタイヤのサイズに合った、ダイハツ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- タイヤ チェーンの取り付けは各タイヤ チェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤ チェーン装着時は 30km/h以上で走行しないでください。タイヤ チェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- 応急用スペア タイヤには標準タイヤ用のタイヤ チェーンは装着できません。前輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用タイヤ チェーンを装着してください。

アドバイス

- タイヤ チェーンを装着するとホイール キャップやアルミ ホイールに傷が付くおそれがあります。ホイール キャップ装着車はホイール キャップを取り外した状態で、タイヤ チェーンを装着してください。

スノー タイヤの装着

⚠注意

- スノー タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じ指定サイズで、同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。また、スノー タイヤを装着するときは、4 輪とも同じ種類の物に交換してください。
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

積雪、寒冷時の取り扱い

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキ ペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキ パッドのしめりを乾かしてください。

⚠注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツ サービス工場で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤ ハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤ チェーン装着時、前輪がパンクした場合は、応急用スペア タイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤ チェーンを装着してください。
応急用スペア タイヤにはタイヤ チェーンは装着できません。

積雪、寒冷時の取り扱い

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。
エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。
また、ワイパー アームは起こしてください。雪の重みでアーム取り付け部がこわれることがあります。

アドバイス

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。シフト レバーをⓅレンジに入れておきましょう。
- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、ルーフ アンテナを取り外してください。
（ルーフ アンテナ→ 195 ページ）

洗車方法

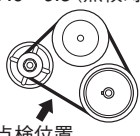
凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

アドバイス

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデー カバーを使用してください。

⚠注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロント グリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

サービス データ

項　目			サービス データ	
点火プラグ	エンジン型式＼プラグ型式		NGK	デンソー
	KF型（ターボ車以外）		ILKR6F11 （イリジウム プラグ） ILKR7F11 （イリジウム プラグ）	SXU20HPR11 （イリジウム プラグ） SXU22HPR11 （イリジウム プラグ）
	KF型（ターボ車）		ILKR7D9 （イリジウム プラグ）	SXU22HPR9 （イリジウム プラグ）
ファン ベルト	たわみ量（㎜） 押力98N{10㎏f}時		7.6〜9.3（点検時） 点検位置	
アイドリング回転数（rpm）			800	
ブレーキ ペダル	遊び（㎜）		0.5〜3.0	
	床板とのすき間（㎜） （踏力294N{30㎏f}時）	ターボ車以外	87.0以上	
		ターボ車	75.8以上	
駐車ブレーキ	踏みしろ（踏力245N{25㎏f}時）		5〜7ノッチ	
バッテリー			M-42	
フューエル タンク	容量（ℓ）（無鉛ガソリン使用）		36（2WD）、34（4WD）	
ウォッシャー タンク	容量（ℓ）		2.0	

<table>
<tr><th colspan="3">項　　　　目</th><th>サービス データ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">エンジン オイル</td><td rowspan="2">使用オイルと交換時期</td><td>ターボ車以外</td><td>アミックス モーター オイルSAE0W-20*1または5W-30
(API分類SM以上)
6か月ごとまたは、10,000kmごと(5,000kmごと*2)の
どちらか早い方</td></tr>
<tr><td>ターボ車</td><td>アミックス モーター オイルSAE5W-30
(API分類SM以上)
6か月ごとまたは、5,000kmごと(2,500kmごと*2)の
どちらか早い方</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換量(ℓ)</td><td>オイル交換時</td><td>約2.7</td></tr>
<tr><td>オイルとオイルフィルター(オイルクリーナー)交換時</td><td>約2.9</td></tr>
<tr><td>オイル フィルター
(オイル クリーナー)</td><td colspan="2">交換時期</td><td>10,000kmごと(5,000kmごと*2)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">トランスミッション
オイル</td><td colspan="2">交換時期</td><td>50,000kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用オイル</td><td>アミックスCVTフルードｰDC</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換量(ℓ)</td><td>ターボ車以外</td><td>約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)</td></tr>
<tr><td>ターボ車</td><td>約2.5(ドレン)、約5.8(全容量)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">トランスファ オイル</td><td colspan="2">交換時期</td><td>100,000kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用オイル</td><td>アミックス デファレンシャル ハイポイド ギヤ オイルSAE80W-90
(API分類GL-5)</td></tr>
<tr><td colspan="2">交換量(ℓ)</td><td>約0.57</td></tr>
</table>

＊1 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

＊2 シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上／年)や短距離走行の繰り返し(8km以下／回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠注意

CVT車のトランスミッション オイルを交換する場合

- ダイハツ純正オイル(アミックスCVTフルード-DC)のみご使用ください。ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。
  オイルの交換については、必ずダイハツ サービス工場にご相談ください。

項	目		サービス データ
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期		30,000kmまたは2年(初回は3年)
	使用オイル		アミックスデファレンシャルハイポイドギヤオイルSAE80W-90 (API分類GL-5)
	交換量(ℓ)		約0.81
ブレーキオイル	交換時期		2年ごと(初回は3年)
	使用オイル		アミックス ブレーキ フルード(DOT3相当)
エアクリーナーエレメント	交換時期		40,000kmごと(20,000kmごと*)
冷却水 (除くリザーバータンク)	交換時期		2年ごと(初回は3年)
	使用液		アミックス ロングライフ クーラント(高防錆力タイプ)
	規定濃度(%)		30(寒冷地50)
	全容量(ℓ)	ターボ車以外	約2.8
		ターボ車	約2.9

＊ シビア コンディション条件での定期交換の場合
シビア コンディション条件とは、走行距離大(20,000km以上／年)や短距離走行の繰り返し(8km以下／回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

タイヤ サイズ	タイヤ空気圧 (空車時:kPa{kgf/㎠})				タイヤの溝の深さ(㎜)	タイヤ位置交換時期
	前輪		後輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14	240{2.4}				1.6以上	5,000kmごと
165/55R15						
T105/90 D12(応急用タイヤ)	420{4.2}					——
T105/70 D14(応急用タイヤ)						

さくいん

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ネ

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

メ

ユ

ヨ

ラ

リ

ル

レ

ロ

ワ

3

4

A

C

E

F

H

I

L

S

V

W

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（Aは一時使用中止時、Bは解体返納時に必要です）

A　自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
B　解体届出書
AB　自動車検査証
AB　車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
AB　軽自動車税申告書
AB　印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

2番窓口

申請書類の確認

3番窓口

検査手数料収納

2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

2番窓口

申請書類の確認

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（Cは使用者・所有者を変更した場合、Dは引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- C D 自動車検査証記入申請書
- C D 自動車検査証
- C D 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後3ヶ月以内のもの）
- C 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）
- C D 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- C 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
- D 軽自動車税申告書
- C D 印鑑

C D（ナンバー変更あり）

2番窓口

申請書類の確認

7番窓口

ナンバー頒布

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

7番窓口

ナンバー頒布

C D（ナンバー変更なし）

2番窓口

申請書類の確認

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※ 上記の順序は一般的な例です。

ご相談、ご意見はご購入いただいた
販売会社にお問い合わせください。

お問い合わせ先は別冊「メンテナンス ノート」の
「ダイハツ サービス網」をご覧ください。

お問い合わせには、あらかじめ下記の事項について確認のうえ、ご連絡願います。

⑴車名および型式、登録番号
⑵ご購入年月日
⑶走行距離
⑷お客様のご住所、お名前、電話番号

ダイハツ工業株式会社　お客様相談室

フリー コール　0800-500-0182
受付時間　平日　9:00〜19:00
　土日祝　9:00〜17:00
〒664-0831　兵庫県伊丹市北伊丹７丁目67番地

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（http://www.daihatsu.co.jp/privacy/index.htm）

●印刷＝2012年10月11日　●発行＝2012年10月18日<非売品>
●編集＝ダイハツ工業株式会社　サービス部　〒664-0831 兵庫県伊丹市北伊丹７丁目67番地
●発行＝ダイハツ工業株式会社

121018-1

01999-B2267

ダイハツ工業株式会社

シートベルトを締めましょう

車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と
一致しない場合がありますのでご了承ください。